

# 雑誌『科学主義工業』総目次

佐々木 享 編

専修大学社会科学研究所

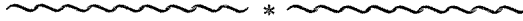
特定研究「日本の近代化」

日本「近代化」における帝国主義の成立と  
「解体」＝再編に関する基礎的研究

## 研 究 資 料

雑誌『科学主義工業』総目次

佐々木 享 編



解 説 …………… 1

総目次 …………… 7

1970年3月

専修大学社会科学研究所

## < 解 説 >

佐々木 享

### 1. 雑誌『科学主義工業』について

雑誌『科学主義工業』は、1937年5月から1945年まで刊行された。はじめの1号、2号は、理研コンツェルン傘下各社の親睦雑誌という性格をもち、理研コンツェルン出版株式会社から発行された。1号は「非売品」となっており、2号から定価がついている。雑誌に「科学主義工業」という名まえをつけたのは、理化学研究所の所長であり理研コンツェルンの総帥であった大河内正敏<sup>(1)</sup>である。第1号に創刊の辞というようなものはなく、刊行のいきさつが編輯後記のなかにつぎのように記されている。

理研コンツェルンの傘下に集り又は新に生れる会社が多くなるに従って、それ等の役員、社員間の精神的、事務的に無連絡、不統一であることはコンツェルンの威力を発揮する上に寔に不利であるので、聯合社報を発行して、斯る欠陥をなからしめようという話が出ていた矢先に、社員間の親睦を図る目的の交友倶楽部が生れ、その部報を出すことが決定されて、編輯係を振り当てられた、理興の安藤、村野両君と私〔田中〕の三人に社報の編輯発行事務をも担当せしめられることになりました。

そこで先づ手軽な菊判又は菊倍判の新聞形四頁を標準として社報と倶楽部報を夫々別に発行する方針で原稿を募集してみると、予想外に応募が多く、とても、この程度では収録しきれないのです。予想外とは全く不都合な次第ではありますが、実際少し甘く考えていたので編輯係としては申訳ないことと大あわてに方針を変更して、社報と倶楽部報を合併して菊判表紙付きの四五十頁の月刊誌にすることにしました — 中略 — これでよいと一切を揃えて会長〔大河内〕に御覧に入れたところ、「どうも思った程原稿が寄らないね」との御言葉である。これ亦編輯係は驚いた。其上「科学主義工業」と題名を付けられたので係りの三人は今更ながら頭脳の遅鈍な事に赤面し大冷汗をかきました。 — 中略 — どうか不十分な点を御叱正御示教仰ぎ、そして次号からは名に背かぬ内容のものに致したいのです。

こうして、『科学主義工業』は、はじめ社内報兼クラブ報として発足するはずのものが、大河内正敏のお声がかかりで、1号はとにかくとして2号から徐々に枠を拡げることになったものなのである。

1号へ寄稿された、実質的に論説らしきものは大河内の「工業の地方分散化と農村工業」だけで、あとは理研各社の動きをつたえる「社報」のほか、「交友倶楽部」「人叢」（随筆・俳句・短歌）「資料」でうめられている。2号には、論説として大河内のほか3名が寄稿しているが筆者はいずれも理研コンツェルン内部の者で、「社報」「交友倶楽部」の欄があるなど、

雑誌の基本的性格は1号と変わらない。

3号になると理研コンツェルン内部の雑誌という枠がはずされてしまう。すなわち、「社報」「交友倶楽部」や社員の投稿欄が姿を消し、これに代って理研外の研究者、評論家（たとえば高橋亀吉、大宅壮一など）の論稿が紙面を埋めている。この号から表紙の科学主義工業という題字のうえに「工業経済総合雑誌」という文字が加えられている。科学・技術・経済を中心とした評論雑誌となったので、発行所も株式会社科学主義工業社となった。科学主義工業社自体も理研コンツェルン傘下の企業として、これ以後『科学主義工業』のほか工業関係の各種の雑誌・図書の刊行をはじめた。

2号と3号とのあいだの大きな方向転換は、すでに第1号の編輯後記である程度予測されたことであるが、第3号の編輯後記のなかではつぎのように説明されている。

科学主義工業とは大河内博士の所論にも看取せられる通り、資本を中心とせる在来の工業態様の対蹠的位置に立つ唱導であって、従来の工業の常套手段たる労働強化・生産制限等の醜態を暴露することなしに、科学を基調として「高賃銀低コスト」の生産をなす工業である。 — 中略 —

本誌は斯ういふ意味で型破りの工業を提唱する工業経済誌であるが、経済人に必要な科学知識を供給し、技術者に緊密な経済知識を提供して、其処に科学と工業との渾然たる境涯を作り出そうとするのである。

以後毎月順調に発行された『科学主義工業』誌は、主唱者の大河内がほとんど毎月寄稿している限りにおいては前述のような趣旨で一貫しているといえるかも知れないが、当時の左右からかなり巾ひろく寄稿されたから、雑誌の性格は大河内の科学主義工業論の枠をはみ出した評論雑誌であった。すなわち、『科学主義工業』誌は、大河内の唱導のもとに生れ、そこに彼の論説が精力的に展開されている点からみて、大河内の独特な経済・経営理念である科学主義工業論<sup>(2)(3)(4)</sup>とその理念をうみ出す基盤をつくった理化学研究所<sup>(5)(6)</sup>の活動、および彼の理念を実際化する（はずの）場であった理研コンツェルンの展開とのかかわりなしに考えることができない。しかしこのことは、この雑誌がいわゆる準戦時体制期から第二次世界大戦末期まで刊行されて、戦時体制の進展とともに左翼陣営の執筆が不可能とされるなどの制限された事情のもとにあったとはいえ、多くの知識人に紙面を提供してきたことの意味を失わせるものではないのである。

『科学主義工業』がとりわけその特徴を発揮しているのは、いうまでもなく、当時の経済問題を科学政策・技術政策・労働力問題などの面から解明するために一貫して多くの紙面をさいてきたことであろう。同誌が刊行されはじめた翌1938年には国家総動員法が制定され、日本資本主義は、本格的な戦時国家独占資本主義の段階にはいる。戦争政策の遂行という課題が、科学・技術の国家的な動員という日本資本主義史上かつてない政策を実現しはじめる。軍需産業の拡張のために、大量の技術者・熟練工の養成が叫ばれ、その強制的な育成がはじめられる。

未利用資源の開発が問題となり、重工業の急速な拡張が図られる。このような課題が提起され、国家の施策として実施にうつされるそれぞれの段階で、『科学主義工業』誌は、現実の矛盾を衝き、侵略戦争の遂行という最も不合理な政策とは本来相容れない科学・技術の動員策を懸命に追求した。戦争がたけなわになるに依じて、世人の科学・技術への関心もたかまっていた。またたかめるような政策がとられた。ジャーナリズムの面から眺めてみると、今日、知られているものをざっとみただけでも『科学ペン』（1936年創刊）、『科学人』（1941年創刊）、『科学技術』、『科学日本』、『科学技術動員』、『科学思潮』（以上1942年創刊）、『科学技術運動』（1943年創刊）などが新たに刊行されはじめたことが知られている。このような状況のなかで、『科学主義工業』誌は、いち早く創刊され、しかも視野を科学・技術の面に限定せず経済・文化面まで拓める努力をしながら、戦時体制を一貫して追求しためずらしい雑誌の一つだったのである。

第二次大戦期の社会・経済の状況とそれをめぐる思想状況については、当時からすでに多くの史料が非公開であり戦後においては少なからぬ史料が意図的に焼却せしめられたなど、史料利用上に制約があり、また利点でもあるはずの当事者の現存することが障害になったりして、科学的な検討がおこたられてきた面があることは否定できない。『科学主義工業』誌はこのような面にたいして少なからぬ問題を提供するものと考えられる。しかし、同誌に載ったのべ三千点に近い論稿のうち極く少数のもの、たとえば三木清・戸坂潤・服部英太郎のものなどはそれぞれ戦後に刊行された全集・著作集に再録されているが、その余の大部分はいわば埋もれたままになっている。

『科学主義工業』誌は、かつて年次総目次を掲載したことがなく、また、編者の知る限り、今日完全に揃えている図書館もないようなので、前述のことを考えあわせ、ここに総目次を製作することにしたものである。

『科学主義工業』誌は、第9巻2号（1945年2月号）までは毎月順調に刊行されたが、翌1945年3月号は印刷所が空襲にあつて原稿が焼失したので発行されなかった。その次の号として第9巻4号（1945年4・5月合併号）が発行されたことは確認されているが、1945年中のそれ以後の発行状況は今日のところ明らかでない。第1号から第9巻4号までで合計94冊になる。

敗戦後、『科学主義工業』は、『科学主義』と改題して発行された。発行所は科学社となっているがこれは科学主義工業社の改称したものである。『科学主義』を所蔵する図書館はひじょうに少ない。一橋大学図書館には第10巻全部（7冊）と第11巻の2冊計9冊が所蔵されている。それによると刊行年月はつぎの如くで、発行が順調でない。

第10巻1号（1946年2月）、2号（3月）、3号（4月）、4号（6月）、5号（8月）、6号（10月）、7号（12月）、第11巻1号（1947年8月）、2号（同年10月）

第11巻2号のあと発行されたかどうか編者は確認していない。第11巻はすでに雑誌のかたちをなしていないから、おそらくこの号くらいで廃刊になったものと推測される。第10巻1号に

は、雑誌名を改題したことについては何ら説明されていない。第9巻の何号かが1945年8月以降に発行されてそこで改題されたのかも知れない。これらの点について事情を御存知の方は御教示いただきたい。

戦後の『科学主義』誌は、敗戦直後の紙不足という事情を反映して薄い(48ページまたは56ページ、第11巻は2冊とも32ページでA6判の小冊子)という形態が貧弱だけでなく、内容も全く生彩ない総合雑誌の一種に過ぎないといってよい。後継誌とはいっても内容の上からみると連続性が弱いし、改題年月も不明なので、総目次には収録しなかった。

- (1) 『大河内正敏，人とその事業』(1954年)
- (2) 戸坂潤「『科学主義工業』の観念」，『唯物論研究』63号(1938年1月号)，のちに『戸坂潤全集』第5巻(1967年)に収録。
- (3) 大河内暁男「『科学主義工業』小論」，川島武宜・松田智雄編『国民経済の諸類型』(1968年)に収録。
- (4) 長幸男編『実業の思想』(1964年)，44—47ページ。
- (5) 板倉聖宣・八木江里「理化学研究所の設立期における科学研究体制 — 理化学研究所の歴史(I)」，『科学史研究』41，42号(1957年)。
- (6) 板倉聖宣「年功序列制と理化学研究所長人事 — 長岡半太郎の『教授の黜陟』論 —」，『科学史研究』92号(1969年)。
- (7) 三宅晴暉『新興コンツェルン読本』(1937年)302—364ページ。

付記。

総目次作製にあたっては、東洋大学所蔵のものと編者所蔵のものを利用したが、両者ともに欠けていた1号，9号については東京工業大学図書館のもの，2巻7号については国会図書館のもの，6巻3号については慶応大学図書館のものを利用させていただいた。

いちいち本文にあたって目次カードに写して整理するめんどろな作業については、池田敬一、沓沢剛生、鈴木良春、都沢章、豊岡基、水谷正英、宮島幸男、原英治の諸君のお世話になった。とりわけ、照合・整理については鈴木君の全面的な協力を得たことを付記しておく。

なお、いくつかの図書館の『科学主義工業』誌の所蔵状況はつぎのとおりである(1970年2月現在)。

国会図書館

2巻6号～8巻12号(1938年11月～1944年12月)

うち欠号。5巻1～11号，6巻2～12号，7巻1～3号，8巻10号。

一橋大学図書館

1巻1号～11巻2号(1937年6月～1947年10月)

うち欠号。2巻1号(1938年1月)，6巻1～6号，8巻8，11号，9巻全部。

慶応義塾大学図書館

1 卷 1 号～ 6 卷 12 号。

うち欠号。1 卷 7 号 (1937 年 12 月), 8 号 (38 年 1 月), 12 号 (38 年 5 月), 2 卷 5 号 (38 年 10 月), 11 号 (39 年 4 月), 12 号 (39 年 5 月), 6 卷 4 号。

東京工業大学図書館

1 卷 1 号～ 5 卷 12 号。

うち欠号。1 卷 12 号 (1937 年 12 月), 2 卷 9 号 (1938 年 4 月)

## 2. 『科学主義工業』総目次について

A. 総目次に収録したものは、つぎの基準にしたがって選択されたものである。

- ① 論文, 雑報, 随想および座談会のうち, 執筆者 (座談会については出席者) の明記されているもののみを採録した。
- ② ただし, 巻頭言 (4 卷 1 号 = 1940 年 1 月号より。それ以前にはない), 人物月旦, 会社評論 については, 無署名・イニシャルのみの署名のものをもふくめすべて採録した。
- ③ たとえばつぎのような記事は, まれに筆者が明記されていても, 採録しなかった。  
「工業家のための法令抄」, 「経済トピック」, 「研究所めぐり」, 「文化評論」, 「文化メモ」, 「資料」, 「生産現地通信」, 「科学セクション」, 「編集後記」
- ④ 以上にかかわらず, 1 号については例外として記事の全部を収録した。

B. 記載の順序

各号ごとに, 1 ページから順に並べることを原則とした。執筆者 (座談会の場合は出席者), 題目, ページ数の順。3-7 は 3 ページから 7 ページにわたっていることを示している。たんに 44 とあるはそのページ限りであることを示している。

C. 論文 (座談会) の題目については, 次の基準にそって整理した。

- ① 雑誌の巻頭にある目次の題目と本文のそれとが異っている場合には, 本文につけられた題目を採録した。
- ② かなづかいは現代かなづかひになおした。
- ③ 漢字のうち旧字体は当用漢字になおした。
- ④ 原則としてサブタイトルは入れなかった (ついているものが少ない)。
- ⑤ 特輯論文については, つぎのように整理した。
  - a. たとえば 3 卷 7 号 (1939 年 12 月号) の下記のような場合,

特輯 特殊鋼と技術的諸問題

玉置正一 本邦特殊鋼技術の現状

吉川晴十 軍需資材としての特殊鋼

本文の題目だけで内容を推測しうるものについては、「特輯」の文字と特輯の題目（上例の下線の部分）の全部を削除した。

b. たとえば5巻12号（1941年12月号）のように、

特輯 米國兵器産業を衝く 永村清 船舶工業の現勢
-----------------------------

特輯の題目をとり去ると内容を正確に示さないおそれがあるときには、

永村清 米國兵器産業を衝く — 船舶工業の現勢
-------------------------

として示した。「特輯」の文字が使っていないときにも、同様に扱った。

⑥ <技術家小伝><技術者小伝>はそのままにし、あえて統一しなかった。

⑦ たとえば5巻12号（1941年12月号）の「南進・北進」といういわゆるかこみ記事は<随筆>となおした。「興亜随筆」「産業随想」などはたんにそれぞれ<随筆><随想>とした。

⑧ 「人物月旦」等は、すべて<人物月旦>に統一して示した。

D. 筆者名について。氏名が本文と巻頭の目次とで異っている場合（6巻4号，6巻5号に各1件）は、本文の方を採用した。

今日、ペンネームであることが判名している者については、本名を〔 〕内に入れて示した。たとえば東条恒雄〔三枝博音〕。

以 上。

この研究資料は、昭和44年度特定研究「日本の近代化」（日本「近代化」における帝国主義の成立と「解体」＝再編に関する基礎的研究）の研究の一部である。



## 雑誌『科学主義工業』総目次

### 1巻1号(1938年5月号)

- 大河内正敏 「工業の地方分散化と農村工業  
(一)」2—6
- 西川光次 「鉄相場」7—10
- <社報>「人事事項——理化学興業株式会社  
・理研ピストンリング株式会社・他4社」  
11—12
- <社報>「庶務事項——理化学興業株式会社  
・理研ピストンリング株式会社・他4社」  
13—14
- <社報>「庶務事項——理研護謨工業株式会  
社設立」15—18
- 荒木重義 <社報>「理研コンツェルン懇話  
会」19—20
- <社報>「理研コンツェルン各社紹介——理  
化学興業株式会社、他25社」21—23
- <社報>「営業紹介——理化学興業株式会  
社・理研庄延工業株式会社・理研鋼材株式会  
社・リケノーム販売部」24—37
- 磯野信威 <交友倶楽部>「理研コンツェル  
ン交友倶楽部設立趣旨」38—41
- 安藤 孝 <交友倶楽部>「設立打合会の概  
況及び第一回定期晩餐会について」41—43
- <交友倶楽部>「新潟県支部設立」43—45
- 外山昇二 <交友倶楽部>「スキー部便り」  
45—48
- 安井四郎 <交友倶楽部>「理球部便り」48  
—49
- <東郷会>「理研ピストンリング東京工場支  
部」50—53
- 大久保八朔 <文叢>「蘭蕙の趣味」54—57

- 磯野風仙子 <文叢>「楓の芽」57—58
- 村野四郎 <文叢>「季節の窓」58—59
- 安藤十四行 <文叢>「京都にて」59

### 1巻2号(1937年6月号)

- 大河内正敏 「工業の地方分散化と農村工業  
(二)」4—15
- 宮部 甫 「研削砥石及び研削仕事に就て」  
16—28
- 今富祥一郎 「マグネシウム工業について  
(一)」29—33
- 魚谷伝太郎 「原価計算と工場会計(一)」  
34—36
- 荒木重義 「理研コンツェルン懇話会」47—  
48
- 大河内正敏 <交友倶楽部>「理研コンツェ  
ルンの使命」59—71
- 安藤 孝 <交友倶楽部>「第2回晩餐会」  
72—73
- 三好惣次 <交友倶楽部>「大阪支部生る」  
73—74
- <交友倶楽部>「新潟支部第2回定期集会」  
74—75
- S・A生 <雑纂>「浦里村ドリル工場見聞  
記」76—77
- 西川光次 <雑纂>「天長節と越後」77—80
- 理研ピストンリング株式会社 <雑纂>「販  
売課講演会」80—81
- 理研ピストンリング株式会社東京工場 <雑  
纂>「運動会」81—82
- 柏崎工場 <雑纂>「園遊会開催」82—83

柿崎工場 <雑纂>「園遊会風景」83—84

理研圧延工業株式会社王子工場 <雑纂>

「桃を見歩く」84—85

理研感光紙株式会社 <雑纂>「観桜会」85

白根工場 <雑纂>「お花見」85—87

安井四郎 <雑纂>「夏山の話」87—88

目々沢環 <雑纂>「困碁会」88—89

磯野風仙子 <文と人>「理研コンツェルン

風景, その他」90

川村余四 <文と人>「春の句」91

<人と文>「理興句会雑詠」91

村野四郎 <文と人>「季節の窓」92—93

### 1 卷 3 号 (1937年 8 月号)

大河内正敏 「科学主義工業と金の増産」2

— 7

川西正鑑 「科学主義工業と工業立地」8—

17

高橋亀吉 「日本工業最近の発展と其動向」

18—32

谷藤崇徳 「準戦体制下に於ける本邦航空工  
業概観」34—47

本郷寿次 「地方工業化の話」48—55

大宅壮一 「伍堂卓雄(人物月旦)」58—61

三宅晴輝 <随想>「新興コンツェルンに寄  
す」64—68

大河内正敏 <随想>「産業戦と技術家の癖」

69—71

宮部 甫 <時代の科学>「センターレス・  
グラインダーに就て」83—90

馬場栄夫 <時代の科学>「ナトリウムを語  
る」91—95

黒田正夫 <時代の科学>「最近の金属顕微  
鏡(一)」97—105

横山達一 <時代の科学>「再生護謨工業に  
就て」106—114

上田輝雄 <講座>「電気機器応用に於ける  
将来の動向(一)」115—117

### 1 卷 4 号 (1937年 9 月号)

大河内正敏 「農村の工業と副業」2—15

谷口吉彦 「統制経済と計画経済」16—23

土方成美 「暴利取締令と経済的愛国運動」  
24—26

勝田貞次 「重工業景気論(一)」27—36

猪谷善一 「日本貿易の非常時の全貌」37—  
43

乗杉研寿 「貿易の対象としての機械工業」  
46—54

岡庭 博 「本邦中小工業金融の現況に就て」  
54—59

棚橋啓三 「生絲工業工程の改革」61—65

大越 諄 「最新兵器を語る」66—78

大宅壮一 「吉野信次(人物月旦)」81—83

三枝博音 「技術学のグレンツ・ゲビット」  
84—91

隈部一雄 <随筆>「大学と研究所」92—94

竹内時男 <随筆>「戦争と理学者」94—97

志村繁隆 <随筆>「秋の海」97—99

黒田正夫 「最近の金属顕微鏡(二)」112  
— 116

伊原貞敏 <工学講座>「ポンプと其応用  
(一)」118—124

上田輝雄 <工学講座>「電気機器応用に於  
ける将来の動向(二)」125—127

宮部 甫 <工学講座>「工作機械設計の基  
礎(一)」128—136

1 卷 5 号 ( 1937年10月号 )

- 大河内正敏 「農村の工業と副業」 2—18  
土屋喬雄 「我国近代工業の発展段階」 19—  
26  
美濃口時次郎 「最近に於ける我国産業の発  
展と労働人口」 29—39  
阿部 勇 「戦時経済と非常時財政の相貌」  
40—45  
金原賢之助 「資金統制と産業界」 45—52  
檜崎敏雄 「戦時体制下の貿易政策」 53—58  
高橋 一 「戦時金融統制に就て」 58—62  
田中章一 「軍需工業動員法の発動」 62—66  
三輪寿壮 「戦時体制下の労働者」 69—73  
小島精一 「戦時経済下のわが燃料問題」 74  
—80  
出弟二郎 「戦争と電力動員」 83—91  
黒田龍馬 「支那事変と我が紡績界」 92—  
101  
不破棄一郎 「株式市場から見た支那事変」  
101—106  
勝田貞次 「重工業景気論(二)」 108—  
118  
沢村克人 「確安問題の再認識」 120—128  
田端耕造 「ガラス工業に於ける最近の問題  
二三」 130—134  
西沢勇志智 「化学戦と化学工業」 136—  
148  
杉山平助 「結城豊太郎と鮎川義介(人物月  
旦)」 150—153  
戸坂 潤 「技術的精神とは何か」 154—  
162  
岸田日出刀 <随筆> 「ゴルフのボールと力  
学」 163—166  
宮本武之輔 <随筆> 「空の旅」 166—168

- 鈴木庸生 <随筆> 「高麗行」 169—173  
西田正孝 「光弾性実験に就て」 189—195  
上田輝雄 <講座> 「電気機器応用に於ける  
将来の動向(三)」 196—199  
宮部 甫 <講座> 「工作機械設計の基礎  
(二)」 200—208  
伊原貞敏 <講座> 「ポンプとその応用(二)」  
211—213

1 卷 6 号 ( 1937年11月号 )

- 大河内正敏 「機械工業と生産費」 2—32  
中山伊知郎 「資本の生産力に就て」 34—43  
石浜知行 「金政策の批判」 46—54  
宮田応義 「工業品規格統一事業」 56—59  
佐野秀之助 「資源涸渇対策——石炭資源の  
将来」 61—70  
吉村万治 「資源涸渇対策——印度の鉄鉍資  
源と我国」 70—80  
小林良之助 「資源涸渇対策——液体燃料資  
源」 83—87  
高 壮吉 「資源涸渇対策——非常時に於け  
る重要なる非鉄金属資源の涸渇対策」 90—  
101  
上田嘉助 「資源涸渇対策——時局とバルブ  
問題」 102—105  
河野 密 「資源涸渇対策——労働力補給の  
問題」 107—114  
小島精一 「戦時経済下のわが燃料問題  
(二)」 121—125  
中島清二 「工業地域論」 126—131  
暉峻義等 「現下の熟練工不足問題を中心と  
して」 132—136  
中村圭二郎 「会社評論——日本電工、三菱  
鉍業」 138—142

- 小汀利得 「小林一三と松永安左衛門(人物月旦)」144—147
- 小栗捨蔵 「工業用水に就て」148—154
- 関 重広 「光電管の応用」156—160
- 三木 清 「技術と文化」162—167
- 小野澄之助 <随筆>「理論と応用」172—175
- 加藤多喜雄 <随筆>「科学者の姿」175—178
- 小林政一 <随筆>「防空と建築」178—181
- 大河内正敏 <随筆>「ダムダム弾, 博愛弾, 尖頭弾」181—183
- 上野誠一 「油脂を語る」193—200
- 渡辺軍治 「最近の注目すべき発明」201—208
- 上田輝雄 <工学講座>「電気機器応用に於ける将来の動向(四)」210—216
- 宮部 甫 <工学講座>「工作機械設計の基礎(三)」218—225
- 伊原貞敏 <工学講座>「ポンプとその応用(三)」226—233
- 1巻7号(1932年12月号)
- 大河内正敏 「資本主義工業と科学主義工業」2—12
- 郡菊之助 「科学的産業経営と統計法」14—18
- 美濃部洋次 「機械工業の助成と工業組合」19—27
- 奥田寛太郎 「工業教育些言」29—36
- 風早八十二 「生産力拡充問題再検討——日本産業機構と生産力拡充」39—48
- 荒木光太郎 「生産力拡充問題再検討——金融機能の変質と金融機構の新編成」48—53
- 片山 哲 「生産力拡充問題再検討——生産力拡充に関し工場法改正を提唱す」55—63
- 辻 二郎 「生産力拡充問題再検討——産業拡充と物理学」66—70
- 内田俊一 「生産力拡充問題再検討——生産力拡充と化学工業」71—77
- 海老原敬吉 「生産力拡充問題再検討——生産拡充と工作機械工業」79—82
- 暉峻義等 「現下の熟練工不足問題を中心として(二)」83—92
- 諸井貫一 「技術と経済」94—98
- 升金種史 「郷誠之助と池田成彬(人物月旦)」105—109
- 中村圭二郎 「会社評論——日本産業, 日東紡績」110—113
- 大西清治 「労働医学講座」115—122
- 池島重信 「技術と芸術」124—131
- 上野誠一 「油脂を語る」132—142
- 荒木重義 「(クリニック)を語る」158—161
- 山本忠興 <随筆>「科学と芸術」162—164
- 堀内利器 <随筆>「日本人の模倣性」164—168
- 佐藤武夫 <随筆>「ミッキーマウスのなも」168—169
- 竹内時男 <随筆>「生存と数学」169—171
- 榎本セツ <技術者小伝>「ウェスチングハウス」173—175
- 石川政吉 「蒸汽の利用と蒸汽原動機界の動向」176—188
- 上田輝雄 <工学講座>「電気機器応用に於ける将来の動向(五)」190—195
- 宮部 甫 <工学講座>「工作機械設計の基

- 礎(四)」196—201
- 伊原貞敏 <工学講座>「ポンプと其応用  
(四)」203—209
- 1 卷 8 号(1938年1月号)
- 大河内正敏 「資本主義工業と科学主義工業」  
2—10
- 猪谷善一 「植民地経済学序説」11—18
- 風早八十二 「日本産業資本の価値構成の変  
化を通じて見た生産力拡充」20—29
- 小沢正元 「北支に於ける人口構成」31—38
- 越智元治 「北支那経営策」41—49
- 佐藤寛治 「北支の農業の将来をどう見る」  
50—55
- 山崎靖純 「北支の採るべき工業政策」57—  
66
- 大河内正敏 「北支の工業」68—76
- 北島三省 「北支技術建設——北支に於ける  
化学工業の建設策」135—145
- 住吉信吾 「北支技術建設——工業塩の資源  
確保と北支長蘆塩の地位」109—120
- 永井彰一郎 「北支技術建設——金属アルミ  
ニウム及び高級耐火物の製造原料を北支資  
源に求む」122—133
- 小山一郎 「北支技術建設——北支の金鉱及  
砂金」102—108
- 門倉三能 「北支技術建設——北支の鉄鉱」  
85—100
- 大森仁茂 「北支技術建設——北支採炭業開  
発策」78—84
- 鈴木 巖 「北支技術建設——北支棉作再建  
論」146—155
- 仙波泰雄 「北支技術建設——北支の羊毛」  
157—164
- 生島広治郎 「北支技術建設——山西省の紡  
織工業」165—169
- 出弟二郎 「北支技術建設——北支電力資源  
開発私見」170—177
- 木村金太郎 「北支技術建設——北支に於け  
る水産業の現況と水産製造事業の発展策」  
178—183
- 藤井真透 「北支技術建設——北支の土木建  
設策に就て」185—190
- 茂庭忠次郎 「北支技術建設——緊急を認む  
る北支の水道施設」191—203
- 佐々木義夫 「北支経済開発と株式界の動向」  
206—216
- 嘉治隆一 「支那事変とソ連邦の極東政策」  
217—223
- 斎藤直幹 「北支国防論」224—232
- 中尾 彰 「北支を覗く」233—236
- 阿部真之助 「岩崎小弥太と三井高公(人物  
月旦)」241—246
- 中村圭二郎 「会社評論——南満州鉄道・宮  
製鋼所」248—251
- 大西清治 「労働医学講座(二)」252—  
259
- 関口八重吉 <随想>「機械を通して見たる  
国民性」276—278
- 住江金之 <随想>「人魂の正体」278—  
281
- 志村繁隆 <随想>「瓜生野」281—284
- 加藤与五郎 <随想>「国家的産業企画は遠  
大で独創的でありたし」284—287
- 丸山善樹 <工業商品講座>「絹織物に就て」  
288—290
- 岡 邦雄 「技術と社会」292—300
- 榎本セツ <技術者小伝>「パーキン」301

宮部 甫 <講座>「工作機械設計の基礎  
(五)」306—312  
伊原貞敏 <講座>「ポンプと其応用(五)」  
314—320

1 卷 9 号 (1938年 2 月号)

大河内正敏 「資本主義工業と科学主義工業」  
2—13  
増地庸治郎 「工業の科学的経営」16—21  
大熊信行 「日本経済学の運命」23—32  
山中篤太郎 「我国工業政策の変遷」35—45  
木暮武太夫 「事変下に於ける我国工業に対  
する政府の方策」46—51  
河上丈太郎 「戦時経済断想」53—60  
栗栖勉夫 「生産拡充資金と起債市場の打開」  
61—64  
長谷川基 「軍需工業政策概論」66—79  
杉山正雄 「鉱山業から見た工業政策」80—  
87  
波多野貞夫 「機械工業より観たる工業政策  
その他の発展策」88—92  
下光太郎 「化学工業から見た工業政策」94  
—100  
長谷川健一 「戦時下の工業政策」101—  
108  
勝田貞次 「日滿北支ブロック論」111—  
129  
門倉三能 「北支の鉄鉱」130—151  
目崎保雄 「会社評論——日本郵船、東亜煙  
草」160—165  
谷川徹三 「日本文化と科学精神」166—  
169  
岩崎 栄 「大倉喜七郎と久原房之助(人物

月旦)」171—176

大西清治 「労働医学講座」177—183  
山口珪次 「独逸に於ける技術工の養成」  
188—196  
田端耕造 「着色ガラスの話」197—204  
大越 諄 「弾丸の行方」205—212  
石原純、慶松キタ、藤田みち、近藤なほ、小  
栗礼子、佐伯栄子、沖島アイ、平沼サツキ、  
記者四名 <座談会>「石原純博士を囲む  
科学グループ座談会」220—228  
卯水生 「黄土記抄」229—233  
内丸最一郎 <随想>「水力学から思付いた  
世想及人相」234—237  
清水与七郎 <随想>「冥土との通信機」  
237—241  
北沢五郎 <随想>「地下への建築」241—  
243  
内田清之助 <随想>「奇遇」243—245  
矢野道也 「紙の使用の合理化と節約」246  
—248  
岡田博道 <工業商品講座>「小麦粉」249  
—251  
榊本セツ <技術者小伝>「モールス」252  
—254  
隈部一雄 「専門外の人の為の内燃機関概論  
(一)」256—263  
伊原貞敏 <講座>「ポンプと其応用」264  
—273  
宮部 甫 <講座>「工作機械設計の基礎  
(六)」274—278

1 卷 10 号 (1938年 3 月号)

大河内正敏 「資本主義工業と科学主義工業  
(完)」2—17

- 村本福松 「生産力拡充と人間活動の推進力」 176 — 179
- 21—30
- 富塚 清 「工業教育の革新」 32—37
- 夙川喜雄 「大陸進出——日本の産業と東洋に於ける国際情勢」 41—49
- 木村増太郎 「大陸進出——今後の我国産業と金融関係」 50—58
- 浅沼稻次郎 「大陸進出——新日本の産業と労働」 61—68
- 佐野秀之助 「大陸進出——日本・満州・北支の石炭鉱業」 70—75
- 吉川晴十 「大陸進出——日本を中心とする鉄鋼業」 78—88
- 横堀治三郎 「大陸進出——金鉱資源に就きて」 91—98
- 益本進田 「大陸進出——北支の電気事業に就て」 100 — 111
- 野口尚一 「大陸進出——満州の機械工業管見」 112 — 116
- 北野清秀 「大陸進出——吾国工業塩の将来」 117 — 126
- 庄司 務 「大陸進出——本邦曹達工業は今日の隆昌は如何にして招来したか」 128 — 135
- 岡田元枝 「大陸進出——国策と人造絹糸」 136 — 139
- 片倉三平 「大陸進出——バルブ増産計画とスフ工業の将来」 140 — 142
- 猪谷善一, 岡部正雄, 門倉三能, 高橋亀吉, 藤沢威雄, 山崎靖純 「大陸進出——大陸進出を語る会」 143 — 165
- 大西清治 「労働医学講座(四)」 171 — 175
- 沢柳謙治 「会社評論——鐘紡は何処へ行く」 176 — 179
- 西田博太郎 「繊維工業より見たる本邦工業政策」 181 — 190
- 小汀利得 「井上憲一と膳桂之助(人物月旦)」 191 — 196
- 門倉三能 「北支の鉄鉱」 197 — 208
- 佐藤信衛 「発明について」 209 — 217
- 長谷川正道 「小銃の歴史」 225 — 232
- 鴨居 武 <随想> 「相撲と科学」 234 — 235
- 北島三省 <随想> 「千人針」 235 — 239
- 福井玉夫 <随想> 「倚存根性と寄生虫根性」 239 — 242
- 東大居士 <随想> 「機械技術者の需要」 243 — 244
- 八木静一郎 「本邦紡織業の発達」 245 — 248
- 榎本セツ <技術者小伝> 「ジェームズ・テスミス」 250 — 259
- 岡田博道 <工業商品講座> 「小麦粉(二)」 260 — 262
- 伊原貞敏 <講座> 「ポンプと其応用(七)」 264 — 267
- 隈部一雄 <講座> 「専門外の人の為の内燃機関概論(二)」 268 — 275
- 1 卷11号(1938年4月号)
- 大河内正敏 「産金政策の強化」 2—10
- 高橋亀吉 「事変物価の特徴と現下物価問題の重点」 13—22
- 鮎沢 巖 「国際労働機関と日本」 24—45
- 小池四郎 「文官任用令の改正問題」 47—52
- 阮 振鐸 「盟邦日本の産業界に寄す」 55—57

- 小林亀久雄 「対日経済圧迫問題」 58—62
- 南 袋二 「経済封鎖恐るるに足りず」 64—73
- 黒田龍馬 「石油封鎖は机上論」 75—83
- 長谷川熊彦 「貧鉄鉍処理の動向」 84—93
- 井上克巳 「低品位ニッケル鉍よりニッケル回収の急務」 95—100
- 鴨居 武 「どんな化学製品が輸入されるか」 102—110
- 中井武雄 「パルプ国策に就て」 111—123
- 福田 勝 「戦時工業と電気」 124—126
- 前田梅松 「日産の移駐から満業の成立まで」 127—136
- 宮本武之輔 「大陸発展と技術」 137—146
- 田中 弘 <時事寸感> 技術国家管理, 技術省設置を提唱す」 147—148
- 上田嘉助 <時事寸感> 「パルプ問題と研究機関」 148—151
- 山崎靖純 <時事寸感> 「統制は統制を呼ぶ」 152—156
- 井沢真太郎 「南洋を見る」 157—160
- 沢柳謙治 「会社評論——地下鉄と大日本麦酒」 163—166
- 升金種史 「十河信二と中野有礼(人物月旦)」 167—172
- 新明正道 「科学と社会」 179—186
- 田端耕造 「着色ガラスの話」 189—194
- 北野清秀 「化学戦と工業塩」 197—203
- 大河内正敏・暉峻義等・田中章一・星野一也 「大河内正敏博士と暉峻義等博士の問一答」 205—230
- 津村秀松 <随筆> 春窓綺談」 233—238
- 中原虎男 <随筆> 「病床随想」 239—245
- 下村海南 <随筆> 「野球と科学」 245—248
- 石原 純 <随筆> 「一つの悲劇」 248—252
- 榎本セツ <技術者小伝> 「シーメンス兄弟」 255—265
- 岡田博道 <工業商品講座> 「人造繊維製品」 267—271
- 隈部一雄 <講座> 専門外の人の為の内燃機関概論(三)」 272—279
- 1 卷12卷(1938年5月号)
- 大河内正敏 「熟練工の養成」 2—11
- 蠟山政道 「技術と行政」 13—23
- 石橋湛山 「輸入為替の許可制を撤廃すべし」 25—32
- 出弟二郎・嘉治隆一・野口尙一・山内英太郎・山根新次・鈴木巖・田中主幹 「戦後の経営を語る会」 34—54
- 安田庄司 「戦後経営——四十八億円の次に来るもの」 55—61
- 荒木光太郎 「日銀保証準備拡張問題を繞りて」 63—72
- 和田日出吉 「戦後の生産拡充」 74—80
- 吉川晴十 「戦後の鉄鋼業」 81—87
- 永沢謙三 「戦後の工作機械工業対策」 89—93
- 永井彰一郎 「北支及中支の経営開発とセメント」 94—104
- 笠間梶雄 「英米両国今後の動向」 107—117
- 山口 昇 <時事寸評> 「会議倒れの日本の学界」 118—120
- 前田梅松 <時事寸評> 「軽工業と重工業」 120—125



- 斎藤崇徳 <時事寸評>「航空機製造事業  
 法」126—132  
 沢柳謙治 「会社評論——内外綿と東京電  
 燈」133—136  
 猪谷善一・小汀利得 「独善を衝く(官界  
 の巻)」138—147  
 三浦伊八郎 「製紙用パルプの将来」149  
 —161  
 伴 義定 「列強と人造石油工業」163—  
 171  
 小山一郎 「金は如何にして採るか」173  
 —181  
 門倉三能 「北支の鉄鉞(完)」182—  
 196  
 三枝博音 「技術文化と精神」197—207  
 友田宜孝 <在外所感>勤勉は世界を制す  
 209—215  
 上田貞次郎 <隨筆>「入学試験」217—  
 219  
 志村繁隆 <隨筆>「変り種一人」220—  
 223  
 宮城音五郎 <隨筆>「胃潰瘍」224—  
 227  
 本田正次 <隨筆>「声」227—229  
 榎本セツ <技術者小伝>「モーズレー」  
 239—248  
 岡田博道 <工業商品講座>「紙類及紙製  
 品(一)」251—256  
 隈部一雄 <講座>「専門外の人の為の内  
 燃機関概論(四)」259—271  
 大河内正敏 「多能熟練機械工と技術者の  
 養成」2—13  
 厚木勝基 「人絹今昔物語(一)」15—24  
 小池四郎 「科学国策と技術官」27—35  
 富永宣二 「独逸総統ヒトラーの訪伊問題」  
 36—39  
 馬場秀夫 「ソ連の対日表情」39—44  
 石原 純 「統制の科学的意義」46—59  
 太田宇之助 「若い支那人二人」61—67  
 加藤与五郎 「今日資源研究の意義は重大で  
 ある」69—74  
 西村真琴 <隨想>「村の人物」75—78  
 沢柳謙治 「会社評論——東京ガスと日本石  
 油」81—84  
 猪谷善一 「転換期に立つ日本経済——資本  
 主義の修正」85—120  
 野崎龍七 「転換期に立つ日本経済——転換  
 期日本の経済」122—136  
 三宅晴輝 「転換期に立つ日本経済——集中  
 的計画経済の外なし」138—144  
 美濃部洋次 「転換期に立つ日本経済——工  
 業政策の日本的転換」145—170  
 岩崎 栄 「双葉山, 王克敏, 中野正剛(人  
 物月旦)」172—175  
 高柳賢三 <隨想>「ヨセミテ」177—179  
 田杉 競 「日本の工業化と新興コンツェル  
 ン」180—194  
 木々高太郎 <科学小説>「跛行文明(完)」  
 195—206  
 藤沢威雄 「科学動員と科学審議会」208—  
 215  
 海野十三, 竹内時男, 辻二郎, 永井彰一郎,  
 林 巖, 田中主幹 <座談会>「百年後の夢  
 を語る会」216—244  
 金子鷹之助 <隨想>「科学・精神・産業」  
 246—251

- 井伏鱒二 <創作>「甲州言葉」252—260  
 瀬藤象二 「計画的教育体制論」263—272  
 山県昌夫 「船型試験の経済的価値」275—283  
 池島重信 「科学と文芸」285—293  
 三島康夫 「第三期支那空軍」295—298  
 植村癸巳男 「軌近物理探鉱法督見」303—314  
 山口貫一 <時事寸評>「一観点より見たる熟練工問題対策」316—321  
 棚橋啓三 <時事寸評>「非常時に於ける国産繊維の利用」321—325  
 岡田博道 <商品の話>「紙類及紙製品(二)」327—332  
 榎本セツ <技術者小伝>「マルコーニ」334—343
- 2巻2号(1938年7月号)
- 大河内正敏 「生産力拡充と自給自足」2—7  
 土方成美 「徒然草にあらわれたる日本人の生活態度」9—25  
 豊崎 稔 「後進型国民経済と統制経済の基本様式」27—37  
 西村真次 <随筆>「蒲葵生うる鳴」39—43  
 長谷川如是閑 「教養の本質」45—55  
 大山卯次郎 「防共枢軸の相貌」57—66  
 武内文彬 「蘆溝橋一年」67—71  
 林癸未夫 「事変を繞る外交と貿易」73—76  
 厚木勝基 「人絹今昔物語(二)」82—92  
 佐藤 弘 「世界市場分割に於ける日本の勢力圏」95—107  
 永田 清 「世界軍拡財政と日本」108—121
- 波多野鼎 「景気震源地・日本」124—133  
 寮 佐吉 「世界に於ける日本の科学の地位」134—144  
 飯田清三・勝田貞次・金原賢之助・野崎龍七・三宅晴輝・山崎靖純 <座談会>「『世界経済と日本経済』を語る会」146—168  
 森田たま <創作>「神楽坂時代」175—185  
 伊藤正徳 「改造近衛内閣に於ける諸問題—内閣の改造と政党」187—192  
 上野伝七 「改造近衛内閣に於ける諸問題—池田新蔵商相の打たんとするあの手この手」193—198  
 伊藤金次郎 「板垣陸相と宇垣外相」199—207  
 渡辺政人 「現下の製鉄国策私論」209—216  
 成瀬無極 <随筆>「詐欺師の告白」218—222  
 富永正義 「黄河をどうする」229—239  
 沢柳謙治 「会社評論——三菱鉱業・日本製鉄・富士瓦斯紡績」241—249  
 佐藤信衛 「新しい技術家」251—258  
 谷口吉郎 <随筆>「出会った葬式」260—262  
 小山謙吉 <技術者小伝>「ジェームズ・ワット」264—273  
 丘丘十郎 <科学小説>「宇宙女囚第1号」278—289
- 2巻3号(1938年8月号)
- 大河内正敏 「資源論」2—11  
 谷口吉彦 「消費節約と戦時貿易」13—21  
 中西貞喜 「国民に訴う」24—33

- 杉村広蔵 「新なる産業秩序の倫理」 35—47
- 小泉丹 <随筆> 「私の博物志」 49—53
- 井村竹市 「製鉄の国策的使命」 55—61
- 俵 国一 「金属統制への寄与」 63—66
- 吉川晴十 「鉄鋼統制と技術者の積極的参加」  
66—71
- 湊 一磨 「鉄鋼統制と造船業」 73—76
- 武富英一 「鉄鋼統制問題と建築業」 77—79
- 岩崎 栄 「松岡洋右, 宋美齡(人物月旦)」  
81—86
- 増地庸治郎 「経営より見たる産業の転換」  
90—95
- 依田信太郎 「中小平和産業の転換」 96—  
102
- 夙川喜雄 「転換資金を論ず」 104—108
- 大場弥平 <随筆> 「殲滅戦」 111—115
- 富永正義 「黄河をどうする(二)」 116—  
128
- 厚木勝基 「人絹今昔物語(三)」 130—  
140
- 三枝博音 「テヒニイクとテヒノロギ——  
日本技術史覚書」 144—152
- 亀井貫一郎 「ドイツの産業精神」 155—  
159
- 上野伝七 「会社評論——東洋レーヨン, 不  
二越鋼材工業, 小野田セメント」 160—  
167
- 河野 密 「戦時労働力の再編成」 173—  
178
- 前田梅松 「綿業統制の高度化」 178—183
- 柴田捷三 「綿業の非常管理に処して」 185  
—189
- 藤島雅一路 <随筆> 「白髪三千丈的建築談  
義」 191—194
- 神原 周 「ゴム対策を語る」 195—200
- 永井彰一郎 「非常時局下の金属代用品とし  
ての窯業製品」 202—210
- 清水 誠 「皮革に代るべきもの」 212—  
216
- 小山謙吉 <技術者小伝> 「ベセマー」 217  
—223
- 尾崎士郎 <創作> 「山峡雨泊」 229—239
- 2 卷 4 号 (1938年 9 月号)
- 大河内正敏 「資源論」 2—13
- 飯田清三 「極東経済の再編成」 15—21
- 桐原葆見 「『産業報国』の方向」 23—30
- 山本為三郎 <随筆> 「本邦ビール話」 32  
—35
- 高橋三郎 「電力国家管理と全国工業化」 36  
—40
- 平竹伝三 「ソ連の工業力を打診す」 42—48
- 早瀬利雄 「生産技術の社会的理念」 50—55
- 朝倉希一 「技術者の統制問題」 61—63
- 山中篤太郎 「経済政策とその一元化」 65—  
74
- 檜崎敏雄 「日本商工会議所の輸出貿易振興  
策を読む」 76—80
- 藤田武雄 「3億円の運用」 81—85
- 大久保基吉 「最高価格・リンク制下の人絹  
工業」 87—91
- 平岡敏男 「北支紡績論」 92—96
- 岩崎 栄 「津田信吾, 村田省蔵(人物月旦)」  
98—104
- 真島正市 <随筆> 「五官の補強工作」 105  
—109
- 小原亀太郎 「新代用品論」 113—122
- 三枝博音 <日本技術史覚書> 「技術の歴史

と人間の歴史」123—131  
厚木勝基 「人絹今昔物語(四)」133—  
145  
浦本政三郎 「科学振興調査会の問題——吾  
等の期待」147—157  
本田弘人 「科学振興調査会とは何か」158  
—160  
増岡尙士 「職業助成より見たる中小工業の  
経営」162—166  
三輪寿壮 「転業助成と失業救済に関し当局  
に献言す」167—171  
大河内正敏 <随筆>「東京湾の青鯧釣り」  
173—181  
U・M生 「会社評論——石井鉄工, 昭和肥  
料, 日本電気」183—189  
小山謙吉 <技術者小伝>「田熊常吉」191  
—198

#### 2巻5号(1938年10月号)

大河内正敏 「資源論」2—12  
豊崎 稔 「日本産業改組論」14—28  
天野健雄 「物価統制による配給機構の新体  
制」29—35  
新明正道 「道具の社会的理念」41—47  
小幡重一 <随筆>「高音取締」49—52  
赤松 要 「鉄鋼の割当経済とその展望」53  
61  
安田庄司 「鉄鋼切符割当制度の検討」63—  
69  
野沢秀信 「児玉謙次と安川雄之助(人物月  
旦)」70—76  
石原 純 「現代の理想」78—87  
木村秀政 「航空工学の課題」89—93  
近藤泰夫 「防空施設を語る」94—101

田辺朔郎 <随筆>「三大隧道石片の談」  
102—104  
三枝博音 <日本技術史覚書>「開物の思想  
と鉱業技術」105—113  
小池四郎 「戦時並に戦後に於ける財政経済  
確立のための産金の飛躍策」114—123  
池田謙三 「銅の増産と技術者の協力」125  
—131  
鈴木宗正 「失業対策と中小工業経営の方途」  
135—140  
辻 二郎 <随筆>「災害」142—146  
暉峻義等 「人間と機械との関係」147—  
153  
鯉沼茆吾 「労働による体質の改善」155—  
161  
上野陽一 「能率上より見たる交替制の意義」  
163—167  
美濃口時次郎 「新たなる労働力の配分統制」  
169—177  
武田晴爾 「事变下の産業災害予防問題」  
179—186  
上野誠一 <随想>「研究する者の立場」  
189—192  
小山謙吉 <技術者小伝>「ディーゼル」  
195—203

#### 2巻6号(1938年11月号)

大河内正敏 「資源論(完)」2—16  
小林行昌 「保護関税と産業の発展」18—26  
高木寿一 「戦時経済編成の整備と政府の指  
導能力」28—35  
野口孝重 <随筆>「齢の効・齢の咎」37—  
39  
福田敬太郎 「計量産業建設の方途」40—47

宮城音五郎 「科学者と社会」51—58

酒井正三郎 「我が国羊毛工業の更生発展策」

61—69

志方益三 「パルプ代用資源論」71—81

三枝博音 <日本技術史覚書>「冶金の思想  
と歴史」83—91

小平権一 「農村労働力維持の必要」95—99

上床国夫 <随想>「学究の統制」101—

102

舛金種史 「宮島清次郎と八田嘉明(人物月  
旦)」104—110

長谷川一郎 独逸に於ける手工業原料の代用  
品の重用性」111—115

三好豊太郎 「統制下の工場鉱山管理法」

116—122

長浜慶三 「写真の社会的効用」124—131

諸井貫一 「技術家と社会——産業技術連盟  
の誕生に寄せて」133—137

岩田元兄 「ホルモン談義」138—142

佐藤武夫 <随筆>「日輪営舎の建築」143  
—146

鈴木一寛 「海水利用工業の一新生面」151  
—157

磯部 甫 「石炭液化の現状と将来」160—  
165

岩崎重三 「貧金鉱の探鉱と製錬」167—  
171

的場幸雄 「貧鉄鉱の新酸性製錬」173—  
180

飯高一郎 「軽金属・合金研究の戦時的意義」  
181—189

鳥井博郎 「仕事の単純化と生産技術」191  
—194

小山謙吉 <技術者小伝>「ロード・ケルヴ

ィン」196—204

2巻7号(1938年12月号)

大河内正敏 「生産拡充と熟練工の養成」2  
—14

目崎憲司 「日本の計画経済と産業統制」15  
—22

天沢不二郎 「新東亜建設と労働力の問題」  
23—30

増地庸治郎 「戦時体制下における賃銀制度」  
32—37

小原敬士 「資源の全体主義的性格」39—47

仁科芳雄 <随筆>「伝統」49—51

田中館秀三 「中支攻略と二、三の工業問題」  
52—61

辻元謙之助 「武漢制圧と石炭配給」63—72

吉川晴十 「大治鉄山確保の工業的意義」74  
—78

岩崎 栄 「平生鈞三郎と松江春次(人物月  
旦)」79—85

本岡玉樹 <随筆>「苦力」87—89

国弘員人 「戦時計画経済と強制カルテル」  
90—99

上野伝七 「輸出振興と総合リンク制の功罪」  
102—105

前田梅松 「物資の不足と配給機構の改善」  
106—110

船山信一 「技術の哲学的問題」111—117

三枝博音 <日本技術史覚書>「日本技術史  
の特質」119—128

吉田享二 <随想>「時局と建築技術の妙味」  
130—133

堀尾正雄 「我国人織工業技術の将来」139  
—149

平野久保 「藍の合成と独逸の化学工業」  
151 — 156  
田中宗愛 「合成ゴムの重要性」 157 — 163  
沢井郁太郎 「ガラス繊維工業の将来性」  
165 — 169  
佐野正夫 「砂鉄の直接製鋼」 171 — 177  
尾形輝太郎 「非常時に続々現われつつあ  
る——写真用新色素に就いて」 180 — 184  
小山謙吉 <技術者小伝> 「ビュービン」  
189 — 197

### 2 卷 8 号 ( 1939 年 1 月号 )

森 武夫 「大陸の経営と支那経済の再建」  
2 — 11  
東畑精一 「日本農業技術の特質」 14 — 22  
大泉行雄 「円ブロック内の貿易政策」 23 —  
29  
山口 茂 「長期建設とその資金」 32 — 40  
飯田清三 「東亜協同体の指導原理」 41 — 49  
北島三省 <随筆> 「部隊長に望む」 51 — 54  
上野義雄 「長期建設戦と其の労働対策」 56  
— 63  
金原賢之助 「東亜経済建設と工業金融問題」  
65 — 79  
根岸 佶 「日満支経済ブロックの建設と通  
貨政策」 81 — 89  
井口賢三 「満州の緬羊」 93 — 102  
岩崎 栄 「岸信助と大村卓一 ( 人物月旦 )」  
104 — 109  
青山秀三郎 「長期建設と鉱産資源の開発」  
111 — 118  
三枝博音 「支那技術史の管見」 119 — 131  
千葉早雄 「産業跛行状態の限界」 133 —  
137

佐藤信衛 「技術から科学へ」 139 — 149  
藤沢親雄 「現代の文化と技術」 155 — 162  
遠藤彦造 「最近の耐酸耐蝕合金を語る ( 一 )」  
163 — 178  
栗原嘉名芽 <随筆> 「裁判官と猶太人」  
180 — 182  
中島顯三 「大豆の国策的応用製品に就いて」  
183 — 191  
湯浅 明 <随筆> 「鼠の智慧」 193 — 196  
福田光治 「我国の光学工業へ望む」 198 —  
205  
内田俊一 「空中窒素固定工業の今後の課題」  
207 — 215

### 2 卷 9 号 ( 1939 年 2 月号 )

大塚一朗 「長期戦下工業労働力の涵養」 2  
— 10  
大河内一男 「職業補導の現代的意義」 12 —  
22  
国松久弥 「中南支資源の経済地理的意義」  
23 — 32  
大熊信行 「技術原理と生活原理」 33 — 47  
武井 武 「電気化学工業最近の動向」 51 —  
59  
山田 守 <随筆> 「その辺にある雑草」 60  
— 62  
高浜 保 「朝鮮の特種鉱資源とその開発の  
現状」 63 — 75  
川端 巖 「特殊リンク制が中小工業に及ぼ  
す影響」 77 — 82  
伊藤友猪 「平沼内閣と事業界」 84 — 86  
平田良衛 「桜内新農政の基調」 86 — 90  
北村吉郎 「国民登録制度の意義」 91 — 95  
名和統一 「日本紡績資本と支那 ( 一 )」 97

- 109 —
- 渡辺精吉郎 「満州に於ける鉍物資源」 111 — 118
- 伴 太郎 「宮本武之輔，増田次郎，小日山直登（人物月旦）」 119 — 125
- 山賀益三 「カゼイン羊毛の向上性と工業化」 127 — 131
- 中西健治 「代用繊維としてのロック・ファイバーの地位」 132 — 139
- 遠藤彦造 「最近の耐酸耐蝕合金を語る（二）」 141 — 148
- 今泉善夫 「我国稀有金属工業の資源的対策」 150 — 156
- 山家信次 「火薬工業の現状と将来」 161 — 167
- 松本 源 「魚油の経済的利用法」 169 — 174
- 志村繁隆 <随筆> 「鞍山」 175 — 177
- 中村 静 「燃料国策と無水酒精工業」 182 — 191
- 東条恒雄〔三枝博音〕 <技術者小伝> 「アルフレッド・クルップ」 193 — 199
- 2巻10号（1939年3月号）
- 中山伊知郎 「統制経済下の資本形成」 2 — 11
- 飯島幡司 「生産力拡充の新段階」 13 — 22
- 富塚 清 「工業拡充に関する一管見」 24 — 30
- 名和統一 「日本紡績資本と支那（二）」 32 — 40
- 三田丑吉 「磯村豊太郎，渋沢正雄，平賀譲（人物月旦）」 41 — 47
- 岡庭 博 「興銀の改組問題（一）——生産力拡充と興銀の使命」 49 — 54
- 小汀利得 「興銀の改組問題（二）——興銀の拡大強化を批判す」 55 — 61
- 寺田喜代松 <随想> 「化学屋と機械屋」 63 — 66
- 服部麦生 「ソ連邦に於ける労働の新戦時編成」 67 — 73
- 大熊喜邦 <随筆> 「焔の舌から木材を護れ」 75 — 77
- 関口八重吉 「生産工学の課題——機械工業と生産工学」 81 — 92
- 佐野秀之助 「生産工学の課題——鉍業と生産工学」 94 — 101
- 吉川晴十 「生産工学の課題——製鉄と生産工学」 103 — 110
- 西田博太郎 「生産工学の課題——化学工業と生産工学」 111 — 119
- 厚木勝基 「生産工学の課題——生産工学と人造繊維工業」 121 — 129
- 田村勘次 「農村工業としての理研部落産業」 131 — 137
- 平野信義 「新物価対策論」 138 — 141
- 黒田正征 「転業者再編成の方向」 142 — 145
- 北村吉郎 「賃銀制度の針路」 145 — 148
- 宮本武之輔 「半生の回顧」 150 — 156
- 伊木貞雄 「航空機燃料と石炭液化」 163 — 172
- 利根川武 「人造雲母体に就て」 176 — 184
- 稲葉見敬 「戦時下の塗料工業」 185 — 189
- 六所文三 「木材糖化の工業的将来」 191 — 200
- 東条恒雄〔三枝博音〕 <技術者小伝> 「ヴェルナー・シーメンス」 202 — 209

2 卷11号 (1939年 4 月号)

- 村本福松 「明日の工業経営と配給活動」 2  
—13
- 黒沢 清 「原価統制組織としての工業会計」  
15—24
- 木村増太郎 「経済団体の中枢機関問題」 26  
—32
- 藤岡 啓 「通貨の膨張と今後の中小工業」  
33—38
- 田上一夫 「工作機械人国記」 40—48
- 豊崎 稔 「日本労働力の組成と再生産」 50  
—62
- 吉岡金市 「農村労働力の現状」 64—75
- 伊藤熊太郎 「生産力拡充と人的資源」 76—  
81
- 鯉沼苜吾 「長期労働力の確保・向上策」 83  
—89
- 小峰柳多 「移動する工業立地」 90—96
- 八木沢善次 「労働力の移動形態」 98—114
- 尾崎秀実 <随筆> 「春寒料峭」 116—119
- 米田 潔 「低米価政策の投じた波紋」 123  
—127
- 二木 靖 「技術に方向を与えるもの」 135  
—141
- 「栗木勇之助と福田庸雄(人物月旦)」 143  
—147
- 西田屹二 「パルプ資材分布と工業立地」  
148—157
- 金子鷹之助 <随筆> 「満州国の勃興」 159  
—163
- 田辺友次郎 「金属材料の相互代用と其の限  
界(一)」 165—171
- 鴨居 武 「化学工業品の日本標準規格」  
175—183

- 波多野乾一 <随筆> 「孫文主義への随想」  
184—186
- 鈴木信一 「製錬鉍滓利用法の技術的理想」  
188—193
- 東条恒雄 [三枝博音] <技術者小伝> 「ゲ  
オルグ・ライヘンバッバ」 195—202

2 卷12号 (1939年 5 月号)

- 内山徳治 「貿易の時局的位置と対策」 2—  
16
- 下村寅太郎 「日本文化に於ける科学の地位」  
18—26
- 和井和衛 <大手町だより> 「樹書院放送」  
28—33
- 木村禧八郎 「殷賑産業と金融機構の将来」  
34—43
- 箕原 勉 <随筆> 「花と工業」 44—47
- 中林貞男 「国立技能検査所の使命」 49—54
- 竹本孫一 「戦時統制経済の新段階」 55—67
- 迫水久常 「我国財政の強靱性」 69—76
- 野崎龍七 「戦時インフレーションの日本的  
発展」 77—87
- 宮城音五郎 「科学総動員論」 88—95
- 山浦貫一 <随筆> 「摘草」 96—99
- 直井武夫 「戦時体制下のソ連第三次五カ年  
計画」 101—110
- 呉羽善次郎 「化学工業人国記」 112—123
- 岩淵辰雄 <馬橋だより> 「汪兆銘と耶律楚  
材」 124—127
- 宮本武之輔 「多能工か単能工か——生産拡  
充と単能工」 128—132
- 山口貫一 「多能工養成の重要性」 133—  
138
- 加用信文 <随筆> 「戦時農業随想」 140—



- 143
- 辻 二郎 <本郷だより>「研究費」149—153
- 志方益三 「タンニン資源」154—161
- 斉藤栄三郎 「増田次郎と大村卓一(人物月旦)」163—170
- 嘉治隆一 <随筆>「興亜講座の新設」171—173
- 田口泖三郎 「工場騒音の防止」175—181
- 中村 静 「微生物工業の生産体型化」187—196
- 岸田日出刀 <随筆>「学生と景気」197—199
- 田辺友次郎 「金属材料の相互代用と其の限界(二)」201—206
- 郡菊之助 <随筆>「支那の統計学」208—210
- 稻葉見敬 「船底塗料の現在及将来」212—215
- 東条恒雄〔三枝博音〕<技術者小伝>「ドニ・パパン」224—231
- 3巻1号(1939年6月号)
- 友岡久雄 「日本統制経済の修正点」2—8
- 南亮三郎 「新たなる労働人口の構成」10—17
- 佐藤信衛 「技術と其人」19—29
- 岩淵辰雄 <馬橋だより>「新大納言と実定卿」30—36
- 太田宇之助 <随筆>「支那留学生のために」38—39
- 馬場恒吾 「権力と科学」40—44
- 郷司浩平 「戦時経済と株式取引所問題」46—53
- 遠藤慎吾 <随筆>「悲劇の国境」54—56
- 青山二郎 「国策会社と経済統制の進路」58—70
- 丹羽五郎 <随筆>「妄想の羅列」72—74
- 村尾義雄 「物動計画の相貌」76—84
- 竹内謙二 「価格形成時代に於ける物価統制」85—88
- 和井和衛 <大手町だより>「樹書院放送」90—96
- 監谷狩野吉 「犠牲産業の再編成」98—106
- 布浦芳郎 「軍需品の単価切下げと物価」107—115
- 北村孫盛 「多能工か単能工か——技術教育者の立場より」116—120
- 藤沢威雄 「多能工か単能工か——多量生産工法の採用と工員の養成」120—124
- 東郷 豊 「商工省首脳部を衝く」125—134
- 吉岡文六 <随筆>「政治とスピード」135—137
- 宮田応義 「機械工業品の規格統一」139—147
- 石原 純 「科学研究統制の問題」154—159
- 北嶋三省 <随筆>「実用科学博物館」160—163
- 石橋湛山, 大河内正敏, 加藤与五郎, 松井春生, 小峰柳多 <座談会>「日本の資源を語る会」164—182
- 鈴木東民 <随筆>「東亜協同体の理念」184—187
- 亀山直人 「化学工業の特質」189—198
- 藤島雅一路 <随筆>「薬水」200—203
- 辻 二郎 <本郷だより>「研究と製作」

- 208—212
- 東条恒雄〔三枝博音〕〈技術者小伝〉「ジョージ・ステューヴンソン」214—221
- 山本忠興〈隨筆〉「大鷗の羽搏き」222—223
- 小柳勝蔵「洋灰工業から製鉄業へ」224—237
- 呉羽善次郎「続化学工業人国記」238—252
- 井村竹市「技術動員の實踐化——鉄鋼の自給自足と技術的捷徑」254—260
- 辻元謙之助「技術動員の實踐化——供給難に直面せる我が石炭対策」261—272
- 飯高一郎「技術動員の實踐化——軽金属増産への技術的拍車」273—279
- 小川芳樹「技術動員の實踐化——亜鉛自給自足への技術的基礎」281—285
- 庄司 務「技術動員の實踐化——ソーダ工業の拡充策」287—293
- 横山武一「技術動員の實踐化——硫安増産に対する私見」295—299
- 三浦伊八郎「技術動員の實踐化——パルプ自給に対する技術的貢献」300—307
- 橋本正一「技術動員の實踐化——鉄道車輛の現下対策」309—315
- 尾崎正久「技術動員の實踐化——時局と自動車製造の動向」317—322
- 渡瀬正磨「技術動員の實踐化——海国日本の造船業」324—328
- 3巻2号(1939年7月号)
- 風早八十二「日本産業機構の再編成」2—18
- 小島精一「新産業合理化論」20—33
- 和井和衛〈大手町だより〉「樹書院放送」35—42
- 川俣浩太郎「農業経営規模問題の再認識」44—60
- 稲原勝治〈隨筆〉「地球は一つ」62—64
- 谷口吉彦「生産力拡充資金と百億円貯蓄」66—76
- 木村孫八郎「戦争と日本資本主義の変貌」78—85
- 原 勝「英国の対日攪乱政策」86—90
- 斎藤 剛「興亜經濟開發を担う人々」92—98
- 竹本孫一「日本国策の科学性と道義性」100—107
- 四ツ橋実「支那航空事業の現状——黎明期より今日までの發達史——」108—112
- 富塚 清「多能工か単能工か——多能と単能との問題」114—122
- 松田竹太郎「多能工か単能工か——機械工は多能工か単能工か」122—125
- 山内 弘「多能工か単能工か——我が国重工業の技術的再編成」125—128
- 加茂儀一「機械と技術に見る日本の形質」130—138
- 膳武太夫〈隨筆〉「釣とインフレ」140—142
- 岩淵辰雄〈馬橋だより〉「東北の農村の人人」144—149
- 古田徳次郎〈隨筆〉「事變解決の捷徑」150—152
- 天野健雄「独逸に於ける生産力助成と價格統制」154—161
- 岩井良太郎「事變で伸びた小型コンツェルン」166—170
- 辻 二郎〈本郷だより〉「研究の重複と無

- 駄」172—177  
 玉虫文一 「純粹科学の立場」178—183  
 掘岡正家 「電気探鉱法の課題」186—194  
 矢部 周 <隨筆>「夢を描かず」195—  
 197  
 長谷考之 「労務管理と環境整備」199—  
 204  
 駒崎利治 「独逸に於ける貧鉄鉱処理の現況」  
 206—212  
 服部静夫 <隨想>「呼鈴」219—222  
 小倉一郎 「人綱王国評判記(人物月旦)」  
 224—231  
 東条恒雄〔三枝博音〕 <技術者小伝>「田  
 中久重」233—240  
 志村繁隆 <隨筆>「密雲を行く」242—  
 245  
 3巻3号(1939年8月号)  
 大河内正敏 「生産拡充と統制経済」2—14  
 青山二郎 「戦時下の企業経営原則」16—24  
 和井和衛 <大手町だより>「樹書院放送」  
 26—32  
 美濃部洋次 「配給機構の戦時体制化」34—  
 42  
 矢島千哉 「鉄鋼及び非鉄金属の配給機構」  
 44—50  
 黒田力造 「繊維配給の戦時体制化」52—56  
 橋井 真 「機械の配給機構統制に就て」58  
 —61  
 笹沼 操 「燃料統制の現状と今後の動向」  
 63—68  
 辻 二郎 <本郷だより>「研究国策」70—  
 74  
 木村靖二 「食糧品配給機構の改革」76—82  
 大西 斎 <隨筆>「夏草萎々落日斜」84—  
 86  
 中井武雄 「パルプの配給機構」88—93  
 田村勘次 「農業用物資の配給統制」94—99  
 風早八十二 「日本産業機構の再編成」100  
 —119  
 鈴木鴻一郎 「賃金統制の方向」121—126  
 天沢不二郎 「労働力雇入の自由と拘束」  
 128—136  
 岩淵辰雄 <馬橋だより>「元老制度の復活」  
 138—143  
 服部英太郎 「交替制への社会政策的反省」  
 145—152  
 村田孜郎 <隨筆>「最近の東亜情勢」154  
 —156  
 花蓮人生 「人から覗いた革新商工省」158  
 —165  
 上床国夫 「日本を繞る石油資源」166—  
 177  
 山浦貫一 <隨筆>「貧しき指導者」180—  
 185  
 茂森唯士 <隨筆>「支那で芝居を打った話」  
 187—189  
 八田四郎次 「化学工学の現代的使命」190  
 —195  
 東条恒雄〔三枝博音〕 <技術者小伝>「ト  
 マス・サヴェリ」196—204  
 井上克己 「特殊鋼の生産拡充と其の技術的  
 対策」206—213  
 高 壮吉 <隨筆>「アルミニウム漫談」  
 214—217  
 岩永賢一 「傷痍軍人の就職問題」219—  
 224  
 清家 正 「多能工か単能工か——局限的職

工・普遍的職工・専門的職工」226—231  
小池四郎 「多能工か単能工か——機械工に於ける国家観念」231—233  
木村秀政 <随筆>「ロッキード随想」234—237

### 3巻4号(1939年9月号)

野崎龍七 「戦争経済と生産力」2—16  
森 轟昶 「戦時化学工業経営の方向」18—24  
渡辺昌太郎 「戦時経済下に於ける重工業の経営」26—33  
白石幸三郎 「軽工業の経営機構の変化」35—40  
岡庭 博 「中小工業の新経営」42—48  
小峰柳多 「戦時経営の原則」50—56  
北島三省 <本郷だより>「煩で聴く」58—62  
風早八十二 「日本産業機構の再編成」64—75  
内山徳治 「貿易行政指導原理の変革」76—80  
細川進一 「電力資源の今後の対策」82—88  
城戸元亭 <随筆>「政治の指導性」85  
和井和衛 <大手町だより>「樹書院放送」90—95  
村山公三 「英国外交政策転換の経済的背因」96—101  
木村増太郎 <随筆>「先ず隗より始めよ」99  
平尾弥五郎 「貿易振興と貿易省設置問題」102—108  
正木千冬 <随筆>「地域政策の確立」105  
海 浩 「直面せる船舶統制の必然性」

110—119

横田 実 <随筆>「汪兆銘と徳王」120—122  
三枝博音 「なぜ技術をいうか(一)」124—131  
大浦 威 「戦時金融政策の諸問題」133—137  
今里勝雄 <随筆>「総理大臣の憂鬱」138—140  
蜂谷吉之助 「ソ連の第三次五ヶ年計画と自動車工業」144—150  
木原通雄 <随筆>「新しき四境戦争」149  
岩淵辰雄 <馬橋だより>「虚土横議の時代」152—158  
杉山清吉 「研究意欲と生産実務」160—163  
小林良之助 「我国のガソリン工業」164—171  
宮本武之輔 <随筆>「科学的国民性」169  
永井彰一郎 朝鮮満州及び北支のアルミニウム製造原料に就いて」178—190  
朝倉希一 <随筆>「思出のまま」191—193  
東条恒雄〔三枝博音〕<技術者小伝>伊能忠敬」194—202  
脇水鉄五郎 <随筆>「支那の黄土」204—207  
石橋四郎 「昔の酒・今の酒」208—210  
暉峻義等 「熟練工養成の方策——工人養成の基本問題」212—218  
早坂 力 <随筆>「依存と共存」215  
宮島 清 「熟練工養成の方策——労務者養成と工人教育」218—221  
竹内謙二 <随筆>「儲けさす統制」221

呉羽善次郎 「鉄鋼王国太平記(一)」 222  
— 230

3巻5号(1939年10月号)

風早八十二 「日本産業機構の再編成(完)」  
2—12

膳立之助 「国土計画設定に対する私見」 14  
—21

中島清二 「国土計画に就て」 22—28

三枝博音 「技術とは工作か(二)」 30—37

檜崎敏雄 「我が国・民間航空の将来」 38—  
43

橋口義男 「日本航空工業の技術的水準」 45  
—48

斉藤外雄 「航空事業経営の焦点」 50—56

諸井貫一 <随筆> 「戦争と産業」 53

松浦四郎 「当面せる航空技術の必要性」 58  
—62

四ツ橋実 「我国の航空政策私案」 64—70

辻 二郎 <随筆> 「科学の独立」 67

大久保武雄 「東亜に於ける国際航空路」 72  
—78

白石幸三郎 <随筆> 「総合政策の確立」 77

加瀬三郎 「独占の発展と団体統制の必然性」  
80—86

中村孝俊 「新税制改革の意義」 88—92

岩淵辰雄 <馬橋だより> 「三国干渉時代」  
94—103

大江専一 「第二次欧州戦争と軍需工業」  
105—109

中谷宇吉郎 <随筆> 「炭砒の爆発」 107

野崎龍七・正木千冬・秋永月三・木村禧八郎  
<座談会> 「戦乱勃発の日本産業に及ぼす  
波動」 110—133

小島新一 「現下の石炭統制問題」 134—  
136

野田弥三郎 「日満支石炭ブロック問題と連  
盟の役割」 138—144

石原 純 <随筆> 「跛行状態の匡正」 141

沢田真一 「戦時経済と石炭統制の展開」  
146—150

吉川晴十 <随筆> 「高級鋼は何処で造る」  
149

東条恒雄〔三枝博音〕 <技術者小伝> 「ト  
マス・ニューコメン」 151—159

茂野吉之助 「生産拡充計画と石炭」 160—  
164

大蔵公望 <随筆> 「勿体ない」 163

北島三省 <本郷だより> 「砂」 166—170

厚見利作 「非常時石炭鉱業」 172—179

桐原葆見 <随筆> 「工人の教育・賃金」  
177

細川進一 「適性炭の配給を円滑にすべし」  
180—184

池田さぶろ 「生産部隊長奇襲報告」 186—  
193

深川庫造 「船底塗料の基礎的研究」 194—  
203

堀内 達 「阿部信行、畑俊六、吉田善五(人  
物月旦)」 204—207

東郷 豊 「青木新蔵相の横顔(人物月旦)」  
208—210

大渡順二 「伍堂卓雄、遠藤柳作、唐沢俊樹  
(人物月旦)」 211—214

山浦貫一 「永井柳太郎、金光庸夫、小原直、  
宮城長五郎、河原田稼吉(人物月旦)」  
215—218

堀浪之介 <大手町だより> 「欧大戦と我財

経策」220—227  
飯高一郎 「軽合金さまざま」228—234  
沢井寛一 <万人の技術解説>「鑄鉄鑄物の話」236—243  
呉羽善次郎 「鉄鋼王国太平記」245—251  
山本洋一 「鉄銹の発生とその防止」253—261

### 3巻6号(1939年11月号)

大河内正敏 「戦時経済政策と軍需工業」2—12  
美濃部洋次 「輸出品産業と貿易政策」14—19  
今村奇男 「繊維工業品の輸出振興方策」20—23  
今村武雄 「雑品輸出貿易の概勢」25—33  
橋井 真 「機械の輸出に就ての諸問題」35—41  
三枝博音 「技術とは働く機械か(三)」42—49  
平井出貞三 「電力飢饉と其の対策」51—58  
荒木光太郎 「独逸経済統制の基調」60—67  
志村繁隆 <随筆>「猪苗代綺談」63  
北嶋三省 <本郷たより>「秋の所感」68—72  
西野杉雄 「ソ連の技術的経済的独立」73—78  
林甚之丞 <随筆>「所信は忌憚なく直言せよ」77  
小田橋貞寿 「産業人口再分布の問題」80—86  
高木友三郎 <随筆>「入試全廃案」85  
佐藤 弘 「日満支の工業を再建せよ」88—92

森村 勇 <随筆>「植民地の文化設備」91  
中林貞男 「労務動員計画の遂行」93—98  
阿部真之助 「物価停止令と国民生活」100—104  
新明正道 <随筆>「盲目的な論議」103  
田中令三 「労務者の銃後生活刷新運動」105—110  
河村正弥 「現代銃器展望」112—118  
末兼 要 「鉄鋼国策の新動向」120—125  
岩淵辰雄 <馬橋だより>「歴史の宿命」126—132  
飯高一郎 「軽合金さまざま(二)」134—140  
加瀬 勉 「現代鍊金術の可能性」142—146  
藤沢威雄 「新工業政策と技術の公開」148—152  
田中芳雄 「新興代用品工業の課題」153—158  
沢井寛一 <万人の技術解説>「鑄鉄鑄物の話(二)」163—170  
池田さぶろ 「生産部隊長奇襲報告」172—178  
東条恒雄〔三枝博音〕 <技術者小伝>「平賀源内」180—188  
中西貞喜 「国防と自動車」190—196  
楠木直道 「国産自動車の改良面」197—200  
大久保武雄 <随筆>「政治家と飛行機」199  
磯部 甫 「我が国自動車燃料の現況」202—206  
大西清治 <随筆>「その後に来るもの」205

寺沢市兵衛 「自動車材料及び部分品工業」  
208—213  
築山潤二 「吾国の自動車工学の方向」 214  
—216  
祖父江寛 <随筆> 「ナイロン綺談」 217—  
219  
権田保之助 <随筆> 「科学主義『興行』」  
219—221  
武内文彬 <随筆> 「時局三題」 222—225

### 3巻7号(1939年12月号)

中松真卿 「日本鉄鋼業の現段階」 2—7  
千石興太郎 「農業の機械化」 8—11  
河村恭輔 「軍機械化と技術国防」 13—19  
梶井 剛 <随筆> 「北海道土産話」 17  
北嶋三省 <本郷だより> 「火を点ける」 20  
—24  
小島精一 「現下動力問題の中心点」 26—34  
松田竹太郎 <随筆> 「優良製品と謡曲」 29  
出弟二郎 「動力資源としての電力対策」 36  
—44  
津久井龍雄 <随筆> 「骨がらみの官僚主義」  
39  
古田慶三 「工業基礎資源としての石炭」 45  
—51  
大島義清 「産業動力としての液体燃料」 53  
—58  
北 久一 「水力経済の趨勢」 60—68  
山口貫一 <随筆> 「藁と米」 63  
岩淵辰雄 <馬橋だより> 「人材はいないか」  
70—78  
久原房之助 「日本産業革新論」 80—87  
三枝博音 「人間と機械の統一」 88—95  
山崎好雄 「グライダーと飛行機の技術的関

連」 96—99

加藤与五郎 「東亜資源と電気化学工業」  
101—111  
池田さぶろ 「生産部隊長奇襲報告」 112—  
118  
小玉美雄 「戦争と鉱物資源」 119—123  
浜住松二郎 <随筆> 「学問と技術」 125  
河野 密 「産業報国会と労働団体」 126—  
131  
西野入愛 <随筆> 「国策逆行」 129  
三川逸郎 「天然瓦斯の工業的利用」 133—  
141  
前田梅松 <随筆> 「科学主義廃物利用」  
142—144  
玉置正一 「特殊鋼と技術的諸問題——本邦  
特殊鋼の技術的現状」 145—149  
渡辺政人 <随筆> 「鋼材適正価形成の過程」  
147  
吉川晴十 「特殊鋼と技術的諸問題——軍需  
資材としての特殊鋼の地位」 150—156  
渡瀬完三 <随筆> 「食糧問題と肥料」 153  
大橋謙一 「特殊鋼と技術的諸問題——特殊  
鋼の需給に関して」 158—161  
毛里英於菟 <随筆> 「廃品回収録」 162—  
164  
飯高一郎 「軽合金さまざま(完)」 166—  
173  
青木寛夫 <随筆> 「原子核の研究」 174—  
175  
神馬新七郎 「機械の耐用命数とその経済的  
影響」 176—181  
金子鷹之助 「時局と科学」 179  
三島徳七 <万人の技術解説> 「ダイ・カス  
トの話」 186—193

淵上卯六 「技術教育の体験から」 195 —  
204

東条恒雄 「三枝博音」 <技術者小伝> 「石  
河正龍」 205 — 213

鴨居 武 「どんな化学製品が輸入されるか（  
（事後後調）」 215 — 222

#### 4 卷 1 号（1940年 1 月号）

<巻頭言> 1

大河内正敏 「科学主義工業の一業績」 2 —  
6

武村忠雄 「軍需産業の国家管理」 7 — 13

森 武夫 「戦争と多量生産」 14 — 21

黒沢 清 「軍需品の統一原価計算と価格問  
題」 23 — 29

山口珪次 <随筆> 「入学試験廃止」 30

杉村広蔵 「支那経済の虚実」 32 — 40

目崎憲司 <随筆> 「物資節約偶感」 41 — 42

友田宜孝 「戦争と科学総動員」 44 — 53

青木得三 「生産拡充と税制問題」 56 — 62

圓地与四松 「欧州大戦と我が 4 ケ年計画の  
修正」 65 — 72

佐藤信衛 「組織ある技術」 74 — 81

飯田清三 <随筆> 「マス・プロの要因」 82

山本峰雄 「最近航空機展望」 84 — 93

蜷川虎三 <随筆> 「統制と統制の計画性」  
94

今井四郎 「工作機械事業合理化の目標」 96  
— 99

馬場秀夫 <随筆> 「真似は禁物」 100

新明正道 「機械と手」 102 — 109

小幡重一 <随筆> 「理科と工科」 110 —  
113

服部英太郎 <随筆> 「労働力の番人」 114

久原房之助 「日本産業革新論（完）」 116  
— 122

和井和衛 <経済時評> 「統制経済の徹底化  
を望む」 124 — 129

池田さぶろ 「生産部隊長奇襲報告」 131 —  
138

色川三男 「工場火災と最近の趨勢」 142 —  
147

俵 国一 「日本金属工業の現段階」 148 —  
152

向山幹夫 「戦後の電気製鋼」 154 — 160

児玉晋匡 「製鉄事業」 162 — 172

志方益三 <随筆> 「非常時と学者」 173

佐野隆一 「合金鉄に就て」 176 — 180

石田四郎 「軽合金工業」 182 — 186

野崎龍七 「産業評壇」 188 — 189

東 庄治 <随筆> 「思いつき政治は困る」  
195

斎藤哲夫 <万人の技術解説> 「電気溶接の  
話」 198 — 206

厚木勝基 <随筆> 「代用品」 210 — 213

松原澄雄 「ソ連邦の機械工業を探る」 214  
— 220

安田庄司 <随筆> 「低物価と米と煙草」  
221

東条恒雄 [三枝博音] <技術者小伝> 「ジ  
ェームズ・ワット」 222 — 229

君島武男 「合成ゴムと再生ゴム」 234 —  
240

#### 4 卷 2 号（1940年 2 月号）

<巻頭言> 「生産拡充と生産方拡充」 1

大河内一男 「技術と社会立法」 2 — 15

和井和衛 <経済時評> 「国内パーター制を



- 衝く」16—21
- 永田 清 <随筆>「経済の新倫理」22
- 山口 茂「「インフレ防止政策への反省」24—31
- 宮城音五郎 「技術と芸術と」32—37
- 三木武吉 <随筆>「聖戦の目的を達成せよ」38
- 笹部 誠 「重点主義と生産技術——製鋼技術と重点主義」39—44
- 池田謙三 「重点主義と生産技術——非鉄金属生産拡充の重点」46—56
- 野田弥三郎 「重点主義と生産技術——石炭鉱業に於ける重点主義と技術」58—63
- 内山徳治 <随筆>「円ブロックの問題」64
- 白浜 浩 「重点主義と生産技術——精密機械工業に於ける生産拡充」66—70
- 池島重信 「新東亜文化のため」72—78
- 住田正一 <随筆>「欧州大戦の思い出」80—82
- 朝倉希一 <随筆>「初春偶感」83
- 榊 俊雄 「わが国に於ける文化と技術」84—91
- 吉川晴十 「本邦製鉄技術進歩の概勢」94—102
- 山中篤太郎 <随想>「中小工業政策は千鳥足」104—107
- 佐野秀之助 「本邦金属鉱産資源の分布」112—118
- 池田さぶろ 「生産部隊長奇襲報告」119—125
- 中原虎男 <随筆>「超科学主義」127
- 野崎龍七 「産業評壇」128—129
- 色川三男 「工場火災と最近の趨勢(二)」130—137
- 世田谷三郎 「科学主義工業序論」140—144
- 石川知福 「戦時下の工場医事談義」146—150
- 富沢喜一 「我が社の労働力保護策——株式会社中島飛行機製作所」152—155
- 桂木利喜男 「我が社の労働力保護策——日本鋼管株式会社」156—161
- 木下半治 <随筆>「買溜めの二種類」162
- 安済 満 「我が社の労働力保護策——株式会社東京石川島造船所」163—167
- 善場貫一 「我が社の労働力保護策——日清紡績株式会社」169—173
- 松前重義 <随筆>「国力と技術」174—177
- 原 祐三 <随筆>「物価統制7不思議」178
- 庄司 務 <日本生産技術史>「曹達工業今昔物語」179—189
- 矢木 栄 「欧米の化学工業を観る」192—199
- 平竹伝三 「ソ連邦の化学工業とその資源」200—204
- 東条恒雄 (三枝博音) <技術者小伝>「ジエームズ・ワット(完)」206—212
- 村松隆一 <万人の技術解説>「瓦斯熔接と切断の話」217—227

4巻3号(1940年3月号)

- <巻頭言>「中小工業者対策のポイント」1
- 大河内正敏 「低物価政策と統制経済の矛盾」

- 2-11
- 木村禰八郎 「わが国インフレーションの現段階」12-17
- 小原敬士 「国土計画と工業分散」18-23
- 阿部真之助 <随筆>「今の政党者流」24
- 黒田泰造, 菊池麟平, 大島義清, 宮本武之輔, 小川清二, 朝倉希一, 加茂正雄, 松前重義, 中田義算, 針谷孝之, 中西健治, 棚橋寅五郎, 小池四郎, 佐立健雄, 田中弘, 錦織清治, 絹川武良司, 笹部誠, 渡瀬正磨 「生産拡充政策に就き技術者より現内閣への献策」26-30
- 宮部直巳 <随筆>「ある見方」31
- 石原 純 「科学と技術との関係について」32-37
- 菅 隆俊 「私は何を改良したか——重工業に於ける多量生産工場施設」38-42
- 鈴木富治 「私は何を改良したか——私の考え方と其発展」44-45
- 相沢次郎 「私は何を改良したか——ミーリング作業に於ける実例」46-47
- 島村芳三 「私は何を改良したか——ス・フの場合」48-50
- 向山幹夫 「私は何を改良したか——低磷鉄製造と電気製鉄」50-51
- 熊谷直記 「私は何を改良したか——『私ら』の改良」52-54
- 宮川 実 「戦時経済問答」58-64
- 田中 仁 <随想>「(経済)大臣・答弁論」66-68
- 半谷高雄 <随筆>「支那新中央政府の性格」69
- 迫水久常 「資金調整夜話」70-73
- 来間 恭 <随筆>「責任の帰趨」76
- 堀 新一 「吾国地方都市特殊工業の地位と  
 売買組織」78-86
- 野沢秀信 「産業評壇」88-89
- 竹谷勢一 「労銀決定の基礎」90-96
- 町田辰次郎 <随筆>「産業報国運動雑感」103
- 厚見利作 「石炭統制と増産の技術的現勢」104-109
- 海野三郎 「熱と工業(一)」110-118
- 池田さぶろ 「生産部長奇襲報告」120-126
- 中原虎男 <随筆>「技術官史」127
- 藤田敬三 「中小工業の生産構造と技術」128-133
- 木村孫八郎 「重点主義強化と中小工業」134-138
- 妹川武人 「工業国策と中小工業の振興性」139-146
- 川端 巖 「中小工業と工業組合の現勢」147-151
- 阿部賢一 <随筆>「地下鉄の翁」152-154
- 岩井良太郎 「コンツェルン形態論」156-161
- 和井和衛<経済時評>「物動・物想」163-167
- 二階堂行徳 「最近独逸の石油合成工業を觀る」172-180
- 清水 馨 「現代戦車展望」181-190
- 李 升基 「再生纖維と合成纖維」192-197
- 玉置正一 <万人の技術解説>「高速度鋼の話」198-202
- 世田谷三郎 「科学主義工業と生産工学」204-209

東条恒雄〔三枝博音〕〈技術者小伝〉「ヘ  
ンリ・ベッセマ」210—215

4巻4号(1940年4月号)

〈巻頭言〉「低物価と増産」1

山田文雄 「中小工業問題の意義とその経済  
理論」2—10

波多 尙 〈随筆〉「報国債券は富強か」11

橋本恒義 「日米通商協定廃棄と鉄鋼業の将  
来」12—19

富成喜馬平 「道具と機械」20—26

竹中龍雄 「戦時経済と公私共同企業」28—  
34

和井和衛 〈経済時評〉「適正価格と生産拡  
充」35—39

山座道雄 「工作機械工業と国防力」40—43

湯口邦五郎 「人造石油製造とその機械工業」  
44—48

田中 仁 「化学工業機械の現在と将来」50  
—53

杉山尚久 「我国鉱山機械業の趨勢」54—58

尾崎五郎 「新興支那に於ける日支工業の現  
段階」60—65

小林久平 〈随筆〉「草炭とは」66—68

和辻春樹 〈随筆〉「船と科学」70

庄司謙次郎 「食料工業と副産物の利用  
(一)」72—76

池田さぶろ 「生産部隊長奇襲報告」79—85

杉山清吉 「統制経済下に於ける生産拡充」  
86—89

田沼 征 〈随筆〉「税制清算は夢か」90

増川善次郎 「制電下の電気化学工業と対策」  
92—97

奥田一郎 〈随想〉「(産業関係)議員・質

問陣・評」98—101

見坊兼光 「時局の求める農村副業」102—  
106

常岡俊三 「わが国の人造石油工業」108—  
115

長岡克暁 〈随筆〉「乱れる国語」116

横田弘之 「北海道工業論」118—123

谷野せつ 「女子労務者と労務補導」126—  
130

小松欽太郎 「新興製品あたらんだむ」132  
—135

佐々木徳定 「わが社の技術教育の実状——  
東京自動車株式会社」142—147

淵上卯六 「わが社の技術教育の実状——佐  
世保海軍工廠」148—153

市川正夫 「わが社の技術教育の実状——株  
式会社東京石川島造船所」156—159

難波猪一 「わが社の技術教育の実状——東  
京鉄道局大宮工場」160—163

世田谷三郎 「専門工場・専門機械・専門熟  
練工」166—170

平 貞蔵 〈随筆〉「多くのものが欠けてい  
る」174

菊池麟平 〈万人の技術解説〉「高周波電撃  
精錬の話」176—181

野沢秀信 「産業評壇」184—185

井村竹市 「日鉄はなぜ広畑に工場を建てた  
か」186—191

東条恒雄〔三枝博音〕〈技術者小伝〉「大  
島高任」196—202

高 壮吉 〈随筆〉「高良斉と「天下無有怪」  
の科学標語」203—205

海野三郎 「熱と工業(二)」206—215

4 卷 5 号 (1940年 5 月号)

<巻頭言>「大陸建設と工業教育」 1

山田文雄 「中小工業問題の意義とその経済理論」 2—11

長谷川如是閑 「日本人の技術的性能」 12—20

和井和衛 <経済時評>「競馬・報告債券・長期建設戦」 22—27

鈴木東民 <随筆>「独逸の北欧進駐の意義」 28

小高泰雄 「現下に於ける経営合理化と原価概念」 30—35

杉野喜一郎 「我国カーバイド工業の現状並に将来」 36—42

田崎健治 「酢酸製造工業とその促進」 44—49

横山達一 「合成ゴム工業の技術的進展」 50—56

山崎靖純 <随筆>「世界経済の構造変化」 57

駒田 勤 「アルコール工業とその生産促進対策」 58—63

佐久間昇 「合成樹脂とその趨勢に就て」 64—68

森田優三 <随筆>「人口政策の確立」 69

島田晋作 「国策会社とは何か」 70—75

増野 実 「大豆の化学工業」 78—84

谷藤新吾 <万人の技術解説>「フェロ・アロイ物語」 85—89

野崎龍七 「(物資)議会の総決算」 90—93

豊崎 稔 「日本機械工業と原料基底」 94—100

三根繁太 <随筆>「発明力の浪費とその救済」 101

豊田喜一郎 「トヨタ自動車はなぜ製鋼場を設けたか」 102—106

成瀬無極 <随筆>「科学と文芸との間」 107—109

園田理一 「女子の労働力と生産性」 110—116

大熊 烈 「三井合名はなぜ物産に合併されたか」 118—120

知識真治 <随筆>「支那に於けるイギリスの地位」 121

乗富丈夫 「わが社の女子労務管理——日本光学工業株式会社」 122—127

南 岩男 「わが社の女子労務管理——愛知時計電機株式会社」 128—131

鷗崎正見 「わが社の女子労務管理——古川電気工業株式会社」 132—138

山本洋一 <随筆>「科学への興味と理解」 139

富沢喜一 「わが社の女子労務管理——中島飛行機株式会社東京製作所」 140—146

渡辺鉄蔵 <随想>「今年の米は？」 150—152

永戸政治 <随筆>「経済戦争」 153

賀田直治 「朝鮮の工業建設とその特殊性」 154—160

世田谷三郎 「立地形態と科学工業の立地」 162—166

谷口 泉 <随筆>「(代用品)の名称」 171

海野三朗 「製鋼に就ての二、三の考察」 172—177

庄司謙次郎 「食料工業と副産物の利用(完)」 178—181

上野栄二 「産業評壇」 182—183

- 東条恒雄〔三枝博音〕〈技術者小伝〉「江川太郎左衛門」184—190
- 上田大助 「技術の急所」191—193
- 河合登, 野口元吉郎 「砂鉄資源の利用と砂鉄選鉱機に就て」194—203
- 池田さぶろ 「生産部隊長奇襲報告」204—210
- 4巻6号(1940年6月号)
- 〈巻頭言〉 「利潤統制を迎える」1
- 大河内正敏 「生産機械論」2—11
- 村山公三 「欧州戦の本格化とわが国経済の動向」12—14
- 清水幾太郎 「科学の社会的組織化」16—21
- 西田博太郎 〈随筆〉「問題になるス・フの弱さ」22
- 畑 敏男 「事変処理再出発」24—30
- 勝間田清一 「食糧政策を如何にすべきか」32—37
- 陶山誠太郎 「原価計算の業種別統一の急務」40—45
- 飯島幡司 〈随筆〉「トンチン富籤法の提唱」46
- 今野源八郎 「ナチス独逸の自動車工業(一)」48—53
- 豊崎 稔 「日本機械工業と原料基底(完)」54—60
- 益田豊彦 〈随筆〉「比島よ, 自重せよ」61
- 島本 融 「独軍の蘭・白侵入とわが物資戦線への影響」62—65
- 北岡寿逸 「我国人口問題の幻想」66—68
- 西田屹二 「パルプ資源は無尽蔵」69
- 友岡久雄 「利潤統制の後に来るもの」70—75
- 宮本武之輔 「新支那の工業化と日本の技術」76—81
- 西本直民 「日支綿業の提携」84—87
- 久保田美寿雄 「日本の技術を俟つ支那塩業」88—93
- 渡貫良治 〈随筆〉「急がばまわれ」94—95
- 田口良明 「支那鉄業の技術的改良」96—100
- 金原賢之助 〈随筆〉「(物の経済)と(金の経済)」101
- 太田慶蔵 「製鉄業をどうするか」102—106
- 目黒雄平 「電業より見た支那水力資源の開発」108—111
- 後藤宇太郎 「北支那の交通計画」112—117
- 飯田清三 「日本人の組織力と着想」118—120
- 藤岡 啓 〈随筆〉「不徹底のなやみ」121
- 安芸皎一 「新支那の工業化と日本の技術—一治水・灌漑・運河の統一性」122—125
- 和井和衛 〈経済時評〉「低物価堅持と地方的割拠主義解消」126—130
- 賀田直治 「朝鮮の工業建設とその特殊性」132—137
- 今泉嘉一郎 「鉄生活50年の想出」138—143
- 岡 新六 〈物の科学〉「石炭のさまざま」148—153
- 北嶋三省 〈随筆〉「芽を出させたい」154
- 小山長四郎 「科学と産業との交流」156—161
- 杉本一馬 「多角経営の会社を覗く——芋蔓経営にヒットした日曹」164—169

- 松川健次郎 「多角経営の会社を覗く——多  
角経営建設途上の日本電力」 170 - 172
- 木村禧八郎 <随筆> 「インフレ形態の変化」  
173
- 筑紫太郎 「多角経営の会社を覗く——縦断  
的経営に乗出す日本鋼管」 174 - 177
- 前田梅松 「多角経営の会社を覗く——日産  
化学, 多角経営の現況とその将来」 178 -  
180
- 坂井 信 「多角経営の会社を覗く——理研  
重工業と理研コンツェルン」 182 - 185
- 斉藤栄三郎 「多角経営の会社を覗く——鐘  
紡と日本綿業の前途」 186 - 189
- 渡辺尙夫 「多角経営の会社を覗く——南方  
発展の石原産業」 190 - 192
- 内田繁隆 <随筆> 「現代と科学精神」 193
- 東郷 豊 「多角経営の会社を覗く——多角  
経営に油ののった日本油脂」 194 - 196
- 上野栄二 「産業評壇」 198 - 200
- 呉羽善次郎 「多角経営の会社を覗く——昭  
和電工・連鎖経営の強みと弱み」 202 -  
205
- 本山伍吉 「多角経営の会社を覗く——力点  
を重工業に置く豊田コンツェルン」 206 -  
208
- 向井鹿松 <随筆> 「機構統制の限界」 209
- 世田谷三郎 「科学主義工業と農村機械工業」  
210 - 215
- 山県昌夫 「楫と舵」 217 - 219
- 藤田新三郎 「製鉄製鋼用耐火材とその対策」  
220 - 225
- 原田石四郎 <日本生産技術史抄> 「合成染  
料工業の歩んだ途(一)」 226 - 232
- 池田さぶろ 「生産部隊長奇襲報告」 234 -  
239
- 東条恒雄 [三枝博音] <技術者小伝> 「本  
木昌造」 240 - 244
- 大倉幸雄 <万人の技術解説> 「不銹鋼の種  
種相」 245 - 253
- 4 卷 7 号 (1940年 7 月号)
- <巻頭言> 「独逸の工業は科学主義工業」 1
- 大河内正敏 「鉄鋼政策の転換期」 2 - 13
- 三木 清 「国力と科学」 14 - 21
- 後藤 勇 <随筆> 「新体制の目標」 22
- 美濃部洋次 「物価問題の帰趨」 24 - 28
- 嵐早八十二 「適正賃金の論理と倫理」 30 -  
36
- 今野源八郎 「ナチス・独逸の自動車工業  
(二)」 38 - 45
- 和井和衛 <経済時評> 「経済旧秩序の切迫  
から新秩序へ」 46 - 51
- 馬場敬治 「組織と技術の問題」 52 - 66
- 鳥養利三郎 <随筆> 「衝撃波電流の活用」  
67
- 東条恒雄 [三枝博音] <技術者小伝> 「ゲ  
オルグ・アグリコラ」 68 - 75
- 山本惣治 「アメリカの自動車工業を観る」  
76 - 78
- 河村恭輔 「独逸の電撃作戦と兵器器材の優  
秀性」 80 - 82
- 渡辺昌太郎 <随筆> 「鉄鋼価引上問題の根  
本」 83
- 原乙未生 「独逸電撃作戦の教訓」 84 - 88
- 藤田夷彦 「国民科学知識向上の急務」 90 -  
91
- 内山徳治 「大戦の世界的発展と我が貿易へ  
の影響」 92 - 98

今泉嘉一郎 「鉄生活五十年の想出(二)」

102—110

波多野貞夫 <随筆>「学ぶべき独逸人の特質」111

正木良一 「規格統一励行の急務」112—

117

山浦貫一 <随筆>「近衛と水」118

原田石四郎 <日本生産技術史抄>「合成染料工業の歩んだ途(完)」120—127

辻二郎 <随筆>「国策は体位向上から」

128

牧野輝智 「何が『富』であるか」130—

132

池田さぶろ 「生産部隊長奇襲報告」133—

139

上野栄二 「産業評壇」140—142

平社敬之助 「支那の非鉄金属鉱業」144—

149

祐村脩平 「わが社の新経営合理化——株式会社石井鉄工所」150—152

高田儀三郎 「わが社の新経営合理化——石原産業海運株式会社」154—156

山本峰雄 「飛行機の引起しと人体生理」

157—159

厚見利作 「わが社の新経営合理化——三井鉱山株式会社」160—163

後藤安太郎 「わが社の新経営合理化——富士電炉工業株式会社」164—166

赤松 豊 <随筆>「インフレ恐怖症の診断」

167

島村芳三 「わが社の新経営合理化——日東紡績株式会社」168—172

相沢次郎 「わが社の新経営合理化——安立電気株式会社」176—179

今村政夫 「わが社の新経営合理化——株式会社東京計器製作所」180—182

田中幸利 <随筆>「支那事変の新性格」

183

今井四郎 「わが社の新経営合理化——株式会社池貝鉄工所」184—186

中島 正 「木材の化学工業」188—193

城戸元亮 <随想>「時局瑣談」194—197

神津康人 「万能工作機か専門工作機か——生産拡充は専門工作機に俟つ」198—202

山座道雄 「万能工作機か専門工作機か——汎用機か専用機か」210—212

草田時雄 「悪性インフレの行衛」214—

219

#### 4巻8号(1940年8月号)

<巻頭言>「中堅工員の再教育」1

大河内正敏 「科学主義工業と利潤」2—10

木原通雄 <随筆>「総同盟の解散と全産連の問題」11

木村禧八郎 「インフレーションと恐慌」12—19

神田 靖 「物動計画の成立とその示唆」20—25

渋谷正雄 「日本鉄鋼業と当面する問題」26—32

松岡考児 <随筆>「法幣・連銀券・軍票」33

森島恒雄 「科学教育の根本問題」34—38

渡部友次郎 <随感>「北支・蒙古視察偶感」39—43

豊田喜一郎 「大陸と自動車工業」44—48

古沢一夫 <随筆>「無駄の話」49

網川武良司 「『技術的委任統治』を提唱す」

- 50—52
- 古崎秀次郎 「『技術の公開・提携』を論ず」  
54—59
- 上野栄二 「産業評壇」77—79
- 向山幹夫 「研究と技術の統制」60—63
- 安藤喜三 「『技術の公開』に就いて」64—  
68
- 児玉晋匡 「『技術の公開』是非論」70—72
- 尾崎秀実 「普陀山のこと」73—75
- 福原達三 <随筆>「フィルムの速さ」  
76
- 菊川忠雄 「『産業報国』運動強化への途」  
80—85
- 山口吉郎 <随想>「ヒットラーの演説」86  
—89
- 板倉 進 「英仏の悪因縁」90—95
- 美濃部洋次 「物価問題の帰趨（完）」96—  
99
- 栄国嘉七 「日本の要求する工作機械」100  
—105
- 篠田敏造 「発明の煙幕時代（一）」106—  
109
- 丸山政男 <随筆>「ソ連対外動向の一考察」  
115
- 西野入愛一 「近衛公への期待」116—119
- 桑原季隆 「鉄鉱石は貧鉱化するか」120—  
127
- 石原広一郎 「産業と領土」128—134
- 池田さぶろ 「生産部隊長奇襲報告」135—  
140
- 円地与四松 <随筆>「全体主義と会議の価  
値」141
- 富塚 清 <随想>「私生活面に於ける科学  
主義の徹底」146—150
- R・ドゥヴォラーク 「権力と技術」151—  
154
- 山本正雄 <随筆>「奢侈禁止令」155
- 渡瀬正磨 <日本生産技術史抄>「日本造船  
今昔物語」156—163
- 並木斗羅夫 「禁輸下の大型工作機械の自給  
策」164—168
- 内田俊一 「化学工業用装置及び機械の自給」  
170—174
- 交川 有 <随筆>「経済参謀本部を設置せ  
よ」175
- 中田義算 「屑鉄入手難と技術的対策」176  
—182
- 祖父江寛 <随想>「廃物より副生物への科  
学」183—185
- 稲葉清一 「航空機工業と自給問題」186—  
189
- 矢島忠和 「ニッケル対策の現状」190—  
195
- 庄司 務 「工業用塩輸入難とその対策」  
196—201
- 和井和衛 <経済時評>「滑り出した新秩序」  
202—206
- 三橋鉄太郎 <万人の技術解説>「磁石鋼の  
話」207—215
- 東条恒雄〔三枝博音〕 <技術者小伝>「ゲ  
オルク・アグリコラ」216—223
- 4巻9号（1940年9月号）
- <巻頭言>「工業の新体制」1
- 土屋喬雄 「明治産業革新の現代への教訓」  
2—11
- 松前重義 「『技術参謀本部』の提唱」12—  
19



- 松井春生 「新経済体制の動向」 20—26
- 常岡俊三 <随筆> 「科学振興と中堅技術者」 27
- 片岡 安 「戦時下の独伊を視て」 28—32
- 土屋 清 「農村再組織と農業機械化」 34—40
- 上野栄二 「産業評壇」 41—43
- 猪谷善一 「世界ブロック化と我が貿易政策」 44—47
- 直井武夫 <随筆> 「技術家の保守主義」 48
- 相川春喜 「技術の性格と技術統制」 50—55
- 山口八次 「工作機械の国内的自給方策」 56—60
- 吉田享二 <随想> 「科学行進」 61—63
- 星子 勇 「国防力と自動車工業」 64—68
- 大渡順二 <随筆> 「官界新態勢のために」 69
- 高橋 清 <随想> 「北支の水汲法」 70—73
- 辻川忠義 「独空軍の威力と航空機工業への示唆」 74—80
- 山崎靖純 「財経策につき新内閣へ要望す」 82—87
- 亀井貫一郎 「新体制と科学革命」 88—89
- 伊部貞吉 <随筆> 「燃えない家と燃え悪い家」 90
- 篠田敏造 「発明の煙幕時代(二)」 91—94
- 木村孫八郎 「財経策に就き新内閣に要望す」 96—99
- 下出義雄, 三輪常治郎, 加藤保一, 横井藤八, 田中元蔵 <座談会> 「中京産業人の時局を語る会」 100—109
- 田沼 征 「産業団体再編成の急務と其方途」 110—115
- 田村幸策 <随筆> 「近衛公の政党抹殺論」 116
- 長沢寸美遠 <万人の技術解説> 「浴具取付具の話」 121—127
- 橋口男義 「我が航空機工業と技術者の要望」 128—132
- 根津知好 <随筆> 「フランクのブロック論」 133
- 清野謙六郎 「ソ軍の機械化と自動車工業」 134—138
- 阿部賢一 「新認識と大東亜の建設」 139—142
- 尾形輝太郎 <随筆> 「発見と幸運」 143
- 鈴木 寛 「塩の工業さまざま」 144—151
- 小柳勝蔵 「各社に現下の研究課題を聴く——洋灰・製銃・石綿の研究」 152—155
- 紀喜一郎 「各社に現下の研究課題を聴く——油脂成分・高級ケトンなど」 156—159
- 可児弘一 「各社に現下の研究課題を聴く——ロック・ファイバーの研究に就て」 160—163
- 高橋兼治郎 「各社に現下の研究課題を聴く——合成ゴム及び合成樹脂の研究」 164—167
- 加藤重男 「各社に現下の研究課題を聴く——ディーゼル・エンジンの改良」 168—171
- 松島 喬 「各社に現下の研究課題を聴く——多硫化物系合成ゴム」 172—177
- 山高五郎 「各社に現下の研究課題を聴く——計器製作に就て」 178—180
- 山本洋一 「金属の受働態についての常識(一)」 181—187
- 八代 保 <日本生産技術史抄> 「日本板硝子工業の昔と今」 188—193
- 神馬新七郎 「利潤統制の実施と企業者」

- 194 — 197
- 新井章治 「小林商相への待望」 198 — 202
- 小山栄三 <随筆> 「蔣政権の科学振興策」  
203
- 小菅高, 田野辺経義, 須藤三郎, 中村美音雄  
「職場日記拝見」 204 — 209
- 田辺輝一郎 「新体制下の工作機械事業」  
210 — 213
- 東条恒雄 [三枝博音] <技術者小伝> 「臥  
雲辰致」 214 — 220
- 4 卷10号 (1940年10月号)
- <巻頭言> 「敢て我田に水を」 1
- 八田嘉明 「技術と産業の直結」 2 — 11
- 大河内正敏 「科学主義工業と原価計算」 12  
— 21
- 毛里英於菟 「生産経済の根本理念」 22 — 27
- 富成喜馬平 「産業新体制下の『人と技術』」  
28 — 35
- 武富 昇 <随筆> 「日本趣味と西洋趣味」  
36
- 藤岡由夫 <随想> 「清水トンネル」 37 — 41
- 岩井良太郎 「新体制下の企業経営」 42 — 48
- 阿部真之助 <随筆> 「子を売る」 49
- 今村奇男 「伊太利工業界を視る」 50 — 54
- 大塚誠之 <万人の技術解説> 「工具の話」  
55 — 61
- 梶井 剛 「技術の自主性と積極性」 62 — 68
- 今村武雄 <随筆> 「東亜共栄圏と石油」  
69
- 後藤一雄 「技術の国家管理と新体制」 70 — 73
- 浜田成徳 「科学精神と国力拡充」 74 — 79
- 本多静雄 「科学技術団体の新動向」 80 — 85
- 篠原 登 「技術の新体制に寄す」 86 — 91
- 木村介次 「技術政策の具体的方法」 92 — 99
- 山崎和勝 <随筆> 「日満融合と宗教」 100
- 上野栄二 「産業評壇」 101 — 103
- 内田武男 「独逸のダムピング体制」 104 —  
108
- 森谷克己 <随筆> 「ドイツ電撃的戦捷の社  
会的教訓」 109
- 森 喜一 「中小機械工業の帰趨」 110 —  
115
- 横田弘之 「北海道工業開発論」 116 — 120
- 八木沢善次 「カバフト炭坑調査日記抄」  
121 — 126
- 永野為武 <随筆> 「橋田文相論の論」 127
- 橋井真, 今野源八郎, 吉岡金市, 佐藤弘, 小  
貫弘, 諸井貫一, 小峰柳多 <座談会>  
「『国土計画』の進展」 128 — 153
- 多田照夫 「ソ連の科学政策」 154 — 159
- 常岡俊三 「人造石油の一改良面」 160 — 1  
167
- 原 祐三 「通貨の新体制と金の価値」 168  
— 170
- 重徳泗水 <随筆> 「科学的素地」 171
- 西沢勇志智 「我が火薬界の昔と今」 172 —  
178
- 篠田敏造 「発明の煙幕時代(三)」 179 —  
181
- 藤原唯義 「製鋼業と屑鉄並にその代用品」  
182 — 187
- 三橋鉄太郎 「技術時評」 188 — 193
- 坪井忠二 <随想> 「地震雑談」 194 — 199
- 吉岡修一郎 <随筆> 「『理』の形而上的と  
形而下の意味」 200
- 山本洋一 「金属の受働態についての常識  
(二)」 201 — 208

三輪寿壮 <随筆>「新体制強化の方策」

209

高野勇, 斎藤光雄, 斎藤吉生, 志賀光隆, 川

崎宗文 「職場日記拝見」 210 - 216

小松原久治 「国産ニッケル鉱よりコバルト  
の回収」 217 - 223

新壮武人 「魚油の利用の種々相」 224 -

228

長岡隆一郎 <随想>「労務者の住宅」 229  
- 231

#### 4 卷11号 (1940年11月号)

<巻頭言>「飛躍絶好の秋」 1

永井茂三郎 「国防経済に於ける産業経営」  
2 - 13

大河内正敏 「科学主義工業と原価計算(完)」  
14 - 25

暉峻義等 「新体制と労働力再編成の方向」  
26 - 32

鶴見左吉雄 <随筆>「時局と発明」 33

木村禰八郎 「経済上から見た米国戦争能力」  
34 - 41

松本雅男 <随筆>「計理制度の整備統一」  
42

市川文三 「米国戦時経済の諸問題」 44 - 50

ア・フレンキナ 「ヘルマンゲーリング鉱山  
冶金コンツェルンに就て」 51 - 53

三橋鉄太郎 <技術時評>「重点主義と技術  
的創意」 54 - 59

聴涛克己 <随筆>「自然科学者と方法論」  
60

松沢武雄 「ホロンバイルに石油徴候地帯を  
探る」 61 - 67

小原敬士 「アメリカ軍需産業の強弱面」 68

- 76

大泉行雄 <随筆>「人体資源」 77

戸田武雄 「機械と経営」 78 - 85

今泉嘉一郎 「トーマス平炉法の再認識」 86  
- 90

田中香苗 <随筆>「バスと支那事変処理」  
91

高宮 晋 「三国同盟の経済的意義」 92 - 98

武田鼎一 <随筆>「新体制物語」 99

後藤末雄 「自然科学の機能」 100 - 106

上野栄二 <産業評壇>「金融対策と中小商  
工業対策」 107 - 112

西山栄九 <随筆>「支那の一部にも新体制  
行わる」 113

赤松 要 「新体制下の企業・経営原則——  
資本の地位」 114 - 121

黒沢 清 「新体制下の企業・経営原則——  
企業と利潤」 122 - 127

斎藤 忠 <随筆>「艦船と砲熕」 128

星野周一郎 「新体制下の企業・経営原則——  
一技術の地位」 130 - 135

秋沢修二 「新体制下の企業・経営原則——  
経営協同体の理念」 136 - 143

早坂力, 富塚誠, 野田正一, 藤沢威雄, 菊池  
淳一, 宮崎藤次郎, 海老原敬吉, 小峰柳多

<座談会>「我国工作機械工業の確立」  
144 - 177

島田晋作 「金融資本は何処へ行く」 178 -  
184

禾川 博 <随筆>「形成と実質」 185

八木沢善次 「科学主義満州」 186 - 193

古崎秀次郎, 後藤正夫, 日月紋次, 楠瀬四郎,  
宮城音五郎, 藤井忠二, 玉置正一, 中原虎

男, 杉野喜一郎, 三根繁太, 山本峰雄

- 「技術院に要望す」 186 — 193
- 藤室益三 「独逸工作機械工業の印象」 194 — 201
- 東条恒雄 [ 三枝博音 ] <技術者小伝> 「橋本宗吉」 202 — 208
- 井上重則 「パルプ原料としての日本産樹種」 209 — 211
- 山本洋一 「金属の受働態についての常識 ( 完 )」 212 — 216
- 山中 芳 「天然石油より観たる石油対策」 217 — 224
- 星野博, 栗原忠一, 藤田喜作, 田崎ヤス子 「職場日記拝見」 225 — 231
- 4 卷12号 ( 1940年12月号 )
- <巻頭言> 「技術の日本的確立」 1
- 名和統一 「日本経済機構分析と現階的課題」 2 — 13
- 大河内正敏 「満州朝鮮台湾の工業立地」 14 — 26
- 小原亀太郎 <随筆> 「用途転換」 27
- 高橋亀吉 「中小工業困難の意義とその打開策」 28 — 34
- 辻 二郎 「朝鮮雑記」 35 — 37
- 伍堂卓雄 「生産国家体制の確立」 38 — 44
- 三浦伊八郎 <随筆> 「科学日本の建設」 45
- 小島精一 「鉄鋼業機構改革の重点」 46 — 49
- 菅波称事 「自主的鉄鋼業の確立」 50 — 55
- 児玉晋匡 「鉄鋼対策の中心課題」 56 — 64
- 長 文連 <随筆> 「会社の営利性」 65
- 市川弘勝 「鉄鉱資源の確保」 66 — 73
- 小平権一 「東亜の新農業体制」 74 — 77
- 山城 章 「経理統制と新企業形態」 78 — 84
- 会田軍太夫 <随筆> 「科学・技術の統制機構」 85
- 美濃口時次郎 「転失業労力の配置」 86 — 92
- オイローバ・ゾンダーディーンスト誌 「英国はインフレーションを避け得るか」 93 — 95
- 中楯寿郎 「満州産業開発とその諸問題」 96 — 104
- 三橋鉄太郎 <技術時評> 「万能工場より単能工場へ」 105 — 109
- 平館利雄 「ソ連第3次5ケ年計画現段階」 110 — 116
- 今野武雄 <随筆> 「小学教師」 117
- 浜田成徳, 堀岡正家, 堀川冬弘, 内田俊一, 藤沢威雄, 宮本武之輔, 木村介次, 小峰柳多 <座談会> 「科学技術新体制と国家管理」 118 — 146
- 松本 源 <随筆> 「非常時と化学分析」 147
- 豊田喜一郎 「国産自動車の大進勢」 148 — 154
- 小林良之助 <万人の技術解説> 「オクタン価の話」 155 — 158
- 井上憲一 「本邦パルプ工業の歩んだ途」 159 — 165
- 東条恒雄 [ 三枝博音 ] <技術者小伝> 「ヨハネス・グーテンベルク」 168 — 175
- 船山信一 「技術と生活」 176 — 183
- 佐野健次 「超高速度写真撮影機の工業的応用」 184 — 189
- 栗原藤七郎 「中支那農村の印象」 190 — 195
- 岡田宗司 「日・仏印経済提携の新展望」 196 — 204
- 庄司謙次郎 「飼料工業論」 205 — 209

- 和辻春樹 「新体制と技術の分野」 210 — 216
- 上野栄二 <産業評壇>「我が経済的弾力性」 217 — 221
- 篠田敏造 「発明の陣痛時代(一)」 222 — 225
- 池島重信 「技術と人間形成」 226 — 232
- 宮川市太郎, 河井勇, 木島政太郎「『職場日記』拝見」 234 — 238
- 5 卷 1 号 (1941年 1 月号)
- <巻頭言>「企業合同の根拠と基準」 1
- 杉村広蔵 「公益優先と組合財閥」 2 — 8
- 河田嗣郎 <随筆>「技術と経営」 9
- 大河内正敏 「資本と経営の分離」 10—22
- 石原 純 「科学と技術との交流」 24—29
- 森谷克己 「東洋の生産様式と共栄圏確立」 30—38
- 藤沢勇次 <随筆>「米国の肩鉄禁輸」 39
- 高島佐一郎 「世界新秩序下の経済新体制・金融新体制」 40—47
- 加茂儀一 <書評>「科学日本の建設(富塚清著)」 48—49
- 神田 靖 「戦争経済の展開と経済計画の課題」 50—58
- 小野儀七郎 「満州生産力と日満支物動計画」 60—70
- 下田吉人 <随筆>「小鮎の旅」 71
- 押川一郎 「北支経済建設の方向と『物動』」 72—80
- 北村三郎 <時人解説>「菅井準一」 81—83
- 小西千比古 「南方資源の『物動』化」 84—90
- 友岡久雄 「三国同盟と貿易政策の新展開」 92—100
- 田中 定 <随筆>「適正農家」 101
- 中原虎男 「新聞科学欄の批評」 102 — 105
- 益田直彦 「日ソ国交調整の経済的意義」 106 — 112
- 岡田金治 「国内資源の再確認とその活用策」 114 — 122
- 小倉一郎 <時人解説>「片倉三平」 123 — 125
- 大河内正敏・有馬頼寧 <対談会>「時局縦横談」 126 — 144
- 広崎真八郎 「勤労の理念と産業報国運動」 146 — 152
- 山口吉郎 「伯林日記」 153 — 159
- 高橋誠一郎 <随筆>「福沢先生の科学知識」 160
- 佐藤信衛 「技術の基礎」 162 — 168
- 黒田乙吉 <随筆>「ロシヤの汽車」 169
- 荒木 直 「生産・配給・消費の分合」 170 — 177
- 富塚 清 「科学的と云うものの階級」 178 — 183
- 石山賢吉 <随筆>「科学に盲目的な浪費者」 185
- 三木清・毛里英於菟 <対談会>「明日の科学日本の創造」 186 — 207
- 名和統一 「日本経済機構分析と現階的課題(二)」 210 — 217
- 内田源兵衛 「欧米近況雑感」 218 — 222
- 菅 隆俊 <随筆>「工人と日本魂」 223
- 松川達夫 「銚鋼一貫作業の確立」 224 — 229
- 小倉一郎 <時人解説>「向井忠晴」 230 — 232

- 三枝博音 <書評>「パーソンズ著『ルネッサンスと近代技術』(牧・広野共訳)」  
234 - 235
- 有森 毅 「満州産粘土よりアルミナの精製」  
236 - 240
- 俵 国一 「日本刀の科学談義」 241 - 243
- 島田晋作 <産業評壇>「経済新体制と生産力拡充」 244 - 250
- 河西太一郎 <隨筆>「職域奉公」 251
- 遠藤完太郎, 桜田一郎, 荒井溪吉, 吉岡直富, 島村芳三 <座談会>「ス・フ技術の公開」  
254 - 266
- 岸 道三 「青年科学技術者の任務」 268 - 272
- 田中館秀三 <隨筆>「生活の科学的合理化」  
274
- 飯島 正 「科学映画について」 275 - 279
- 北嶋三省 「実験室雑話」 280 - 284
- 菊田屋三郎 <技術時評>「科学・技術の日本的性格」 285 - 289
- 小泉 丹 <隨筆>「飾柱」 290
- 池田さぶろ <現地報告>「生産『日立』画譜」 291 - 295
- 東条恒雄〔三枝博音〕 <技術者小伝>「佐久間象山」 296 - 303
- 新村唯治 <万人の技術解説>「半成コークス(コーライト)の話」 304 - 309
- 古野伊之助 「世界と日本」 310 - 318
- 坂野善郎 <隨筆>「患者と二人の医師の話」  
319
- 5 卷 2 号 (1941 年 2 月号)
- <巻頭言>「技術の公開を潮流にまで」 1
- 大河内正敏 「発明の体験を語る」 2 - 13
- 内藤 勝 「『物動』下の労働力新編成」 14 - 22
- 小竹無二雄 <隨筆>「理学者の悩み」 23
- 森 茂樹 「欧州大戦と英国鉄鋼業の苦悩」  
24 - 37
- 平野常治 <隨筆>「資本と経営の分離」 38
- 小野儀七郎 「満州生産力と日満支物動計画(二)」 39 - 43
- 高島佐一郎 「世界新秩序下の経済新体制・金融新体制(二)」 44 - 50
- 森 武夫 <隨筆>「先づ足許を固めよ」 51
- 山本友太郎 「日鉄改組を解剖する」 52 - 57
- 菅井準一 「文化と科学・技術」 58 - 71
- 崎山正毅 <隨筆>「文化・技術の個と全」  
72
- 「ソ連経済地理」 山本幡男訳 「ソ連邦生産諸力配置の基本的諸問題」 73 - 84
- 菱山辰一 <時人解説>「武内文彬」 85 - 87
- 高崎達之助 「独伊経済体制瞥見」 88 - 92
- 奥井復太郎 <隨筆>「急迫時と余裕」 93
- 戸坂 潤 「手法技術についてのエッセイ」  
94 - 102
- 堀内利器 <隨筆>「技術者の節約」 103
- 小倉一郎 <時人解説>「種田健蔵」 104 - 106
- 岡田金治 「国内資源再確認とその活用策(二)」 107 - 113
- 新倉利広 「物価政策と生産力拡充」 114 - 120
- 菊田屋三郎 <技術時評>「日本技術の欧米依存を排す」 121 - 125
- 北村三郎 <時人解説>「栗本勇之助」 126 - 128
- 宗像道郎 「企業合同問題の焦点——電気事

業の新体制」129 - 134

三川一「企業合同問題の焦点——石炭鉱業の統合と新体制」135 - 143

金田健太郎「企業合同問題の焦点——機械工業の企業合同と産業新体制」144 - 150

遠藤完太郎「企業合同問題の焦点——繊維工業の合同と新体制」151 - 159

矢崎為一「アメリカ近感」160 - 164

島田晋作〈産業評壇〉「第2次電力国家管理案」165 - 171

井村竹市「日独製鋼技術の交流に就て」172 - 176

岡庭博〈随筆〉「中小工業の再編成」177

石川一郎「日独化学工業技術の交流に就て」178 - 181

森川覚三「習慣性の危険」182 - 185

新明正道「和平支那の文化的胎動」186 - 191

下光太郎〈随筆〉「合成ゴムの問題」192

早坂力〈日本生産技術史抄〉「我が工作機械工業の今昔(一)」193 - 199

久我貞三郎「化成工業の統計的研究」200 - 220

宮田聡〈万人の技術解説〉「アルマイトの話」221 - 232

東条恒雄〔三枝博音〕〈技術者小伝〉「豊田佐吉(一)」233 - 241

寺尾新〈随筆〉「修養の一新工夫」242

桜井武雄〈書評〉「奥谷松治著再編成過程の農業機構」243 - 244

松沢武雄〈書評〉「W・フィルヒナー著科学者の韃靼行(満鉄弘報課訳)」245 - 247

5巻3号(1941年3月号)

〈巻頭言〉「新興コンツェルンを激励す」1

富塚清「日本科学技術の確立」2 - 14

中保与作〈随筆〉「地縁と血縁」15

和気忠文「生産性の向上と中小工業」16 - 19

宮本武之輔「東亜共栄圏と日本技術」20 - 39

落合麟一郎〈随想〉「大陸」40 - 43

武藤光朗「統制経済の技術と倫理」44 - 49

畑敏男「生産増強の根本施策」50 - 57

山本勇三〈随筆〉「化学技術者の養成」60

馬込一郎〈時人解説〉「大和田悌二」61 - 63

三橋鉄太郎「発明方法論」64 - 80

大野信三〈随筆〉「増産体制への鍵」81

宮崎駒吉「最近の亜米利加」82 - 85

早坂力〈日本生産技術史抄〉「我が工作機械工業の今昔(二)」86 - 92

二階堂正治「工場管理の改革による増産の可能性」94 - 104

楠瀬四郎〈随筆〉「金属材料使用者に対する要望」105

根上耕一「工作法技師と職長の任務」106 - 112

大内経雄「技能競技の活用」114 - 119

東畑精一〈書評〉「四宮恭二著戦争・食糧・農業」120 - 121

桐原葆見「増産確保への労務管理」122 - 127

松本雅男「新経営指針と経営計理の使命」128 - 135

時子山常三郎〈随筆〉「技術と資源」136

和井和衛「新興コンツェルンを圧迫する金

- 融資本」 138 — 144
- 北村三郎 <時人解説>「高碓達之助」 145 — 147
- 横山達一 「自転車『タイヤ』製造技術の公開に就て」 148 — 151
- 東条恒雄〔三枝博音〕 <技術者小伝>「豊田佐吉伝(二)」 152 — 161
- 大西 斎 <書評>「細川嘉六著アジア民族政策論」 162 — 163
- 野村兼太郎 <随筆>「ものの名」 164
- 黒田泰造 「鉄鋼一貫主義と耐火材について」 166 — 169
- 島田晋作 <産業評壇>「業績低下と物価政策再検討」 171 — 177
- 「ソ連経済地理」 山本幡男訳 「ソ連邦生産諸力配置の基本的諸問題(二)」 178 — 190
- 沼倉三郎 「科学技術院その他」 192 — 197
- 加藤晴治 「南方資源と台湾の工業化」 198 — 205
- 「テヒニク・ウント・ベトリープ」誌, 木暮浪夫訳 「戦時下ドイツの労働生理学」 206 — 214
- 菊田屋三郎 <技術時評>「代用鋼の研究と学者」 215 — 219
- 秋吉三郎 <随想>「天然品と人造品」 220 — 226
- 「ダス・ライヒ」誌, 佐藤謙三訳 「独逸に於ける『代用材料』の応用」 227 — 229
- 金内良輔 「米国は東亜資源の何を狙うか」 230 — 242
- 篠田敏造 「発明の陣痛時代(二)」 244 — 247
- 5巻4号(1941年4月号)
- <巻頭言>「自由専門生産と計画専門生産」 1
- 大熊信行 「生活科学と生活技術」 2 — 14
- 鈴木重夫 <随筆>「中間研究」 15
- 郷古 潔 「国策の遂行と産業統計調査機構の整備」 16 — 18
- 大河内正敏 「禁輸に対抗する科学」 20 — 27
- 松前重義 「国防と技術」 30 — 44
- 園 乾治 <随筆>「二重の職域奉公」 45
- 佐々木外喜雄 「アメリカ精密機械工業の印象」 46 — 54
- 内田宗義 <万人の技術解説>「計算尺の効用」 58 — 65
- 交川 有 「技術の公開と工業所有権」 66 — 73
- 島田晋作 <産業評壇>「二つの労務者対策法」 77 — 82
- 田中忠夫 <随筆>「『学校化』教育」 83
- 「ソ連経済地理」 山本幡男訳 「ソ連邦生産諸力配置の基本的諸問題(三)」 84 — 90
- 鹿島孝三 <随想>「ロボットは働く」 92 — 98
- 武田晴爾 <随筆>「国防国家と技術者の道」 99
- 中西寅雄, 中野友礼, 小金義照, 秋永月三, 岸信介 <座談会>「産業新体制の進路」 100 — 123
- 井藤半弥 <随筆>「兵役税と人頭税」 124
- 平野義太郎 「上海虹口の機械工場を視る」 126 — 131
- 上野義雄 「新入少年工の作業訓練」 134 — 139



湊谷祝三郎 「古きものへの関心」 140  
篠田敏造 「発明特許の生誕時代」 141 —  
144  
喜多源逸 「鉄触媒に依る石油の合成」 145  
— 152  
中村 静 <随筆> 「盲目の小犬」 153  
木村禧八郎 「高物価・増産論の再検討」  
154 — 162  
佐藤 弘 <随筆> 「原料と資源」 163  
倉上 晃 「食糧増産策の根本的確立」 164  
— 170  
菊田屋三郎 <技術時評> 「重要機械製造事  
業法案と其の実施方策」 171 — 174  
中島清二 <随筆> 「見識を広めること」  
175  
中田義算 「屑鉄入手難に対する原料的転換」  
176 — 181  
錦織清治 「特殊鋼の原料転換」 182 — 193  
下光太郎 「原料対策と合成ゴム」 194 —  
202  
三浦伊八郎 「南洋土地生産力の驚異」 204  
— 209  
黒柳寛吉 「曹達工業と食塩」 210 — 217  
横山武一 「合成肥料の原料転換」 218 —  
223  
沢田慎一 「原料・燃料としての石炭の転換」  
224 — 229  
東条恒雄〔三枝博音〕 <技術者小伝> 「藤  
岡市助」 232 — 240  
河西太一郎 <書評> 「吉岡金市著農業機械  
化の基本問題」 242 — 245  
ボルヒャールト、佐藤謙三訳 「ドイツ戦車  
の攻撃力の秘密」 245 — 247

5 卷 5 号 (1941 年 5 月号)

<巻頭言> 「工務官制度に希望す」 1  
長谷川如是閑 「生活文化と科学」 2 — 10  
小幡重一 <随筆> 「安全剃刀と蓄音機針」  
11  
大河内正敏 「高度国防国家の鉄鋼政策」 12  
— 22  
益田直彦 「欧州戦争と各国の原料対策」 24  
— 38  
北浦重之 <随筆> 「科学各部門の相互援助」  
39  
島田晋作 <産業評壇> 「小倉経済政策の方  
向」 40 — 46  
酒枝義旗 <随筆> 「英雄精神と商人根性」  
47  
岸本誠二郎 「最近の金融と今後の対策」 50  
— 57  
多田礼吉 <随筆> 「科学主義と測器」 58  
玉置明善 <随筆> 「米国の石油工業とその  
技術」 59 — 67  
小山謙吉 「日本工業発達史(一)」 70 — 78  
番場恒夫 「鉄鋳滓よりトーマス燐肥の製造」  
80 — 84  
神津康人 <随筆> 「機械工業と多量生産」  
85  
天野敏男 「生産拡充下の副産物活用——パ  
カス・バルブに就て」 86 — 91  
小林健寿 「生産拡充下の副産物活用——硫  
化鉄鋳滓より優良製鋼原料の製造」 94 —  
96  
菊田屋三郎 <技術時評> 「科学動員の根本  
問題」 97 — 101  
西 済 「生産拡充下の副産物活用——燃  
料用バルブ酒精の製造」 102 — 107

- 遠藤藤雄 「生産拡充下の副産物活用——石綿代用の『鉸滓綿』」 108 — 112
- 重松光夫 <万人の技術解説>「ゲージの話」 113 — 121
- 星野昌一 <随想>「色のはなし」 122 — 126
- 伊佐秀雄 <随筆>「統制と指導」 127
- 中山伊知郎 「戦争経済学の本質」 128 — 139
- 山中篤太郎, 馬淵良逸, 佐藤筈太郎, 砂長谷哲夫, 小峰柳多 <座談会>「中小工業の生産動員」 142 — 165
- 今村明恒 <随筆>「人と国」 166
- 菊池麟平 「本邦製鋼方式への反省」 168 — 178
- 泉 三郎 <随想>「日本科学者の悲劇」 182 — 186
- 菱山辰一 <随筆>「内閣改造の動向」 187
- 雨笠桑三郎 「農村工業の現状とその将来(一)」 188 — 198
- 中川 博 <本邦生産技術史抄>「日本セメント工業の今昔(一)」 200 — 208
- 香月 保 <随想>「科学と野性」 210 — 212
- 5 卷 6 号 (1941年 6 月号)**
- <巻頭言>「軍の機械化と科学主義工業」 1
- 大河内正敏 「低物価の増産(完)」 2 — 14
- 永田 清 「財政政策の基盤」 16 — 22
- 諸井貫一 <随筆>「政策の科学化」 23
- 大木秀男 「経営合理化と技術」 24 — 30
- 大角 亨 「技術者の陣頭挺身の職責奉公」 32 — 45
- 矢野良三 「鉄鋼統制会の性格と課題」 46 — 52
- 利根川教一 「科学者の日本的悲劇」 53 — 57
- 鈴木東民 <随筆>「科学させる心」 58
- 永井八津次 「ソ連の科学施設を見る」 60 — 61
- 桐原葆見 「北支蒙境の労務管理」 62 — 67
- 小峰柳多 「専門生産論」 68 — 78
- 東条恒雄 [三枝博音] <技術者小伝>「宮原二郎(一)」 82 — 88
- 鳳誠三郎 <随想>「なぜ雷を捉へねばならぬか」 89 — 93
- 泉三郎, 玉置明善, 山本峰雄, 松前重義, 小山謙吉 <座談会>「日本科学技術への省察」 96 — 124
- 栗原嘉名芽 <随筆>「必要と十分」 125
- 清水幾太郎 「技術の限界」 126 — 129
- 篠原 登 「技術躍進への途」 130 — 135
- 篠遠喜人 「国語と科学」 136 — 138
- 広瀬正雄 <随筆>「事業家と技術家」 139
- 大村一郎 「閩印の石油」 140 — 146
- 松島喜市郎 「トーマス製鋼法の特徴とその利用」 148 — 152
- 和辻春樹 <随筆>「海上輸送力」 153
- 郡菊之助 「北支交通雑観」 154 — 161
- 中川 博 <本邦生産技術史抄>「日本セメント工業の今昔(完)」 164 — 171
- 戸塚正二 <随筆>「我輩は空気である」 172
- 荒木光太郎 「金融政策の新分野」 174 — 181
- 島田晋作 <産業評談>「統制会の在り方」 182 — 187
- 国弘員人 「企業合同とカルテル」 190 — 196
- 井上貞蔵 <随筆>「新情勢と繊維資源」

- 197
- 小嶋時久 「機械化装備と各国の国防工業—  
—日本」 200 — 206
- 吉永義尊 「機械化装備と各国の国防工業—  
—独逸」 208 — 213
- 長谷川正道 「機械化装備と各国の国防工業  
—英国」 214 — 219
- 大塚 修 「機械化装備と各国の国防工業—  
—米国」 222 — 231
- 北沢五郎 <随筆>「波乗り」 232
- 川崎文彦 「機械化装備と各国の国防工業—  
—ソ連邦」 234 — 243
- 堀岡米吉 「経済的生産量の計画的統制」  
246 — 252
- 石原 励 <随筆>「機械は生物」 254 —  
257
- 吉城肇壽 「原料問題と技術」 258 — 265
- 鯉沼茆吾 <随筆>「職業寿」 266
- 益田森治 <万人の技術解説>「機械プレス  
の話」 268 — 276
- 石原 純 「科学的精神の真髓」 278 — 289
- 小山謙吉 「日本工業発達史(二)」 290 —  
298
- 菊田屋三郎 <技術時評>「工務官制度と技  
術公開」 299 — 303
- 5 卷 7 号 (1941 年 7 月号)
- <巻頭言>「多量生産工学と少量生産工学」  
1
- 長岡半太郎 「科学技術新体制に関する声明」  
2 — 5
- 石浜知行 「新支那経済再建の方途」 6 — 12
- 高村象平 「技術史の構造」 14 — 20
- 秋沢修二 <随筆>「科学精神か科学信仰か」
- 21
- 中島頭三 「死蔵特許を開放せよ」 22 — 34
- 渡辺万次郎 「戦局の展開と欧州鉍産資源の  
帰趨」 36 — 44
- 池田謙三 <随筆>「尽性」 48 — 53
- 阿部賢一 <随筆>「途にはだかるな」 54
- 菊田屋三郎 <技術時評>「科学技術新体制  
要項について」 56 — 60
- 佐立健雄 <随筆>「科学技術の栄養」 61
- 山岡 武 「屑鉄回収運動に際して」 62 — 63
- 東条恒雄〔三枝博音〕 <技術者小伝>「宮  
原二郎(完)」 66 — 73
- 樺 俊雄 <随筆>「技術と個性の問題」 76
- 吉川晴十 「独・英軍艦の装甲板と徹甲弾」  
78 — 85
- 佐々木喬 「東亜共栄圏と日本農業の課題」  
86 — 91
- 井出季和太 <随筆>「支那事变処理と南洋  
華僑対策」 92
- 伏木敬介 「ソ連邦の農業科学」 94 — 100
- 増田作太郎 <随筆>「毒箭」 101
- 長岡順吉 <随筆>「暑さの凍結」 102 —  
107
- 仁科芳雄, 桑木或雄, 菅井準一 <鼎談会>  
「科学と国策」 110 — 131
- 坪井忠二 <随筆>「一つの逆説」 132
- 下田吉人 <随筆>「『勝利の歴史』その他」  
133 — 137
- 中村正五郎 「機械配置と作業工程管理」  
140 — 146
- 田杉 競 <随筆>「内地と外地」 147
- 鶴 五郎 「機械工具管理と作業用具」 148  
— 156
- 由井真吉 <経営論壇>「コンツェルンの統制

- 機構」157—161
- 山田正盛 <万人の技術解説>「合成樹脂の話」162—167
- 福田 勇 「作業効率向上による増産確保—作業研究」168—176
- 木村孫八郎 <随筆>「ケチン棒の機構化」177
- 古沢一夫 「作業効率向上による増産確保—労働の疲労と作業時間」178—189
- 山口貫一 「作業効率向上による増産確保—工員の訓育と作業効率」190—194
- 上床国夫 <本邦生産技術史抄>「日本石油鉱業の今昔(一)」195—201
- 西田博太郎, 清水勤二 <対談会>「技術教育の革新」202—225
- 豎山利忠 <産業評壇>「物価政策の新段階と産業合理化」226—231
- 5巻8号(1941年8月号)
- <巻頭言>「工業非常時の再認識」1
- 小倉金之助 「日本科学への要望」2—14
- 暲峻義等 「産業前線の展望」16—21
- 大島義清 「ドイツ人造石油政策」22—25
- 上田嘉助 <随筆>「科学研究の新体制」26
- 粟屋良馬 <随筆>「冰雪雑話」27—31
- 今井四郎 「工作機械工業の生産分野決定」32—35
- 森 武夫 <随筆>「戦闘資材の多量生産」36
- 菊田屋三郎 <技術時評>「技術批評の貧困と独・ソ戦争」37—41
- 大村一蔵 <随筆>「非科学主義工業」42—47
- 大島 清 「戦時恐慌の克服」48—54
- 菱沼 勇 <随筆>「日本人と支那人」56
- 西沢勇志智 <随筆>「花火漫筆」57—61
- 住田正一 <随筆>「会して議せず」62
- 船山信一 「科学技術論への哲学的反省」64—71
- 平館利雄 「独・ソ総合国力の検討——独ソ戦争の経済的背因」72—77
- 平岡雅英 「独ソ総合国力の検討——独ソの科学技術政策」80—87
- 岡崎三郎 <随筆>「学術雑誌と外国語」88—91
- 増野 実 <随筆>「北滿開拓と大豆」92
- 西野杉雄 「独ソ総合国力の検討——戦う独・ソの工業力」94—101
- 木村民蔵 「独・ソ総合国力の検討——独・ソ機械化部隊の現況」102—105
- 田辺朔郎 <随筆>「北進に関する回顧と希望」106—108
- 山本峰雄 「独・ソ総合国力の検討——独・ソ軍時航空の比較」110—120
- 福田光治 <随筆>「硝子と涼味」121—124
- 三枝博音 <技術者小伝>「レオナルド・ダヴィンチ」128—135
- 大岩和嘉雄 <随筆>「『赤軍』と『紅軍』」136
- 由井真吉 <経営者の立場>「在庫鉱材交換の精神」137—140
- 長谷川如是閑, 谷川徹三, 辻二郎 <鼎談会>「科学と文化」142—184
- 大塚 好 <随筆>「科学の日本的性格とは？」185
- 松島喜市郎 <日本工場史>「日本鋼管株式会社(一)」186—190

上床国夫 <本邦生産技術史抄>「日本石油  
 鉱業の今昔(完)」191—195

岡田宗司 「蘭領印度の刻下的情勢——蘭印  
 を繞る国際政治経済戦」198—207

大町四郎 「蘭領印度の刻下的情勢——蘭印  
 に於ける採油の現況」208—216

渡辺 慧 <随筆>「波と砂」217—221

田中勝俊 「蘭領印度の刻下的情勢——蘭印  
 の対外貿易」224—232

山田文雄 「蘭領印度の刻下的情勢——蘭印  
 に於ける邦人の活動」234—241

新井雲涛 <万人の技術解説>「ハンマーの  
 話」242—247

内山徳治 <随筆>「自ら恃むあるの用意」  
 248

倉石精一 <随筆>「成層圏飛行」249—  
 253

吉村正, 斉藤直幹, 内田源兵衛, 木村禧八郎,  
 今野源八郎, 茂森唯士 <座談会>「独・  
 ソ戦と兵器廠・米国」254—280

暨山利忠 <経済時評>「計画的貿易の機構  
 的急進展」282—287

### 5巻9号(1941年9月号)

<巻頭言>「統制会への要望」1

武田良三 「近代技術と民族の問題」2—12

松岡孝児 <随筆>「仏印文化研究の急」13

高宮 晋 「生産力拡充と組織的合理化」14  
 —21

桜井武雄 「農業政策の基本課題」22—31

大日方一司 <随筆>「マグネシウムのステ  
 ッキ」32

中沢誠一郎 「戦時下都市計画の性格」34—  
 41

湯川秀樹 「科学の伝統」42—46

阪本 勝 <随筆>「シュルツェ氏のことな  
 ど」47

原乙未生 「独逸兵器工業の戦時体制」48—  
 53

奥井復太郎 「北方資源の地政治学的考察」  
 54—62

山根新次 「ソ連極東の地下資源」64—71

会田軍太夫 「技術院に対する要望」72—76

津田秀栄 <随筆>「南方資源開発に直面し  
 て」77

上床国夫 「北方の石油資源」78—88

平 実 <随筆>「国土計画と技術向上」  
 90

土屋 清 <経済時評>「英・米・蘭の新攻  
 勢と日本経済の臨戦化」91—96

渡辺政人 <随筆>「生拵起動力としての報  
 賞制度」97

西部志郎 「西伯利及び極東のバルブ資源」  
 98—105

祥瑞専一 「北洋水産資源の展望」106—116

加茂儀一 <随筆>第四王国の解明 117

河合良成, 野崎龍七 <対談会>「日本経済  
 の臨戦体制」118—141

荒井溪吉 「技術院の運営」142—149

片野美津夫 「ソーダ工業技術の統制問題」  
 150—158

後藤安太郎 <随筆>「経営者の再教育」  
 159

足立英夫 「有機合成工業の技術的諸問題」  
 160—169

武内謙二 「無機酸系工業の技術偏在の是正」  
 170—174

桜田一郎 <随筆>「デンマークの一少女の

- 願い」 175
- 杉村盛一 「アルミニウム工業の総力戦体制」  
176—182
- 菊田屋三郎 <技術時評>「生産力の増大と  
一貫作業主義の逆効果」 183—188
- 松島喜市郎 <日本工業史>「日本鋼管株式  
会社(二)」 189—195
- 石原 励 「技術院私見」 196—199
- 平竹伝三 「独ソ戦の経済持久力」 200—  
207
- 5 卷10号(1941年10月号)
- <巻頭言>「中小工業の再編」 1
- 大河内正敏 「国防経済と科学」 2—14
- 犬丸秀雄 <随筆>「米国科学振興局」 15
- 大蔵公望 「東亜新秩序建設と科学の即応」  
16—24
- 安藤 暹 <随筆>「水閑話」 25—31
- 増地庸治郎 「戦時下配給機構の整備」 32—  
39
- 中沢誠一郎 「戦時下都市計画の性格(完)」  
40—50
- 石原道博 <随筆>「日本刀歌」 51
- 服部頼太郎 「ドニュープロストロイの経済  
的地位」 52—57
- 市川千葉三 「独逸占領地域の産業工作」 58  
—64
- 寺尾 新 <随筆>「涼味無題」 65—67
- 吉野檜三 「列強の狙ふ支那のタングステン」  
68—78
- 長谷部言人 <随筆>「既製着装品」 79
- 志村繁隆 「東辺道の秋」 80—85
- 小田博吉 「南洋鉱業の現況」 86—94
- 三井高陽 <随筆>「街は科学者を俟つ」 95
- 樋口正治 「援ソ・ルートとしてのイラン」  
96—100
- 河野達一 「独逸の科学的宣伝戦」 102—  
108
- 本田正次 <随筆>「新秋の野草」 109—  
113
- 菊田屋三郎 <技術時評>「生産力拡充に対  
する正しい理解」 114—119
- 東浦庄治 「米価対策と食糧増産」 120—  
125
- 麓 健一 「鉄鋼価格調整論」 126—133
- 丸枝季繁 「ソ連の工業化政策」 134—145
- 原祐三, 木村禧八郎, 岸本誠二郎 <鼎談会>  
「臨戦物価政策の討議」 146—168
- 松島喜市郎 <日本工場史>「日本鋼管株式  
会社(完)」 169—174
- 平山清次 <随筆>「科学雑談」 175—178
- 岡田要之助 <随筆>「長期戦と国民教育」  
179
- 本多静雄 「中支産業建設点描」 180—187
- 土屋 清 <経済時評>「価格政策の新展開」  
188—193
- 柳 慎 「統一原価計算問題私考」 194—  
198
- 権田保之助 <随筆>「娯楽の臨戦態勢」  
199
- 武田通治 「空中写真とその撮影」 200—  
215
- 三枝博音 <技術者小伝>「レオナルド・ダ  
・ヴィンチ(二)」 216—222
- 矢野宗幹 <随筆>「嶺の食糧対策」 223—  
228
- 中村 信 <随筆>「大陸への捨石」 229
- 吉川晴十 「製鉄技術向上策」 230—235

池田謙三 「鋼の生産対策」 236 — 243  
太田尾広治 「マウエス紀行」 244 — 248  
平竹伝三 <随筆> 「南進北進の根本観念」  
249  
浅井 淳 <本邦生産技術史抄> 「日本石炭  
鋳業の今昔(一)」 250 — 255  
西村秀雄 「軽合金製造工業」 256 — 261  
吉城肇蔚 「特殊合金工業の技術向上方策」  
262 — 268  
北嶋三省 <随筆> 「水藻」 270 — 273  
三木 清 「技術学の理念」 274 — 283  
大熊信行, 玉虫文一, 佐藤信衛, 大串兎代夫,  
北岡馨 <座談会> 「日本精神と科学」  
284 — 310  
梅谷与七郎 <随筆> 「蚕の工業化」 311  
由井真吉 <経営者の立場> 「統制会と会社  
組織」 312 — 315  
針谷孝之 <万人の技術解説> 「擬革の話」  
316 — 322  
佐伯敏男 <随筆> 「時局と職業の代替」  
323

#### 5 卷11号(1941年11月号)

<巻頭言> 「統制会はなぜ進まぬ」 1  
桑木巖翼 「科学と文化」 2 — 12  
芝 亀吉 <随筆> 「誰のために書くか」 13  
大河内正敏 「国防経済と科学(完)」 14 —  
25  
吉岡金市 「農業技術の基本問題」 26 — 39  
福留健男 <随筆> 「硝子の安全性」 40  
菊田屋三郎 <技術時評> 「航空工業の発達  
のため」 42 — 47  
渡辺信一 「南洋パラオ島民の経済単位」 48  
— 56

増見屋三右衛門 「航空燃料研究に於ける純  
科学者の役割」 58 — 60  
内田清之助 <随筆> 「渡り鳥物語」 61 — 65  
諏訪哲郎 <万人の技術解説> 「代燃車」 66  
— 73  
竹村文祥 「防空医学の新課題」 74 — 80  
瀬尾武次郎 <随筆> 「稚拙及び新鮮味」 81  
利根川教一・中井淳・後藤正夫・相川春喜  
<座談会> 「技術と政治」 82 — 108  
巴陵宣祐 <随筆> 「自由主義の残滓と学問」  
109  
鈴木小兵衛 「建設進む東亜自給圏——満州  
農業増産の諸問題」 110 — 118  
岩村三千夫 「建設進む東亜自給圏——経済  
建設の新たな課題」 120 — 123  
滝 庸 「ゴビの旅行と生物資源」 124 —  
128  
宮原義登 「建設進む東亜自給圏——仏印進  
駐とタイの動向」 130 — 139  
大島 清 <経済時評> 「金融対策の新展開」  
140 — 145  
留岡清男, 大河内一男, 川上理一, 谷口吉郎,  
氏家寿子, 山崎靖純, 今野武雄 <座談会>  
「国民生活の革新」 146 — 178  
畠山久尚 <随筆> 「霜と霜柱」 179 — 183  
藤田敬三 「中小工業整理の目標と施策」  
184 — 189  
小峰柳多 「工業金融の革新」 190 — 196  
浅井 淳 「日本石炭鋳業の今昔(二)」  
197 — 202  
芝崎邦夫 <随筆> 「労務者の不足」 203  
三枝博音 <技術者小伝> 「レオナルド・ダ  
・ヴィンチ(三)」 204 — 209

5 卷 12 号 ( 1941 年 12 月号 )

- < 卷頭言 > 「産業新体制の三石」 5  
宮本武之輔 「総力戦と産業再編成」 6—19  
大河内正敏 「原価計算の生産技術的意義」  
20—25  
片岡 安 「科学技術の振興と為政者の責務」  
26—28  
末兼 要 < 随筆 > 「指導者に寄す」 29  
樺 俊雄 「現代文化と技術」 30—37  
香山喜夫 「蘭印の邦人と A B C D 線」 38—  
44  
木下半治 < 随筆 > 「戦争論と倫理」 45  
川連 武 「建設進む東亜自給圏——満州水  
力発電建設の進歩」 46—49  
殿木圭一 「建設進む東亜自給圏——米陸戦  
隊引揚げと上海の前途」 50—53  
山川 寿 「建設進む東亜自給圏——仏印華  
僑の動向」 54—59  
三宅正一 < 随筆 > 「科学の権威を奪還せよ」  
61  
畑敏男、小畑忠良、藤沢威雄、赤松要、秋永  
月三 < 座談会 > 「産業戦陣訓」 62—88  
高橋麟太郎 < 随筆 > 「人と物」 89  
日下藤吾 「ウラル・ソ連の経済的基礎」 90  
—99  
森 正蔵 「ソ連の北門」 100—104  
清沢 冽 < 随筆 > 「攘夷論の転向」 105  
菊田屋三郎 < 技術時評 > 「生産拡充一步前  
進」 106—111  
鍋嶋 達 「経営統制の重点」 112—118  
浅井 淳 「日本石炭鉱業の今昔 ( 完 )」  
119—124  
福田敬太郎 < 随筆 > 「本居宣長の遵法精神」  
125

- 藤林敬三 「戦時最低生活の基準——生活最  
低の基準」 126—132  
和田隆造 「戦時最低生活の基準——労務者  
の生活設計」 134—140  
南部道康 「ドイツとその下請国スキス近況」  
141—145  
早坂 力 < 日本工場史 > 「池貝鉄工所 ( 一 )」  
146—151  
永村 清 「米兵器工業を衝く——艦船工  
業の現勢」 152—160  
高津 博 < 随筆 > 「本能を抉ぐる」 161  
河村恭輔 「米兵器工業を衝く——戦車・  
自動車工業」 162—170  
由井真吉 < 経営者の立場 > 「遊休設備活用  
その他」 171—174  
日笠育夫 「防空瑣談」 175—179  
飯田孝作 「米兵器工業を衝く——軍用化  
学特に火薬爆薬の現況」 180—186  
見目 泰 「米兵器工業を衝く——航空工  
業の現状」 188—195  
大島 清 < 経済時評 > 「非常時局と臨時議  
会」 196—200  
川崎近太郎 「京都舎密局 ( 一 )」 201—  
205

6 卷 1 号 ( 1942 年 1 月号 )

- < 卷頭言 > 「日本科学技術者の決意」 5—7  
鈴木貞一 「民族発展の本義」 8—13  
大河内一男 「戦時生活の課題」 14—26  
河野 密 「大東亜戦争と国民の覚悟」 28—  
33  
船山信一 「全体主義と指導者原理」 34—39  
下村寅太郎 「科学の精神的系譜について」  
40—46



- 菊田屋三郎 <技術時評>「八十八年目の太陽」47-49
- 井上隆根 「全日本科学技術団体連合会の志向」50-51
- 新明正道 「戦時生活の倫理」52-58
- 金内良輔・石原広一郎・久留島秀三郎・泉由太郎・本誌記者 <座談会>「太平洋の要貌」60-82
- 飯沢章治 「日米の運命的開戦」84-89
- 大木秀男 「泰国経済政策の動向」90-95
- 大岩 誠 「大東亜戦争と仏印の動向」96-103
- 小山芳雄 「山本五十六の横顔」104-105
- 大河内正敏 「ゴム資源と太平洋」106-111
- 角谷健次 「大東亜戦争とソ連の動向」112-116
- 高野善一郎 「大東亜戦と中南米の動向」118-122
- 南井慶二 「大東亜戦争の欧州戦局への影響」124-131
- 上床国夫 「大東亜戦争と重要産業——石油」132-140
- 上野喜一郎 「大東亜戦争と重要産業——船舶」142-149
- 芝崎邦夫 「大東亜戦争と重要産業——鉄鋼」150-158
- 大隅 修 <万人の技術解説>「ロールの話」159-166
- 浅野 晃 「12月8日」168-169
- 矢部 周 「戦時超強力内閣論」170-175
- 石原 純 <風俗時評>「実質と形式」176-181
- 河田嗣郎, 池田謙三, 神津康人, 井上貞蔵, 吉村正, 黒田泰造, 秋永月三, 和辻春樹, 芥藤直幹, 横山達一, 島村芳三, 庄司謙次郎, 大角享, 島田晋作 「国民総進軍」182-196
- 海老名一雄 「アメリカの生活と科学」197-200
- 西瑛胤次 「太平洋戦略論」202-207
- 馬場恒吾 「世界戦争の展望」208-214
- 吉川晴十 「戦艦の攻撃力と防禦力」216-219
- 樺島千春 「企業整理への一考察」220-223
- 小宮山利政 「統制会と産業設備営団の役割」224-227
- 小峰柳多 「技能への反省」228-231
- 森下修一 「大東亜戦争と重慶の動向」232-237
- 平竹伝三 「米国の狙う北太平洋基地」238-243
- 多田喜一 「戦時国民の生活訓」244-252
- 早坂 力 <日本工場史>「池貝鉄工所(二)」253-259
- 草田時雄 <経済時評>「共栄経済の一面観」260-265
- 川崎近太郎 「京都舎密局(二)」266-271
- 会田軍太夫 「最近の科学ジャーナリズムの展望」272-275
- 河村慎一 「農村労働力の補強策」276-283
- 楊井克己 「印度民族運動の新展開」284-290
- 菅井準一・中島健蔵 <対談>「文化人の決意」292-305

- 杉村広蔵 「戦時下日本経済の生長について」 142  
306—311
- 中野登美雄 「指導者論」 312—318
- 三木 清 「技術と新文化」 320—327
- 6 卷 2 号 (1942 年 2 月号)
- <巻頭言> 「計画経済と科学の政治化」 4—5
- 蛭川虎三 「広域経済論」 6—16
- 村山公三 「大東亜共栄圏建設の基本構想」 17—23
- 村本福松 「適限経営と戦時増産」 26—33
- 横田弘之 「経済地理学的空間の概念」 34—37
- 松前重義, 東畑精一, 小山栄三, 三木清, 佐藤弘, 大岩誠 <座談会> 「占領地の経営」 38—61
- 雨宮 勇 「造船計画の緊要課題」 62—67
- 島田著作 「統制会縦横論」 68—75
- 見目 泰 「飛行機工業の下請整備方策」 76—87
- 菊田屋三郎 <技術時評> 「生産拡充の中核, 造船業」 88—93
- 鴨居 武 「日・満・支の度量衡ブロックを形成せよ」 94—98
- 早坂 力 <日本工場史> 「池貝鉄工所 (完)」 100—107
- 川崎近太郎 「京都舎密局 (完)」 108—119
- 高橋善雄 「ソ連軍需工業の生産力」 120—126
- 中島仁之助 「労務対策の進展と産報運動」 128—137
- 一原有常 「ソ連北氷洋航路の現状」 138—142
- 石原 純 <風俗時評> 「地方の実状」 143—147
- 菅井準一, 谷口三郎, 岡部栄一 「宮本武之輔博士を悼む」 148—155
- 田村栄太郎 <日本工業前史> 「和船・洋船物語 (一)」 156—181
- 大島義清 「人造石油陣営の決意」 182
- 岡田信治 「豪州の話」 184—195
- 西山新伍 「占領地の資源」 196—201
- 東条恒雄 [三枝博音] <技術家小伝> 「ジ・セフ・ヘンリー」 202—207
- 6 卷 3 号 (1942 年 3 月号)
- <巻頭言> 「新嘉坡の陥落」 5—7
- 大河内正敏 「長期戦の準備」 8—13
- 富永能雄 「南方経営の基本的構想」 14—18
- 西山浪太郎 「東亜圏における米穀増産の基調」 19—25
- 小西善治 「錫資源から見た米国の技術的・経済的跛行性」 26—34
- 湯本 昇 「大東亜縦貫鉄道建設論」 36—43
- 野村重臣 「新嘉坡の陥落と西アジアの動向」 44—51
- 矢島仁吉 「大東亜国土計画と日本技術の課題」 52—57
- 池田謙三 「技術院への要望——技術院使命の達成」 58—60
- 針谷孝之 「技術院への要望——官民技術者の交流を望む」 60—62
- 吉川晴十 「技術院への要望——技術院に工業材料研究所の設置を望む」 62—64
- 加藤与五郎 「技術院への要望——科学技術の躍進に関する私見」 64—66

- 梶井 剛 「技術院への要望——技術院への  
待望」66—67
- 中川 博 「技術院への要望——技術院への  
要望」68—69
- 永井彰一郎 「技術院への要望——科学、工  
業技術図書雑誌の増刊を望む」69—72
- 菊池麟平 「技術院への要望——技術院への  
要望」72—74
- 会田軍太夫 「技術院への要望——技術院へ  
の要望」74—75
- 木村介次 「技術院への要望——生産技術の  
研究と報奨制度」75—77
- 太田慶蔵 「技術院への要望——政治の科学  
化」77—79
- 岸 道三 「技術院への要望——技術院への  
要望」79—80
- 玉置正一 「技術院への要望——技術院への  
要望」80—83
- 氏家長明 「技術院への要望——科学技術者  
の協力」83—84
- 畔柳治三雄 <論壇時評>「革新の方向」86  
—89
- 利根川教一・後藤正夫・青柳芳彦・菅原甚一  
・稲村耕男・仁木正一郎 <座談会>「科  
学・技術体制をいかに確立するか」90—  
112
- 一条重美 <文化時評>「勤労と文化」114  
—117
- 鴨居 武 「大東亜度量均衡の統一」118—  
119
- 安藤弥一 「生産能率問題の政治化と理想化」  
120—127
- 菊田屋三郎 <技術時評>「似而非科学論の  
清算と技術の総力発揮」128—135
- 山田坂仁 「科学動員の組織化」134—141
- 館 勇 「戦時海運政策の新展開」142—  
148
- 大沢武男 「共栄圏経済と馬來の工業資源」  
149—158
- 伊奈耕一 <風俗時評>「原色は氾濫する」  
159—161
- 住川林兵衛、和田忠貞 「満州国科学技術界  
の現況」162—169
- 田村栄太郎 <日本工業前史>「製塩物語」  
176—191
- 6巻4号(1942年4月号)
- <巻頭言>「大東亜共栄圏の構想について」  
5—8
- 加茂儀一 「日本技術の東亜的再建」9—15
- 大河内正敏 「大東亜共栄圏と産業立地問題」  
16—22
- 永丘智太郎・野間海造・久松朝夫 <研究会>  
「南方労働力の再検討」24—51
- 高橋善雄 「豪州の戦時経済」52—57
- 根上耕一 「能率増進運動の基本課題」58—  
65
- 安藤政吉 「半島労務者の生活報告」66—72
- 吹田秀三 「戦時経済体制確立の方途」74—  
79
- 幸内謙次 「国内生産力増強の諸方策——特  
殊鋼増産確保の一方策」80—85
- 藤原強行 「国内生産力増強の諸方策——石  
炭増産方策の基調」86—93
- 和田義二 「国内生産力増強の諸方策——非  
鉄金属に於ける生産増強の要点」94—99
- 稲村順三 「国内生産力増強の諸方策——食  
糧増産の根本方策」100—106

- 藤原莞士 「緊急化した中小商工業の再編成」 107 — 113
- 秦理四郎 「戦時特別型船の建造」 114 — 118
- 青山一雄 「日鉄改組をめぐる諸問題」 119 — 122
- 福井三樹 「機械統制会五部門の発足」 124 — 130
- 村上正好 「アメリカ戦時労働力の分析」 131 — 137
- 畔柳治三郎 <論壇時評> 「時務性の超克」 138 — 141
- 田沼 征 <隨筆> 「経済と軽財」 142 — 145
- 竹田伍一 「資源科学研究所の創設とその使命」 146 — 149
- 辻 二郎 「理化学研究所25年の歴史」 150 — 153
- 一条重美 <文化時評> 「生きた言葉」 154 — 157
- 石川 亮 「ソ連の水陸交通網」 158 — 161
- 栗原藤七郎〔目次では栗林〕 「東亜農業の発展と肥料工業の確立」 162 — 165
- 住江金之 <隨筆> 「此頃の世相さまざま」 166 — 168
- 山田英市 「東亜共栄圏建設と日本産業の再編成」 169 — 174
- 井上哲夫 「技術院人物素描」 175 — 179
- 荻田屋三郎 <技術時評> 「南方建設の第一段階」 180 — 183
- 宇井丑之助 「蘭印の石油労働事情」 184 — 191
- 吉田要三 「賃金月給制への考察」 192 — 196
- 川西正鑑 「大東亜国土計画——国防と大東亜重工業立地計画の構想」 198 — 207
- 加藤四郎 「大東亜国土計画——大東亜に於ける電力計画の基本的諸問題(上)」 208 — 217
- 田中 実 <化学史雑纂> 「鍊金術と分析術(一)」 218 — 223
- 東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝> 「ロバート・フルトン」 224 — 229
- 6 卷 5 号 (1942年 5 月号)
- <巻頭言> 「戦時労働政策確立のために」 5 — 8
- 大河内正敏 「国防と鉄鋼自給」 9 — 17
- 相川春喜 「科学と生産」 18 — 29
- 西谷弥兵衛 「アジア主権論」 30 — 38
- 村山公三 「共栄圏と南洋経済」 40 — 45
- 大木秀男 「経営理論の新構想」 46 — 56
- 藤原強行 「石油精製一元論」 57
- 樺島千春 「大東亜資源と特殊鋼の将来」 58 — 64
- 光木耿二 「統制会設立と会長詮衡」 65
- 西廻寺二郎・鶴島瑞夫・長谷孝之・広崎真八郎・菅原甚一 <研究会> 「勤労新体制の再出発」 66 — 89
- 西山新伍 「南方圏に於ける棉作事情」 90 — 96
- 奥村幸運 「自動車販買機構整備問題」 97
- 加藤四郎 「大東亜重工業計画——大東亜に於ける電力計画の基本的諸問題(下)」 98 — 101
- 宮崎力蔵 「原価計算の規制——工業原価計算の特質」 102 — 111
- 清水 昌 「原価計算の規制——中規模工業

における原価計算の実行」112—118  
金子利八郎 「原価計算の規制——原価計算  
規制における工業会計勘定組織の調整」  
119—124  
田坂政養 「工場教育の新方途」125—130  
土肥泉太郎 「化学・油脂両統制会の行衛」  
131  
菊田屋三郎 <技術時評>「無力な科学論」  
132—135  
山田坂仁 「科学技術と戦争」136—145  
野原丈太郎 「科学史の方法に就て」146—  
152  
藤原強行(目次には藤原衛) 「鉦工業界  
(優良炭の増産について)」153  
島田政一 「国内食糧需給の前途」154—  
158  
谷市良 「少年工教育の課題」159—163  
一条重美 <文化時評>「学期はじめ」164  
—166  
一原有常 「新鉦物資源発見に狂奔するアメ  
リカの実相」168—172  
下田吉人 <随筆>「うどんの花」173—  
175  
倉上晃 <随筆>「食糧と科学性」175—  
176  
田中実 <化学史雑纂>「錬金術と分析術  
(二)」177—183  
東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「シ  
ュタインメツ」184—190  
田村栄太郎 <日本工業前史>「倭寇物語  
(三)」191—199  
平館利雄 「ソ連国防経済の分析——ソ連国  
防体制の概観」200—206  
中村政雄 「ソ連国防経済の分析——原材料

工業」206—211  
三島康夫 「ソ連国防経済の分析——交通輸  
送問題」211—219  
的場徳造 「ソ連国防経済の分析——食糧問  
題」219—223

#### 6巻6号(1942年6月号)

<巻頭言>「生産報國運動と政治力結集」5  
—9  
中山伊知郎 「共栄経済と国防経済」10—22  
大河内正敏 「航空機燃料と南方資源」23—  
29  
鉢崎禹太郎 「生産力拡充への政治力結集」  
30—33  
山田要人 「技術研究の組織と方法」34—41  
安藤政吉 「労務管理の基本問題」42—51  
中村靖 「進展する我戦時経済——物動・  
生植両計画の決定」52—55  
原甚之介 「進展する我戦時経済——切迫す  
る船舶問題」55—60  
秋田潔人 「進展する我戦時経済——金融機  
構の戦時体制下」60—62  
藤原強行 「帝石人事の刷新を望む」63  
東幸太郎 「濠州産業の地勢的性格」64—69  
平野等 「支那近代工業の様相」70—76  
奥村幸運 「南方自動車問題の緊急対策」77  
青木善爾 「ソ連製鉄業の地理的配置」78—  
84  
大久保徹夫 「ソ連国防経済の分析——石油  
問題」86—92  
高木明 「ソ連国防経済の分析——化学工  
業」92—99  
峰谷吉五郎 「ソ連国防経済の分析——機械  
工業」100—104

- 光木耿二 「鉄鋼第2次増産計画の全貌」 105
- 広川治雄 「工業学校教育の改革」 106 — 110
- 桜木武夫 「翼賛運動と科学技術体制」 112 — 117
- 板橋謙吉 <経済時評> 「日本経済の今日の課題」 118 — 120
- 藤山五郎 「適正炭価問題について」 121
- 高井次郎 <文化時評> 「時評の貧困」 122 — 124
- 菊田屋三郎 <技術時評> 「日本技術と明治の精神」 126 — 130
- 大久保実 「戦時工業政策の当面する諸問題」 131 — 137
- 佳田正一 <随筆> 「女性の力」 138 — 139
- 倉本長治 <随筆> 「マスクの効用」 139 — 141
- 長 文連 <随筆> 「建設戦と決戦体制」 141 — 144
- 会田軍太夫 <随筆> 「硝子の面白味」 144 — 145
- 田中 実 <化学史雑纂> 「スウェーデンの化学者達(一)」 146 — 150
- 石川久作 「東亜食糧需給・増産計画」 151
- 平野威馬雄 「科学的楽天論覚え書」 152 — 156
- 田村栄太郎 <日本工業前史> 「倭寇物語(下)」 158 — 166
- 東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝> 「R・トリヴィシク」 168 — 174
- 8
- 大河内正敏 「計画製鉄を提唱す」 9 — 17
- 相川春喜 「技術的合理化の国民的性格」 18 — 33
- 中林貞男 「翼賛会改組と産報運動の帰趨」 34 — 39
- 村山公三 「事変五周年と我が政治の再建」 40 — 44
- 石川久作 「食糧営団の機能発揮」 45
- 山崎早市 「政府管理と統制会」 46 — 52
- 平櫛 孝 「国防国家を背景としての総力戦」 54 — 62
- 奥村幸運 「大東亜自動車工業政策の確立」 63
- 田中次男 「国防国家と国民経済」 64 — 74
- 小宮山利政 「統制会と官界新体制」 76 — 82
- 光木耿二 「マグネシウム工業の重要性」 83
- 横田弘之 「広域経済を繞る産業立地」 84 — 88
- 藤原克衛 「石炭増産と企業整備」 90 — 97
- 梅津勝夫 「自動車工業に於ける大量生産」 98 — 103
- 山田坂仁 「敵産特許公開論」 104 — 112
- 永富福次郎 「脱皮せよ石炭統制会」 113
- 高井次郎 <文化時評> 「読者の現実」 114 — 115
- 松田久茂 「南方工業事情——東印度工業の展望」 116 — 120
- 岩山武男 <経済時評> 「日本経済の現段階と技術の問題」 121 — 123
- 石川知福 <随筆> 「産業医学的仕事の現状を省みて」 124 — 126
- 高津 博 <随筆> 「街の科学者と研究予備軍」 126 — 127
- 6 卷 7 号 (1942年 7 月号)
- <巻頭言> 「事変 5 周年と新秩序の建設」 3

- 菊田屋三郎 <技術時評>「技術と構想」  
128—132
- 和田義夫 「日鉄法の改正と鉄鋼統制会」133
- 島田丹平 「印度独立運動の性格」134—138
- 丸山幸之助 「印度・ビルマ石油工業の現況  
及び将来」140—145
- 三鬼陽之助 <財界人物時評>「白石から浅  
野良三へ」146—150
- 土肥泉太郎 「セメント工業整備問題」151
- 斎藤建夫 <社会時評>「地方的特殊性和親  
切な指導」152—155
- 東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「オ  
ットとランゲン」156—162
- 田村栄太郎 <日本工業前史>「黨物語  
(上)」164—175
- 村上正好 「アメリカ国防経済の分析——米  
国戦時経済の全貌」176—184
- 広瀬道次郎 「アメリカ国防経済の分析——資  
源経済」184—192
- 高瀬太郎 「アメリカ国防経済の分析——工  
業生産力」192—199
- 酒井栄三 「アメリカ国防経済の分析——運  
輸問題」199—207
- 6巻8号(1942年8月号)
- <巻頭言>「国防力増強の方途」3—7
- 大河内正敏 「戦争経済と熟練工問題」8—  
15
- 帆足 計 「統制会の国民的基礎」16—21
- 平野 等 「支那鄉村工業の課題」22—29
- 古屋芳雄・谷野せつ・美濃口時次郎 <座談  
会>「戦争と婦人労務者」30—53
- 見目 泰 「日本航空機生産の増強策」54—  
59
- 刈田正彦 「高性能新航空燃料に就いて」60  
63
- 菊田屋三郎 <技術時評>「科学動員と技術  
水準の向上」64—70
- 野原丈太郎 「天才の万能性に就いて」72—  
80
- 前橋正二 「印度工業化の諸様相」82—90
- 氏家俊彦 「南方工業事情——仏印工業事情」  
91—95
- 村山百二 「戦時下軽金属工業の諸問題」96  
—100
- 三鬼陽之助 <財界時評>「時局産業に進出  
した財界」102—105
- 大越貞一 「私立中等学校の国営化と工業化」  
106—112
- 一条重美 <文化時評>「漢字制限」113—  
115
- 奥村幸運 <業界展望>「軌道に乗る自動車  
販売統制」116—117
- 徳田秀介 <業界展望>「食糧工業の前途」  
117—120
- 藤原強行 「石油精製共同計算制」118—  
119
- 丸尾泰一 「米国鉄鋼業と屑鉄不足」121—  
127
- 寺島家一 「機械工業の現状と工員養成問題」  
128—132
- 田村栄太郎 <日本工業前史>「黨物語  
(下)」133—143
- 田中 実 <化学史雑纂>「鍊金術について」  
144—149
- 東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「パ  
ーソンス」150—157
- A・シュプリングア、森三郎訳 「人造ゴム

について」158—175

6巻9号(1942年9月号)

<巻頭言>「日本生産技術の転換方向」3—7

大河内正敏 「大東亜共栄圏と工業塩の目給」8—15

富塚 清 「技術教育論」16—25

藤井真透 「転換期に於ける日本工学の推進」26—32

山県昌夫 「わが造船科学技術の展開」33—41

松前重義 「大東亜電気通信の確立」42—47

尾上貞五郎 「仏印貿易の性格と経済協定」48—55

島田静一 「独ソ戦局の展開と西南アジアの動向」56—61

菊田屋三郎 <技術時評>「有機体としての重化学工業」62—69

寺島家一 「工作機械国産化の問題」70—77

佐藤 剛 「満州鉦工業の現段階」78—84

稲村順三 「農村労力の現状と労力供出能力」85—89

本多静雄, 中安閑一, 野田信夫, 備藤三郎  
<座談会>「技術の革新」90—115

山田坂仁 「大いなる科学の任務」116—122

瀬上雄一 <業界展望>「開鑿技術連絡委員会に就いて」123—125

酒井貞一 <業界展望>「鉄鋼増産諸対策の成果」125—127

紫桃昭実 <業界展望>「紡織業の合理化徹底へ」127—129

下川方男 <業界展望>「肥料問題の重要性」

129—131

船嶋善蔵 <業界展望>「木造船の躍進」

131—133

梅田伊太郎 <随筆>「水」134—135

柴田宵曲 <随筆>「遠眼鏡と俳諧」135—137

谷 市良 <労務指標>「戦争完遂と事業場」138—144

東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「カール・フォン・リンデ」146—153

田村栄太郎 <日本工業前史>「窯物語(三)」154—167

6巻10号(1942年10月号)

<巻頭言>「勝ちて驕らざる態度」9—11

土橋喬雄 「国家総力戦における技術と経済力」12—29

豊崎 稔 「工業立地と新技術原則」30—39

加藤与五郎 「大東亜資源と日本の工業の創造」40—47

西沢勇志智 「科学の芽を枯らせしもの」48—53

仁科芳雄, 緒方富雄, 服部静夫, 小谷正雄  
<座談会>「日本の科学のために」54—82

松田竹太郎 「戦時下工業人の反省」84—89

山田坂仁 「科学精神と勤労精神」90—99

横川四郎 「戦時生活と最低生活費」100—109

西村真次 <随筆>「生産主義の日本民族」110—112

郡司正勝 <随筆>「江戸芝居と科学」112—113

早川康式 「学制改革について」114—119

氏家俊一 「ゴムに苦悶する米国の現実」



120—127  
千葉 一 <業界展望>「鉄工業界——内外  
地統制問題」128—129  
瀬上雄一 <業界展望>「電工事業統制問題」  
129—130  
菅原高男 <業界展望>「鴨緑江水電による  
アルミ工業」130—131  
菊田屋三郎 <技術時評>「第二次ソロモン  
海戦を直視せよ」132—138  
田中 実 <化学史雑纂>「『舍密開宗』に  
おける化学術語(一)」139—145  
田村栄太郎 <日本工業前史>「窯物語  
(四)」146—157  
東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「小  
花冬吉」158—165  
大河内正敏 「工業動員と中小機械工場」  
166—175

6 卷11号(1942年11月号)

小島精一 <巻頭言>「生産増強の四大原則」  
5—7  
樺 俊雄 「技術と独創」8—17  
金子鷹之助 「大東亜生産力推進の方向」18  
—27  
藤林敬三 「能率と労働心理」28—35  
宮城音五郎 「科学国家の建設」36—43  
菊田屋三郎 <技術時評>「世界史的必然性  
の幽霊」44—49  
菊池庸平 「生産の科学化」50—57  
山本峰雄, 堀岡米吉 <対談>「戦争と大量  
生産」58—79  
西村真次 「日本勤労の心と形」80—87  
綿谷赳夫 「工業分散と農村社会」88—95  
池田謙三 <随筆>「金属の生産」96—98

富成喜馬平 <随筆>「ダ・ヴィンチの教訓」  
98—100  
郡菊之助 <随筆>「交通にちなむ名称」  
100—102  
高木友三郎 <随筆>「天才を作れ」102—  
105  
針谷孝之 <随筆>「日本発明報効会のこと」  
105—106  
浦本政三郎 「教育・科学・技術への断想」  
108—115  
新 真一 「ジャンクの生態」116—123  
増野 実 「大豆の化学工業」124—131  
小峰柳多 「統制会の戦時的運営」132—  
140  
田中 実 <化学史雑纂>「『舍密開宗』に  
おける化学術語(二)」141—146  
東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「フ  
レミング」147—154  
田村栄太郎 <日本工業前史>「火薬物語  
(一)」155—165  
大河内正敏 「戦時生産体制論」166—174

6 卷12号(1942年12月号)

辻 二郎 <巻頭言>「開戦一周年」9—11  
大河内正敏 「国防生産と利潤生産」12—19  
武田良三 「技術力と民族」20—27  
清家 正 「工業教育革新論」28—34  
佐藤立夫 「指導者原理と実践」35—42  
橋井 真 「中小工業整備問題の重点」43—  
49  
木村介次 「生産推進への直言」50—55  
永村 清 「現代海戦における航空母艦の地  
位」56—65  
菊田屋三郎 <技術時評>「科学動員推進の

- 具体策」66—71
- 田坂政養・富沢喜一・乗富丈夫・麻野間清四郎 <座談会>「勤労体制の強化」72—96
- 横田弘之 「地政学についての省察」97—103
- 小幡重一 <随筆>「安全剃刀と髪剃石鹸」104—106
- 大泉行雄 <随筆>「生活の律動性」106—107
- 渡辺万次郎 <随筆>「時事四題」108—109
- 菊池麟平 <随筆>「量より質」109—110
- 柴田宵曲 <随筆>「虫眼鏡と俳諧」110—112
- 木原 博 「戦時造船の緊急課題」114—121
- 平野 等 「支那工業技術論」122—129
- 崎川範行 「触媒の歴史」130—139
- 東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「ホイットニー」140—146
- 辻 猛三 「ドイツ航空機工場見学記」148—161
- 田中 実 <化学史雑纂>「真実と虚偽と」162—167
- 田村栄太郎 <日本工業前史>「火薬物語(二)」168—175
- 7 卷 1 号 (1943 年 1 月号)
- <巻頭言>「決戦第二年に入る」9
- 大河内正敏 「生産戦に際し技術家に懇う」10—17
- 土屋 清 「大量生産方式論」18—27
- 会田軍 太夫 「生産戦と科学技術」28—37
- 穂積七郎 「国民運動革新の段階」38—45
- 鬼頭仁三郎 「統制経済の推進力」46—54
- 山下志洋 <技術時評>「研究動員の緊急性」55—59
- 大熊信行・岩井主蔵 <対談>「現代国家と総力戦原理」60—83
- 高木友三郎 「物力と人力」84—89
- 川下研介 「知の教育と感の教育」90—97
- 菊田屋三郎 「技術の倫理」98—107
- 豊田喜一郎 「自動車工業と飛行機工業」108—115
- 仁木正一郎 「二つの技術者会議について」116—121
- 佐々木達治郎, 白井俊明, 坪井忠二, 山内恭彦, 雨宮綾夫 <座談会>「研究の創意を語る」122—145
- 山田坂仁 「科学の民族的性格」146—156
- 今岡賀雄 「真空管工業の発達と将来」157—163
- 園田理一 <随筆>「会議の能率」164—165
- 杉江重誠 <随筆>「顔に泥を塗る」165—167
- 田中 弘 <随筆>「借の生活」167—169
- 橋口義男 <随筆>「必勝航空技術陣の完成」169—171
- 高田市太郎 「米国の悩みはどこにあるか」172—181
- 木暮浪夫 「世界の運河」182—189
- 東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「古市公威」190—198
- 7 卷 2 号 (1943 年 2 月号)
- <巻頭言>「雪水の経営」9
- 坂田太郎 「生産の哲学」10—19

稲村耕男 「戦争と研究目的」20—25  
 吉村 正 「決戦・増産・生活」26—31  
 田原 栄 「皇国工業人養成への提言」32—37  
 高嶺明達 「戦力増強と能率増進」38—45  
 弘明寺治坊 <技術時評>「技術運動と生産増強」46—53  
 辻 正三 「作業と疲労」54—61  
 栗原嘉名芽 「技能教育と科学映画」62—65  
 綴 研一 <生産指標>「統制会前進のために」66—71  
 立花次郎 「ドイツの技術界と技術人」72—79  
 三枝鐘介 <生産能率研究>「日程計画資料について」80—87  
 藤島亥治郎 <随筆>「巨石を運ぶ」88—90  
 山賀益三 <随筆>「羽根ものがたり」90—91  
 内田清之助 <随筆>「支那の飼い鳥」91—93  
 草田時雄 <随筆>「数字」93—95  
 渡辺政人 <随筆>「増産と採算」95—96  
 横山武一 「水素工業について」98—107  
 山県義夫 <日本製鉄株式会社史>「八幡製鉄所草創記」108—119  
 東条恒雄〔三枝博音〕<技術家小伝>「エルンスト・アッペ」120—127  
 ヨゼフ・ヴィンシュウ 「新ヨーロッパ建設の構想(一)」128—142

7 卷 3 号 (1943年 3 月号)

<巻頭言>「銃剣突撃」9  
 大河内正敏 「機械大量生産技術上の通則」10—15

北沢新次郎 「生産力と国民生活」16—23  
 乗富丈夫 「徴用の国民的倫理」24—29  
 穂積七郎, 難波田春夫 <対談>「経済革新への反省」30—49  
 三隅一成 「行動の科学と伝統」50—55  
 山下清吉 「研究隣組とその動向」56—58  
 金子鷹之助 「神武天皇御東征と船及び鉄」56—58  
 綴 研一 <生産指標>「企業形態と生産行政」60—69  
 橘 覚勝 「敵愾心」70—77  
 本田静雄, 稲村耕男, 後藤正夫, 天瀬金蔵, 菊池庸平, 鈴木重夫 <座談会>「決戦下の科学技術体制」78—101  
 檜崎敏雄 <随筆>「気魄足らず」102—104  
 長浜慶三 <随筆>「写真の生命」104—105  
 中原虎男 <随筆>「左側通行」105—108  
 相沢次郎 <随筆>「待機的精神の涵養」108—109  
 吉識雅夫 「戦争と木造船」110—118  
 杉波 醇 <技術時評>「春ぞ訪れん」119—123  
 東条恒雄〔三枝博音〕<技術家小伝>「ノーベル」124—131  
 ヨゼフ・ヴィンシュウ 「新ヨーロッパ建設の構想(二)」132—142

7 卷 4 号 (1943年 4 月号)

<巻頭言>「目標を近きに与えよ」9  
 大河内正敏 「木造船の大量生産」10—15  
 岩井祐文・川上覚治・田中弘・金子鷹之助・高宮晋・辻二郎・大田哲三・藤村哲之

<座談会>「技術と生産力」16—36  
綴 研一 <生産指標>「社長徴用制の実施」  
37—43  
山本峰雄 「列国新鋭機の趨勢」44—53  
小野勝次 <随筆>「似而非技術家」54—55  
富永能雄 <随筆>「物質主義と精神主義」  
55—57  
中村誠司 <随筆>「品種改良」57—59  
小原亀太郎 <随筆>「繊維国策の最前線」  
59—61  
白井俊明 「動力源の変遷」62—67  
岩井主蔵・利根川東洋・沓水勇・満田巖・山  
本新 「歴史と国力」68—88  
鈴木幸夫 「南方ぼけ」89—93  
弘明寺治坊 <技術時評>「生産と防空」94  
—99  
仲 威雄 「平賀讓先生を憶う」100—103  
山県義夫 <日本製鉄株式会社史>「七製鉄  
所の創立」104—115  
東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「ラ  
イト兄弟」116—121  
ヨゼフ・ヴィンシュウ 「新ヨーロッパ建設  
の構想(三)」122—134

7 卷 5 号 (1943年 5 月号)

<巻頭言>「必勝への協力」7  
酒技義旗 「国家と企業」8—15  
神津康人 「多量生産方式採用の前提条件」  
16—24  
松田竹太郎 「日本海軍と工業技術」25—29  
穂積七郎・難波田春夫 <対談>「生産力の  
構造と強化(二)」30—45  
綴 研一 <生産指標>「生産戦の敵前上陸」  
46—50

菊田屋三郎 「技術論の再建」51—57  
山田坂仁 「技術の国家性」58—63  
阿閉吉男 「技術と新文化」64—71  
沢井 淳 「労務者の栄養と能率」72—80  
八木沢善次 <随筆>「海草パン」82—84  
大谷東平 <随筆>「髪床」84—85  
杉田直樹 <随筆>「活動力の増進」85—86  
諸井貫一 <随筆>「工業生産と標準化」87  
中野功一 「工程管理と統計会計機械の応用」  
88—94  
東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「池  
貝庄太郎」95—101  
ヨゼフ・ヴィンシュウ 「新ヨーロッパ建設  
の構想(四)」102—110

7 卷 6 号 (1943年 6 月号)

<巻頭言>「戦の前途」7  
大河内正敏 「発明の公開と工業化」8—14  
丹羽保次郎 「大量生産の技術的問題」15—  
21  
藤井 栄 「国防経済に於ける技術の地位」  
22—29  
細川亀市 「国民組織の基本問題」30—35  
綴 研一 <生産指標>「戦時機械加工営団  
設立の提唱」36—41  
渡辺浩, 中谷勝紀, 芥川輝孝, 上村光三郎,  
佐藤栄五郎 <座談会>「木造船を語る」  
42—60  
河内 衛 「多種部品流しの生産方式」61—  
65  
辻 二郎 「時の課題」66—67  
林 正一 <技術時評>「科学技術決戦体制  
の強化を望む」68—71  
吉城肇尉 <随筆>「雑感」72—73

松籟信太 <随筆>「必勝の途」73—75  
寺尾 新 <随筆>「右と左」75—76  
田中要人 「増産への経営技術」77—85  
寺西五郎 「アメリカの戦時電力対策」86—  
91

住田正一 「生活と物価」92—95  
東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「ウ  
ィット・ウォース」96—101  
後藤正夫 「アメリカ産業動員計画の全貌(  
一)」102—111

7 卷 7 号 (1943年 7 月号)

金子鷹之助 <巻頭言>「科学の決戦」5  
大河内正敏 「生産増強と科学主義」6—14  
山内隆一 「国民動員の段階」15—21  
沓水 勇 「国府財政の発展」22—27  
福田 恵 「参戦中国の工業動員」27—34  
綴 研一 <生産指標>「体当りで木造船と  
特殊製鉄を」35—41

辻 二郎 「時の課題」42—45  
飯盛里安 「兵器と稀元素」46—55  
渡辺 貫 「物理探鉱の話」56—61  
山本惣治 「船舶急造案」62—67  
城戸一俊 <随筆>「俗語」68—69  
谷村 功 <随筆>「ここに無駄あり」69—  
70

上原康夫 <随筆>「毒と薬」70—71  
菊田屋三郎 <技術時評>「科学技術の二宮  
金次郎」72—77  
岩瀬慶三 「砂鉄の製錬について」78—86  
東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「高  
峰譲吉」87—93  
鈴木 隆 「多量生産と作業時間決定」94—  
99

後藤正夫 「アメリカ産業動員計画の全貌  
(二)」100—110

7 卷 8 号 (1943年 8 月号)

白井俊明 <巻頭言>「科学者の動員強化」  
5

大河内正敏 「生産増強と科学主義(完)」  
6—12

酒井正三郎 「戦時企業論」13—19

穂積七郎・難波田春夫 <対談>「戦力と国  
民組織」20—35

辻 二郎 「時の課題」36—39

新海悟郎 「工場防空の重点」40—47

松本容吉 <随筆>「言葉と文字」48—49

目崎憲司 <随筆>「Σと統制経済」50—51

小松雄吉 「工場の結核対策」52—59

綴 研一 <生産指標>「決戦企業整備と地  
方行政協議会」60—65

渡辺万次郎 「科学技術力結集への提言」66  
—67

宮部直巳 「科学技術力結集への提言」67—  
69

井上兼雄 「食糧増産の合理化」70—75

石渡貞雄 「皇国農村確立と農業技術」76—  
83

山下志洋 「研究の戦力化」84—87

小菅繁雄 「能率増進と材料計画」88—93

正木良一 「工業運営の心理」94—97

後藤正夫 「アメリカ産業動員計画の全貌  
(三)」98—105

東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「ツ  
ェッペリン」106—111

7 卷 9 号 (1943年 9 月号)

- 藤岡由夫 <巻頭言>「科学者の協力」5  
 大河内正敏 「汎用工作機械の生産制限」6  
 —10  
 飯高一郎 「米英科学技術打倒の問題」11—  
 17  
 加藤精一 「生産増強と技術転換」18—25  
 清水定吉 「生産技術者養成の具体策」26—31  
 大橋静市 「経営と労務」32—35  
 辻 二郎 「時の課題」36—38  
 中林貞男 「企業整備と勤労隊」39—43  
 武田次郎・坂東舜一 「航空工業体制の確立」  
 44—58  
 ハイッツ・ボンガルツ 「ドイツ都市の防空  
 活動」59—61  
 内藤邦策 <随筆>「精密工作法と人生」62  
 —63  
 仁尾正義 <随筆>「草葉のかおり」63—64  
 可児弘一 <随筆>「ポロセルのこと」64—  
 66  
 佐多直康 <随筆>「多量生産と基礎研究」  
 66—67  
 綴 研一 <生産指標>「鍛匠鑄造両機械普  
 及化の急務」68—73  
 林 喬 「国民と科学」74—77  
 上田 穰 「太陽熱」78—80  
 金子鷹之助 <書評>「谷山整三氏著『南方  
 の地域文化と資源』」81  
 会田軍太夫 「決戦下の科学技術雑誌」82—  
 85  
 皆川郁夫 「生産と映画」86—89  
 後藤正夫 「アメリカ産業動員計画の全貌」  
 (四)」90—96  
 森 鋭男 「現場の創意」97

東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「高  
 松豊吉」98—103

7 卷 10 号 (1943年 10 月号)

- 仁科芳雄 <巻頭言>「根本的戦時体制の確  
 立」5  
 大河内正敏 「農村工業と空襲」6—13  
 熊谷三郎 「生産技術の研究」14—19  
 野田信夫, 大橋静市, 小峰柳多 <座談会>  
 「決戦生産動員」20—33  
 辻 二郎 「時の課題」34—36  
 河野道男 「専用工作機械の緊急増産」37—  
 41  
 千葉茂太郎 「超短波兵器と超音波兵器」42  
 —43  
 永雄節郎 「決戦と総力」44—48  
 小川芳樹 「国内資源と貧鉍処理」49—53  
 三野英彦 「貧鉍処理と選鉍」54—58  
 提英三郎 「貧鉍処理と我国の製鉄業」59—  
 64  
 綴 研一 <生産指標>「生産絶対主義の経  
 営」65—69  
 山岸重孝 「空襲下の新聞雑誌(ドイツ)」  
 70—73  
 高松棟一郎 「空襲下の新聞雑誌(イギリス)」  
 73—76  
 白井俊明 <書評>「上野誠一博士著, 上野  
 油脂工業『第一巻』」77  
 内村三郎 「敵米国の土木技術陣」78—83  
 神保弁吉 「航空機用中空プロペラ」84—88  
 村尾力太郎 「アメリカ航空工業の様相  
 (一)」89—95  
 東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「手  
 島精一」96—103

7 卷11号 (1943年11月号)

- 山本峰雄 <巻頭言>「理工学徒の動員」5  
大河内正敏 「戦力増強の根本問題」6—12  
金子鷹之助 「アルミニウム工業の国産資源  
と国産技術」13—20  
菊池麟平 「学徒勤労報国隊」21—25  
帆足計, 住田正一, 西原藤吉, 小峰柳多  
<座談会>「決戦行政と生産増強」26—38  
山岡克巳 「工場結核対策とBCG予防接種」  
39—45  
加福均三 <隨筆>「『はやさ』と『おそさ』」  
46—47  
柴田健児 <隨筆>「硝子隨談」47—49  
辻 二郎 「時の課題」50—51  
本多静雄, 仁科芳雄, 内田俊一, 佐々木重雄,  
矢崎為一, 会田軍太夫, 西堀栄三郎, 伊勢  
賢作, 辻二郎 <座談会>「科学技術の総  
力体制」52—69  
桜井芳人 「鈴木梅太郎先生を憶う」70—71  
二国二郎 「鈴木梅太郎先生のことども」71  
—73  
朝倉希一, 坂東舜一, 田中弘, 橋口義男, 鶴  
五郎, 川上嘉市 「軍需省への要望」74—  
77  
綴 研一 <生産指標>「決戦生産行政の指  
向」78—84  
黒田正夫 <論文推薦>「田中豊『空気銃弾  
に依るパラフィンの破壊試験』」85  
大江星海 「米航空乗員養成の高速化」86—  
89  
森 鋭男 「列国科学研究動員の情勢」90—  
91  
村尾力太郎 「アメリカ航空工業の様相  
(二)」92—97

東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「岸  
敬二郎」98—103

7 卷12号 (1943年12月号)

- 大河内正敏 「専用工作機械礼讃」7—12  
井上春成 「研究と工業化」13—16  
井上兼雄 「戦時下の栄養問題」17—22  
綴 研一 <生産指標>「軍需省発足後の諸  
問題」23—28  
田村民平・富永能雄・湯本昇・金子鷹之助  
<座談会>「資源の戦力化」30—47  
山川良一 「石炭増産への認識」48—51  
池田さぶろ 「生産戦線を行く」52—55  
高瀬太郎 「列国戦時経済の現状——ドイツ」  
56—62  
角田常春 「列国戦時経済の現状——アメリ  
カ」63—69  
藤田一雄 「列国戦時経済の現状——英国」  
69—74  
菅原基一 「満州の科学技術団体」75—81  
森 鋭男 「今秋の金属・鉄鋼学会について」  
82—83  
東条恒雄〔三枝博音〕 <技術家小伝>「平  
賀義美」84—89  
村尾力太郎 「アメリカ航空工業の様相  
(三)」90—95

8 卷1号 (1944年1月号)

- 大河内正敏 「航空機増産の技術的検討」7  
—11  
河野密・藤林敬三・渡部旭・鈴木貞子・和田  
隆造 <座談会>「生産決戦と生活動員」  
12—25  
大野道雄 「決戦下の金属資源と技術」26—

32

綴 研一 <生産指標>「量には量を以て」

33—38

竹谷平造 「新興材料としての強化木材」39

—43

泉 岩太 「合板技術の諸問題」44—48

長沢不二男 「強化木材と接着剤の現状」49

—53

木原芳次郎 <随筆>「戦時食糧の認識」54

—55

松浦四郎 <随筆>「子どもについて」55—

57

野村七録 <随筆>「生物と工業」57—58

南井慶二 「冬の欧州戦局」59—63

菅原基一 「満州の科学技術団体」64—71

鈴木重康 「大量生産と自動車工業の貢献」

72—75

池田さぶろ 「戦う農村工業地帯(一)」76

—81

阿閉吉男 「近代ドイツ工業技術の成立

(一)」82—88

村尾力太郎 「アメリカ航空工業の様相

(四)」89—95

### 8 卷 2 号 (1944 年 2 月号)

大河内正敏 「資材労務の節約と科学技術」

7—13

沖中恒幸 「航空戦と経済構造」14—21

吉城肇蔚 「航空機生産方式の革新」22—29

田村民平 「戦時生産動員の根本問題」30—

33

笠村 確 <随筆>「プールの利用」34—35

山本洋一 <随筆>「土金の伝と銹」35—37

佐藤敬二 <随筆>「木材の増産をめぐって」

37—38

篠田軍治 <随筆>「術語と日本科学技術の  
性格」38—39

渡辺恵弘 「研究と政治」40—41

中野正幸 「勤労配置と国民徴用」42—46

本位田祥男 「労働の本義と徴用問題」46—

52

河野 密 「徴用制度の基礎と運用」52—55

南 岩男 「応徴戦士に告ぐ」56—61

山本春男 <生産指標>「国民動員態勢の飛  
躍」62—66

寺西五郎 「焦躁アメリカの現段階」67—71

深谷 甫 「敵米軍の上陸用舟艇」72—75

森川規矩 「決戦下の共同炊事」76—81

池田さぶろ 「戦う農村工業地帯(二)」82

—87

阿閉吉男 「近代ドイツ工業技術の成立(二)」

88—95

### 8 卷 3 号 (1944 年 3 月号)

大河内正敏 「急速増産と鍛圧機械の動員」

7—11

島 恭彦 「科学技術の民族的基盤」12—18

山本春男 <生産指標>「企業集団の本質」

19—23

武村忠雄・小沢肇・菊池春雄 <座談会>

「戦争と生産力」24—39

稲村耕雄 「科学技術総力の組織化」40—45

横尾美智子 「女子勤労への認識」46—49

池田きみ枝 「女子勤労管理の前進」50—53

田辺 泰 「工員の住居をめぐりて」54—57

岸上冬彦 <随筆>「随筆の効用」58—59

須之内文雄 <随筆>「科学技術の進出路」

59—60



番場恒夫 <随筆>「鉄仏」60—61  
谷口成之 「完全防空都市の建設」62—67  
宇梶洋司 「米国化学工業の現勢」68—73  
石野国太郎 「交替制就業の問題」74—76  
池田さぶろ 「日の丸土木工作隊」77—81  
村尾力太郎 「アメリカ航空工業の様相  
(五)」82—87  
阿閉吉男 「第一次大戦下のドイツ工業技術  
(一)」88—95

8 卷 4 号 ( 1944 年 4 月号 )

大河内正敏 「軍動員と労務動員の調和」5  
—11  
寺田弥吉 「戦力増強決戦」12—18  
多田礼吉 「戦局打開と科学的生産」19—25  
長谷川如是閑 「戦時の生活の倫理」26—32  
清水 伸 「経済国民組織論」33—39  
藤林敬三 「勤労の主体性と国民運動」40—  
46  
大橋静市 「決戦政治体制と国民組織」47—  
52  
大久保満彦 「国民生活と国民組織」53—60  
山本春男 <生産指標>「国家総力戦と大本  
営生産の必然」61—65  
長谷川春子 <生産現場報告>「カッターの  
切れあじ」66—68  
中谷ミユキ <生産現場報告>「女性群像」  
68—70  
奥畑 稔 「米英の対日戦略論」71—75  
樋浦信衛 「国民勤労働員署の記」76—80  
阿閉吉男 「第一次大戦下のドイツ工業技術  
(二)」81—87

8 卷 5 号 ( 1944 年 5 月号 )

大河内正敏 「軍需会社と専門生産」3—7  
加藤精一 「生産企画の基本問題」8—13  
清水 伸 「勤労統率組織論」14—20  
佐藤富治 「決戦生産と勤労統率組織」21—  
26  
田畑巖穂 「政治・戦力・勤労統率組織」27  
—31  
菊池春雄 「総力戦管理の確立」32—35  
稲村耕雄 <科学技術時評>「単・色・光」  
36—37  
桐原葆見 「女子勤労の指導」38—42  
山本春雄 <生産指標>「工員月給制論の吟  
味」43—47  
菊池麟平 「廃品回収の科学的基礎」48—50  
小峰柳多 「家庭工場と隣組工場」51—56  
阿閉吉男 「インフレーション下のドイツ工  
業技術(一)」57—63

8 卷 6 号 ( 1944 年 6 月号 )

大河内正敏 「量産科学と量産技術」1—3  
藤田 清 「総力戦の把握」4—9  
沖中恒幸 「総力戦に於ける生産体制」10—  
16  
大橋静市 「総力戦の現段階と勤労問題」17  
—22  
足原武一 「航空技術と航空戦法」23—27  
須之内文雄 「計画と科学技術」28—33  
稲村耕雄 <科学技術時評>「単・色・光」  
34—35  
安藤政吉 「日本の給与実施の具体案」36—  
44  
乗富丈夫 「労学一体の構想」45—48  
山本春男 <生産指標>「勤労統率組織の課

題」49—52

後藤正夫 「列国科学技術行政の比較」53—57

阿閉吉男 「インフレーション下のドイツ工業技術(二)」58—63

### 8 卷 7 号 (1944年 7 月号)

大河内正敏 「戦時量産経営論」1—3

中林貞男 「技術組織と勤労組織」4—8

渡辺泰造 「現場技術の隘路打破と職制組織の推進」9—13

河野道男 「現有設備と現有労務活用の急務」14—18

相沢次郎 「生産能率と労務管理」19—24

相沢春蔵 「工場資材活用の具体方法」25—28

大久保満彦 「戦う農村の記」29—33

広瀬道次郎 「ドイツ資源対策の成果」34—39

稲村耕雄 <科学技術時評>「単・色・光」40—41

山本春男 <生産指標>「学徒動員の諸問題」42—45

木原芳次郎 「戦時食の新形態」46—49

阿閉吉男 「産業合理化下のドイツ工業技術(一)」50—55

### 8 卷 8 号 (1944年 8 月号)

大河内正敏 「資材節約と労務の関係」1—3

金子鷹之助 「決戦資源の新検討——資源計画の総合性」4—8

加藤精一 「決戦資源の新検討——製鋼」8—10

安生浩二 「決戦資源の新検討——アルミニウム」10—13

小林正美 「決戦資源の新検討——マグネシウム」13—15

山田正一 「決戦資源の新検討——葡萄」15—17

木原芳次郎 「決戦資源の新検討——食糧」17—19

阿部松治 「決戦資源の新検討——繊維」19—20

高宮 晋 「企業に於ける資本と経営」21—25

稲村耕雄 <科学技術時評>「単・色・光」26—27

武田晴爾 「交替制実施の重点」28—32

前川正男 「機械生産性の効率化」33—37

福永健司 「学徒と挺身隊の運用方策」38—41

上田武人 「協力工場活用の方途」42—45

山本春男 <生産指標>「企業体制刷新論に寄す」46—49

阿閉吉男 「産業合理化下のドイツ工業技術(二)」50—55

### 8 卷 9 号 (1944年 9 月号)

大河内正敏 「敵の量産方式を知れ」1—3

土屋 清 「生産攻勢と技術総動員」4—9

平田富太郎 「国民組織の決戦編成」10—13

安藤政吉 「最低生活確保とその具体策」14—18

木村介次 「生産陣頭感」19—21

稲村耕雄・森田忠孝・立花次郎・会田軍太夫・井上啓次郎・菅原甚一 <座談会>「技術戦の勝利を目指して」22—34

山本春男 <生産指標>「経営幹部の勤労責任」35—38  
山田 穆 「流れ作業と未熟練工」39—43  
匠 堯胤次 「内戦作戦論」44—47  
稲村耕雄 <科学技術時評>「単・色・光」48—49  
阿閉吉男 「世界恐慌下のドイツ工業技術」50—55

8 卷10号(1944年10月号)

大河内正敏 「作戦と生産」1—4  
清水 伸 「決戦指導者論」5—9  
木村禧八郎・郷司浩平・菱山辰一・大橋静市  
<座談会>「生産責任を達成せよ」10—22  
村尾力太郎 「大量生産と生産管理」23—27  
稲村耕雄 <科学技術時評>「単・色・光」28—29  
村山公三 「米ソ圧力下の英国」30—35  
角田常春 「米軍需生産の危機」36—42  
貴志三郎 <生産時言>「ここに隘路がある」43—45  
今泉静江 「転換工場の女子勤労者と語る」46—49  
阿閉吉男 「第一次四箇年計画下のドイツ工業技術(一)」50—55

8 卷11号(1944年11月号)

大河内正敏 「富国強兵論の過誤を正し、改めて統制経済の要を述べ」1—3  
松浦四郎 「航空機大量生産論」4—8  
立花次郎 「国力総動員と科学技術運動」9—14  
菱山辰一 「産報運動を論ず」15—21  
稲村耕雄 <科学技術時評>「単・色・光」

22—23

小峰柳多 「家庭工場の組織化」24—29  
相沢次郎 「現場技術の革新」30—35  
貴志三郎 <生産時言>「勤労者心理を把握せよ」36—39  
桜井芳人 「粉食の問題」40—44  
氏冢文弥 「防空地下工場」45—49  
阿閉吉男 「第一次四ヶ年計画下のドイツ工業技術(二)」50—55

8 卷12号(1944年12月号)

大河内正敏・大野信三 <対談>「世界戦の段階と生産態勢」1—13  
飯倉亀太郎 「戦力の科学的再動員」14—19  
田畑敏穂 「総合計画局と内閣顧問制」20—24  
山田菊夫 「遊休機械の原因と対策」25—29  
貴志三郎 <生産時言>「勤労即教育ということへの反省」30—33  
丸山直一 「アメリカの数字戦術」34—37  
前川正男 「航空機工場の女子学徒」38—41  
稲村耕雄 <科学技術時評>「単・色・光」42—43  
加藤常吉 「学徒・教師・工場をめぐる二三の問題」44—48  
阿閉吉男 「第二次四箇年計画下のドイツ工業技術(一)」49—55

9 卷1号(1945年1月号)

大河内正敏 「航空機増産と婦人労務」1—3  
毛里英於菟・前川清・渡辺泰造・鈴木嘉一郎  
<座談会>「戦力造出の生産組織」4—15  
貴志三郎 <生産時言>「神々の論理」16—

19  
多田礼吉 「戦局の推移と新兵器」20—26  
田上辰雄 「工場防空の緊急措置」27—31  
岡田益吉 「生産防空と戦時経済」32—35  
牛場信彦 「ドイツはこうして空襲と戦っている」36—39  
田沼 征 「南村氏の新企業方式」40—45  
松浦四郎 「時評」46—47  
阿閉吉男 「第二次四箇年計画下のドイツ工業技術(二)」48—55

9 卷 2 号 ( 1945 年 2 月号 )

大河内正敏 「軍需金融と生産第一主義」1—3  
大橋静市 「企業形態論批判」4—9  
菅野 豊 「戦力と技術」10—15  
松浦四郎 「時評」16—17  
河野道男 「中小工業生産論」18—25  
貴志三郎 <生産時言>「国民的勤勞の形成」26—29

木村禧八郎 「科学技術と経済政策」30—34  
浜田常二良 「ドイツ総力動員の教訓」35—39  
山本菊夫 「現場隘路直言集(一)」40—43  
高木秀玄 「勤勞統計の必要性」44—45  
金子燧之助 「決戦資源と技術(第一回)」48—55

9 卷 3 号 ( 休刊 )

休刊 [ 9 卷 4 号の社告をみよ ]

9 卷 4 号 ( 1945 年 4 ・ 5 月号 )

大河内正敏 「航空機増産隘路打開策」3—5  
諸井貫一・立花次郎・隈部一雄・前川正男  
<座談会>「空襲下の大量生産」6—17  
山本菊夫 「現場隘路直言集(二)」18—19  
村山公三 「ドイツ崩壊後の欧州」20—23  
大橋静市 「国民義勇隊の核心問題」27—31

神奈川県川崎市生田 4764

専修大学社会科学研究所 電話 (044) 91-7131

内線 [63]

(発行者) 石 渡 貞 雄